

にぶい黄褐色砂質土で、0.5~1mmの砂粒を比較的多く含む。出土遺物はない。

② 柱穴・小穴

SP-232(図58)は径約50cmの円形で、径約15cmの柱痕を伴う。柱穴検出面では20cmの自然礫があり、中世土師器が出土している。この他のいずれも柱穴・小穴で、遺物を伴った場合もあるが、ほとんどが中世土師器等の細片で、固化できたのは4点のみ(図59)。1はSP-235出土の土師器の坏口縁部で、端部を丸く取る。2・3は土師器の皿底部。2がSP-206出土、3がSP-218出土で回転糸切り。4はSP-251出土の被熱粘土塊で、外面はハケメ状の調整痕が見られる。

(9) II Ee区(図60~62・69、図版13-4~6)

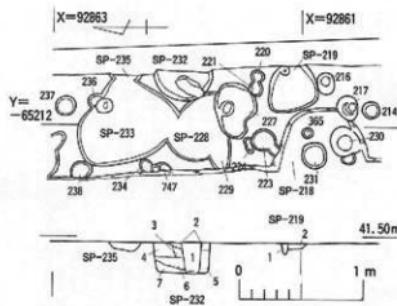
農学部3号館東側の20m弱の区間。南北は管路に伴う亂灘で画されている。南北はⅠ層下でⅢ層が、北半ではⅡ層下でⅢ層が広がり、ともに以南と比べてⅢ層・遺構の残存は良い。出土遺物も少なくない(図64、図版28-1)。とりわけ、南端の5m弱の範囲は、Ⅲ層でも上部のⅢ-1層よりも黒味が強い粘質土であるⅢ-2層が安定して存在する。Ⅲ-2層上面あるいはⅣ層上面で検出した遺構は、SD-36・39と柱穴・小穴7基前後であり、Ⅲ-2層下で検出した遺構は、SD-37とSK-43、および小穴6基である。

① SD-36(図61)

SD-36は、II Ee区の南部を、北北東~南南西方向に延びる溝約1.2mの溝で、北側に深い二段状。南部で南北方向にやや方向をふる。埋土は灰黄褐色から褐灰色の砂質土。固化できた出土遺物は、20~22の3点。20は土師器の坏もしくは皿底部で、外底面は回転糸切り痕が残る。21も土師器皿底部。22は羽釜口縁部で、端部よりやや下がって断面三角形の突帯を貼り付ける。出土遺物から、SD-36は14世紀前半。

② SD-39(図62)

SD-39も、北北東~南南西方向に延びる溝で、約2mの距離を挟んでSD-36の北西側に並行する可能性が高い。北部で南北方向にやや方向をふる。埋土は黒褐色から暗褐色の砂質土。固化できた遺物は、23~27の5点。23は土師器の皿口縁部。口縁部は直立し端部はやや肥厚する。24は羽釜の口縁部。口縁端よりわずかに下がって突帯を貼り付ける。25は羽釜底部で、26・27は羽釜の脚部。出土遺物から、SD-39も14世紀前半。



SP-219

- 1 黒褐色(10YR3/2)砂質土。
- 2 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土。IV層ブロックが多く混じる。

SP-232

- 1 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。IV層の微細ブロックがわずかに混じる。やや砂質が強い。土器片を含む。
- 2 灰黄褐色(10YR5/2)砂質土。砂質が強く、しまりあり。
- 3 黑褐色(10YR3/2)砂質土。ブロック状に入る。
- 4 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。IV層ブロックを少し含み、しまりあり。
- 5 にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土。3cmのIV層ブロックを多く含み、しまりあり。
- 6 黄褐色(10YR4/2)砂質土。砂粒はやや細かく、粘性あり。
- 7 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや粘性があり、炭化物を少し含む。

SP-235

- 灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。砂粒がやや細かい。

図58 SP-232他実測図(縮尺1/40)
(遺構名「SP-」一部省略)

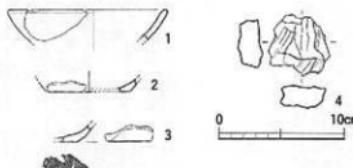


図59 II Wd区出土遺物実測図(縮尺1/4)

③ SD-37(図61、図版13-7)

X=92879付近を、南北幅1.2m前後で東西方向に延びると推定される溝。西壁際ではやや幅を広げるが、断面は基本的にV字形に近い逆台形で、深さ60cmを越える。埋土は黒色から黒褐色を中心とした粘質土である。出土遺物は、上からの混じり込みと見られる中世土師器の細片がわずかにあるのみ。

④ SK-43(図61、図版13-8)

SD-37の北側にある、南北幅約1.7m・深さ約10cmの浅い皿状の土壤。Ⅲ-2層の下で検出できたが、SK

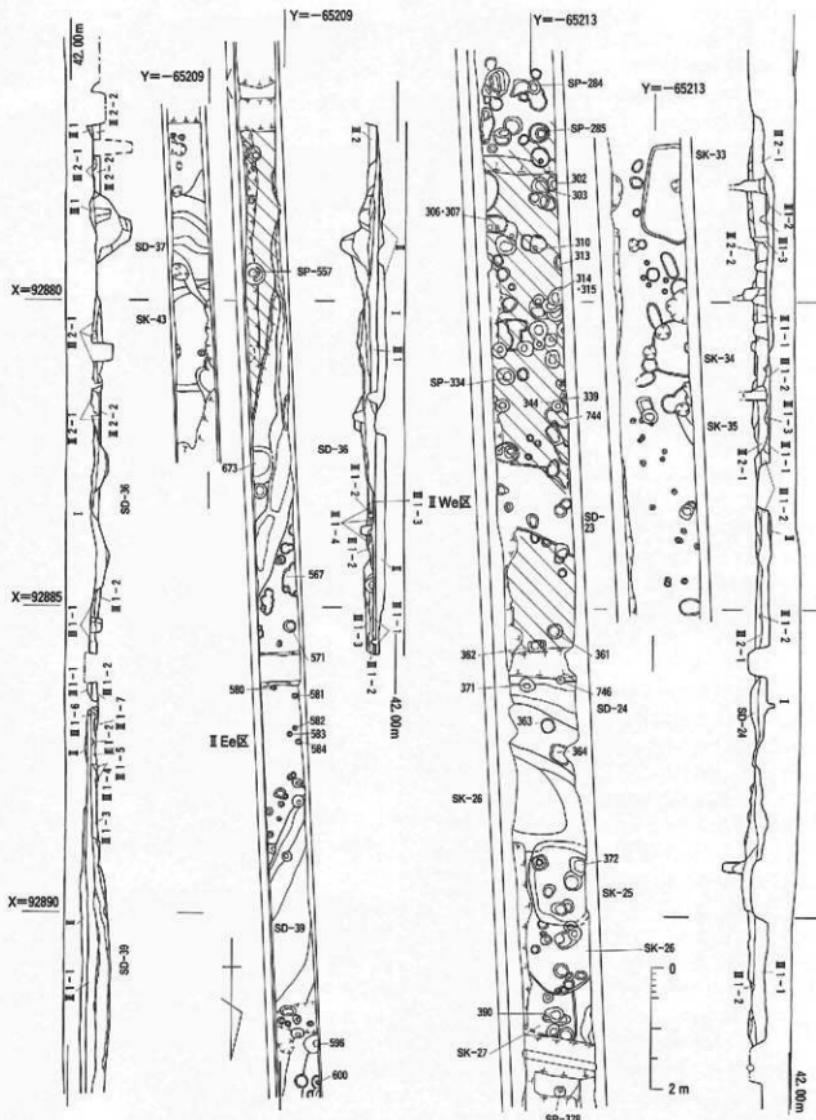


図60 II区実測図(6) (縮尺 1/80) (造構名「SP-」一部省略)

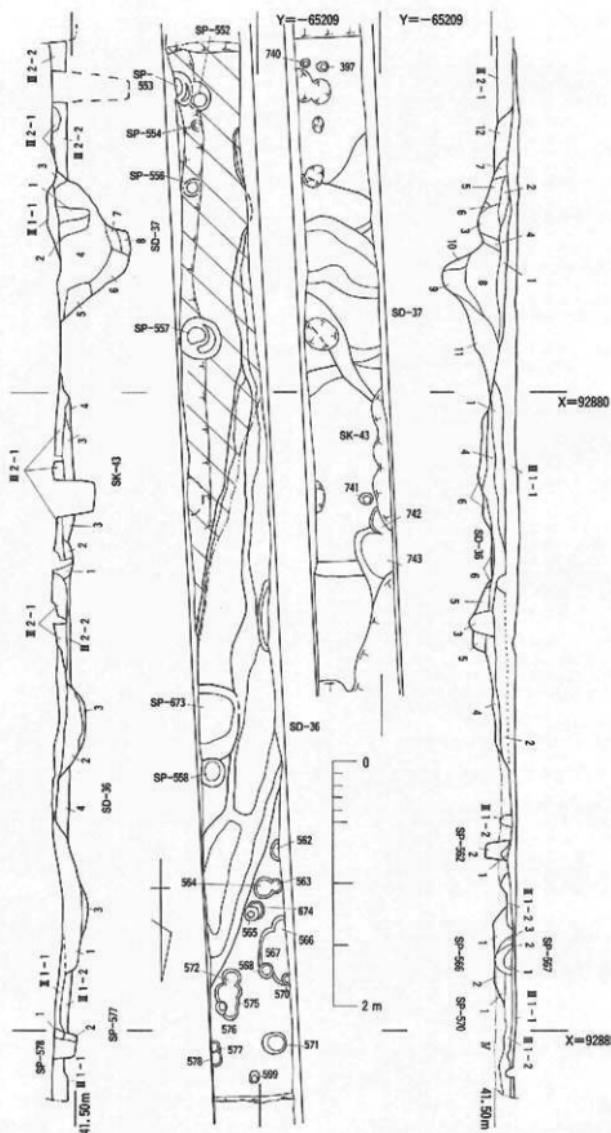


図61 II Ee区実測図(1) (縮尺 1/40) (遺構名「SP-」一部省略)

図61 土層注記

東壁土層

Ⅲ 1-1

褐色 (10YR4/1) 砂質土。褐色 (7,5YR4/6) 土の微小なブロックを多く含む。しまりあり。

灰黃褐色 (10YR4/2) 砂質土。赤褐色 (5YR4/6) 土の微小なブロックを含む。砂粒は細かく、均質。

Ⅲ 1-2

Ⅲ 1-1 層にⅣ層の1cmのブロックを多く含んだ層。

Ⅲ 2-1

黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。Ⅳ層の微小なブロックを含む。粘性あり。

黒色 (10YR1/2) 砂質土。褐色味を帯びる。8mmの礫をわずかに含む。

黒褐色 (10YR2/1) 砂質土。Ⅳ層と赤褐色 (5YR4/6) 砂質土が混じる。わずかに粘性をもち、しまりあり。やや灰色味を帯びる。

Ⅲ 2-2

黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。Ⅳ層と赤褐色 (5YR4/6) 土が混じる。わずかに粘性をもち、しまりあり。やや灰色味を帯びる。

黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。Ⅲ 2-1 層の砂質土とⅣ層が斑らに混じる。Ⅲ 2-1 層に比べ、粘性は強い。砂粒は細かい。

SD-36

1 黄褐色 (10YR4/2) 砂質土。2mmの礫を含む。炭化物を少し含む。明黄褐色土の互層。

2 梅灰色 (10YR4/1) 砂質土。5mmの礫や炭化物を少し含む。

3 黑褐色 (10YR4/1) 砂質土。1層に比べ、やや明るい色調。

4 梅灰色 (10YR4/1) 砂質土。1層に比べ、やや明るい色調。

5 黑褐色 (10YR4/1) 砂質土。Ⅳ層の微小なブロックを含む。やや粘性あり。

SD-37

1 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。黒色 (10YR2/1) 砂質土とⅢ 1-1 層の褐色 (10YR4/1) 砂質土の互層。

2 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。黒色 (10YR2/1) 砂質土とⅢ 1-1 層の褐色 (10YR4/1) 砂質土の互層。

3 黑色 (10YR2/1) 砂質土。砂粒は細かく、均質。

4 黑色 (10YR2/1) 砂質土。褐色 (7,5YR4/6) 土の微小なブロックを多く含む。

5 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土。4層とⅣ層が斑らに混じる。しまりあり。部分的に砂質土を認める。

6 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。赤黒味を帯びる。Ⅳ層の微小なブロックと黒色 (10YR2/1) 砂質土がわずかに混じる。粘性は強い。

7 喧褐色 (10YR3/3) 砂質土。Ⅳ層のブロックが混じる。

8 黃褐色 (10YR5/6) 砂質土。粘性は非常に強い。

SK-43

1 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。Ⅳ層の微小なブロックを含む。粘性は弱い。

2 黄褐色 (10YR4/2) 砂質土。Ⅲ 2-1 層とⅣ層が混じり、色調は斑らでやや粘性あり。

3 褐色 (10YR4/4) 砂質土。全体にⅢ 2-1 層が混じり、黒味を帯びる。Ⅳ層の5mmの円形ブロックを含む。

4 にい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。やや灰黒味を帯びる。1cmの角ばった礫をわずかに含む。しまりあり。

SP-577

1 Ⅲ 1-1 層とは同じだが、やや粘性あり。

2 黑褐色 (10YR4/2) 砂質土。やや黄色味を帯びる。

SP-578

褐灰色 (10YR5/1) 砂質土。下部はやや暗い色調。明黄褐色土が混じる。

西壁土層

Ⅲ 1-1

黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。

Ⅲ 1-2

黒褐色 (10YR1,7/1) 砂質土。Ⅲ 1-1 層が混じる。

黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色土がわずかに混じる。

Ⅲ 2-1

黑色 (10YR2/1) 砂質土。Ⅲ 1-1 層がラミナ状に入り、Ⅳ 層がブロック状にわずかに混じる。

SD-36

1 黄褐色土 (10YR5/2) 砂質土。明褐色土が混じる。炭化物を少し含み、しまりあり。

2 黄褐色 (10YR4/2) 砂質土。2mmの礫と炭化物を含む。

明褐色土が混じる。

3 2層とは同じだが、粘性あり。

4 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。黄褐色味を帯びる。Ⅳ層と明褐色土の微小なブロックを多く含む。粘性あり。

5 4層とⅣ層の互層。

6 黑褐色 (10YR4/1) 砂質土。Ⅳ層のブロックと黒色土のブロックを含む。粘性あり。

SD-37

1 Ⅲ 1-1 層に色調や夾雜物は似るが、砂粒は細かく、わずかに粘性あり。

2 黑色 (10YR1,7/1) 砂質土と5層が混じる。粘性は強い。

3 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。粘性はやや弱く、カカフを感じた。

4 3層にⅣ層が混じる。

5 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。Ⅳ層の5mmの円形ブロックを含む。

6 にい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。Ⅳ層が混じる。

7 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。Ⅳ層の微小なブロックを含み、やや粘性あり。

8 黑色 (10YR2/1) 砂質土。にい黄褐色 (7,5YR5/4) 土の微小なブロックを多く含む。

9 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。赤黒味を帯び、Ⅳ層の微小なブロックと3層がわずかに混じる。粘性は強い。

10 黄褐色 (10YR5/6) 砂質土。種は全く混じらず、粘性は非常に強い。

11 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。Ⅳ層がかなり混じり、部分的に黄色味を帯びる。

12 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。Ⅳ層の微小なブロックを含み、黑色土がわずかに混じる。

SP-562

1 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。Ⅳ層の5mmの円形ブロックと種を含む。

2 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。しまりあり。やや粘性あり。

SP-566

灰褐色 (10YR4/2) 砂質土。Ⅳ層の1cmの円形ブロックを含む。

SP-567

1 黑色 (10YR1,7/1) 砂質土。2層が混じる。

2 黑褐色 (10YR4/2) 砂質土。Ⅳ層の1cmの円形ブロックを含む。

3 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。明褐色土が混じる。

SP-570

1 褐色 (10YR4/1) 砂質土。明褐色土が混じる。

2 Ⅲ 1-2 層とⅣ層との互層。

-43の埋土自体は褐色を中心とした砂質土。出土遺物はない。

⑤ 柱穴・小穴

柱穴・小穴は70基を越えて検出されているが、しっかりした規模をもつもの・遺物を作うものは少ない。

その中で、ⅡEe区北端に位置するSP-611は柱痕も明瞭に残る柱穴で(図63)、遺物も伴う。32~35がSP-611出土。32は土器器皿の口縁部で、緩やかに内湾し直口する。33は羽釜口縁部。口縁端部に接して突帶を貼り付ける。34は羽釜脚部。35は砂岩質の砥石片。SP

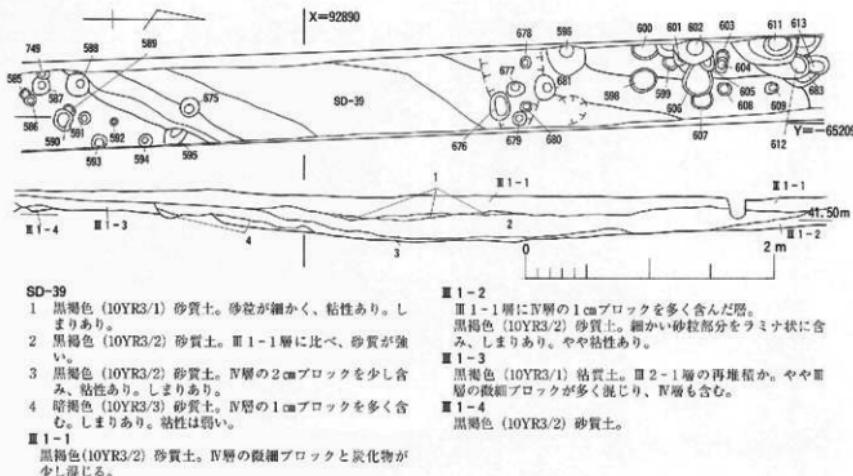


図62 II Ee区実測図(2) (縮尺1/40) (遺構名「SP-」省略)

-611は14世紀代後半の柱穴である。

この他、柱穴・小穴出土遺物で固化できたのは以下の通り。28・29がSP-604出土。28は坏底部で外底面に回転糸切り痕が残る。29は砂岩質の磨石の剥離片。30はSP-616出土の土師器皿底部。31はSP-571出土の羽釜口縁部である。

⑥ III層出土遺物

II Ee区出土遺物の内、III層出土として取り上げた遺物がある。このうち固化できたのが19点で、いずれもIII-1層出土。1は坏もしくは皿の底部で、回転糸切り。2・3は羽釜の口縁部。4~10は羽釜脚部とそれに接する体部片。11は越州窯系青磁碗の先折れ口縁部。12は青磁碗口縁部で端部にやや厚みをもつ。施釉は薄く、外面には蓮弁文花弁の一部が残る。13世紀中頃から14世紀後半。13は白磁碗の口縁部付近。12世紀中頃~後半。14も白磁の碗もしくは皿の口縁部。15は須恵質の壺胴部上半。胴部外面に横方向のハケメが見られる。16・17は土師質の鉢口縁部。ともに口縁端部が上下に肥厚し、横ナデにより面をなして凹む。18は東播系須恵器のこね鉢口縁部で、端部は上方に拡張されて面をなす。14世紀代。19は砂岩質の磨石の扁平な破断片。他に鉄滓1点(図115-12)も出土している。

III-1-2

III-1-1層にIV層の1cmブロックを多く含んだ層。黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。細かい砂粒部分をラミナ状に含み、しまりあり。やや粘性あり。

III-1-3

黒褐色 (10YR3/1) 粘質土。III-2-1層の再堆積か。ややIII層の微細ブロックが多く混じり、IV層も含む。

III-1-4

黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。

III-2-1

黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。IV層の微細ブロックと炭化物が少し混じる。

SP-611

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。III-1-1層に1cm前後のIV層ブロックが混じる。
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。IV層をラミナ状に幾層も含み、粘性あり。
- 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト。2cm前後のIV層ブロックを少し含み、粘性が強い。
- 4 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。ややシルト質。IV層の小ブロックがわずかに混じる。粘性あり。
- 5 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。3cm前後のIV層ブロックが多く混じる。やや粘性あり。

図63 SP-611実測図 (縮尺1/40)
(遺構名「SP-」一部省略)

(10) II We区 (図57・60・65・66、図版14)

農学部3号館西側の約22mの区間。南北は道路下に敷設された管路による擾乱で、明確に区画されている。I層下で安定してIII層が広がり、遺構もよく残り、出土遺物も少なくない(図67・68、図版28-2~5)。また、II Ee区同様に、南側のX=92877~92886の範囲は、III-2層が安定して存在した。III-2層上面あるいはIV層上面で検出した遺構は、SD-23・24、SK-25~27と110基を越える柱穴・小穴であり、III-2層下のIV

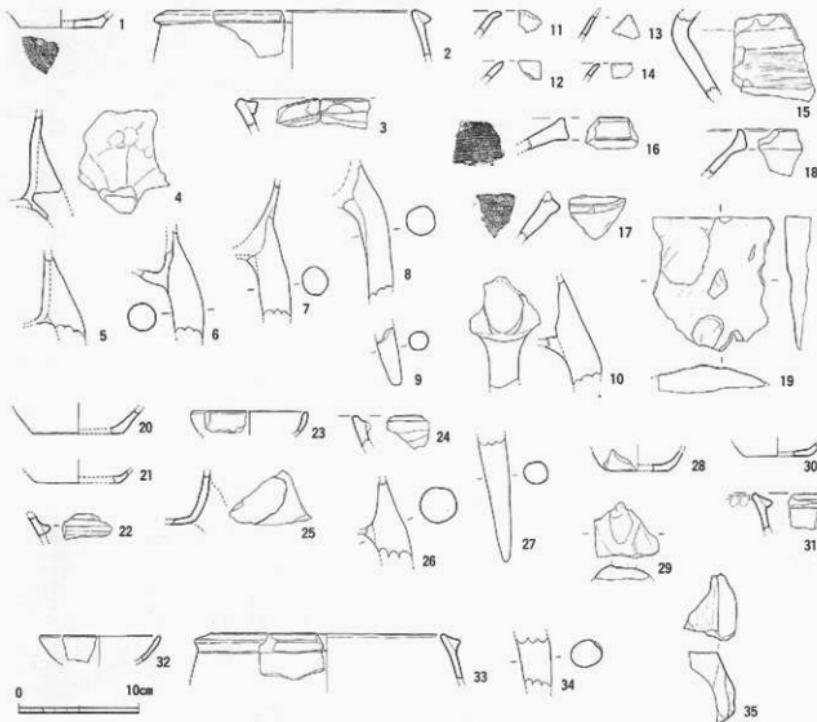


図64 II Ee区出土遺物実測図（縮尺1/4）

層上面で検出した造構は、SK-33～35と30数基の柱穴・小穴である。

① SD-23 (図65、図版14-3)

X=92883付近で、東西に調査区を横断する幅1m前後の溝状造構。埋土は下半約10cmが残るのみで、浅い逆台形状の断面。埋土は黒褐色の砂質土。底面で柱穴・小穴を数基検出した。出土遺物は中世土師器の細片のみ。

② SD-24 (図66、図版14-4)

X=92887付近で、東西に調査区を横断する溝状造構。東壁で幅約50cm・西壁で幅約80cmで、深さ15cm程度。断面は緩やかな逆台形状で、埋土は黒褐色の砂質土。出土遺物はない。

③ SK-25 (図66)

X=92889付近で検出した、南北約1.2m・東西推定1mの楕円形で深さ20cm弱の皿状土壌。埋土は褐灰色の砂質土。SK-26を切り、底面で数基の柱穴が検出されている。出土遺物の内、図化したのは6点(8・26～30)。8は土師器皿の口縁部。口径19.0cmで、外に大きく聞く。26は土師器皿の底部。27は羽釜脚部片。28は備前焼擂鉢の体部下半。29は緑色片岩の破片で、粗い研磨がなされている。30は染付の碗底部。外面に3条、内面に2条の施文帯が見られる。30の染付にはコンクリートが付着し、攪乱の混在。切り合いや出土遺物から、SK-25は14世紀以降。

④ SK-26 (図66)

SK-26はSK-25に切られ、南北に二分される。調査

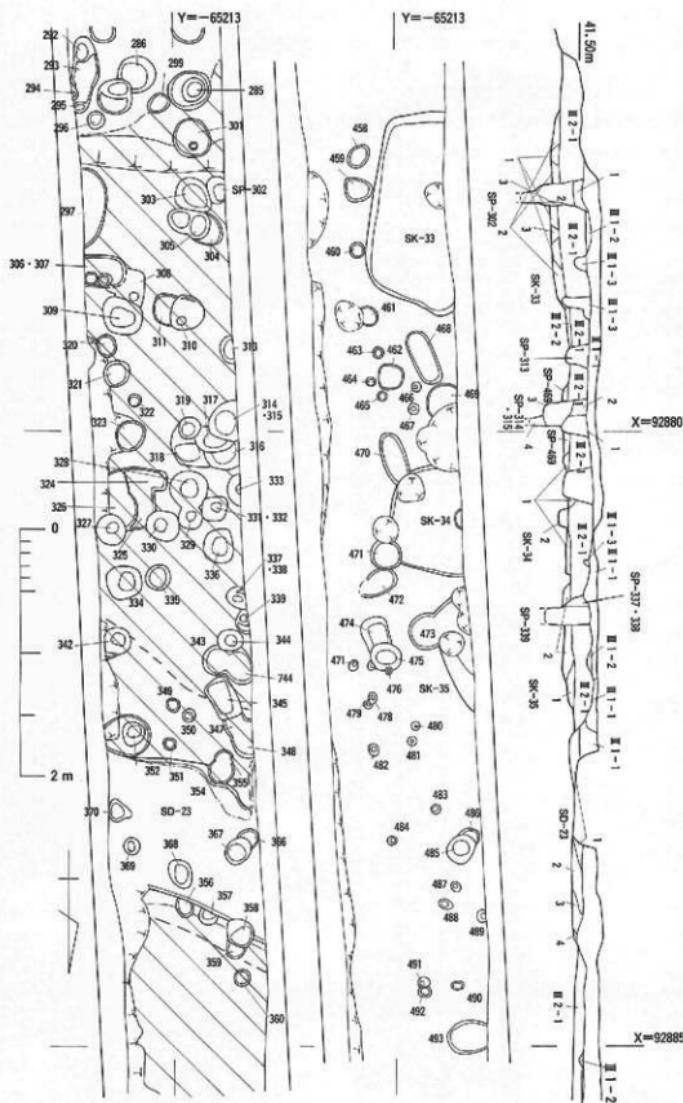


図65 II We区実測図(1) (縮尺 1/40) (遺構名「SP-」一部省略)

図65 土層注記

III-1-1
黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。2mmの礫をやや多く含む。

III-1-2
黒褐色～暗褐色 (10YR3/1～3/3) 砂質土。III-1-1層に比べ、やや明るい。III-2-1層を少し含み、やや粘性あり。

III-1-3
黒褐色 (10YR3/1～3/2) 砂質土。III-1-1層に比べ、砂粒がやや細かい。

1cmのIII-2-1層及びIV層のブロックを含み、粘性あり。

III-2-1
黒色 (10VR2/1) 粘質土。IV層の1cmブロックを少し含み、粘性あり。

III-2-2
黒褐色 (10YR3/1) 粘質土。

SD-23

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。砂粒は0.5mm以下と細かい。

2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。IV層の微細なブロックおよびIII-2-1層の5cmブロックが混じる。

3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。IV層の微細なブロックが混じる。

4 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。IV層の3cmブロックを含む。

SK-33

1 黒色 (10YR2/1) 粘質土。III-2-1層よりやや色が薄い。

2 黒褐色 (10YR2/3) 粘質土。III-2-1層よりやや粘性が強い。

3 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。IV層がブロック状に混じる。

SK-34

黒褐色 (10YR2/3) 粘質土。III-2-1層に比べ色薄い。粘性あり。IV層を含む。

SK-35

1 黒色 (10YR2/1) 粘質土。色はIII-2-1層より薄い。粘性が強い。

II 暗褐色 (10YR3/3) 粘質土。III-2-1層のブロックとIV層のブロックが混じる。粘性あり。

SP-302

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。III-1-1層と比べ、砂粒は細かい。III-2-1層、IV層の微細なブロックが少し混じる。やや粘性あり。

2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。III-2-1層・IV層の1mmブロックが混じる。やや粘性あり。

3 黑褐色 (10YR3/2) 粘質土。III-2-1層の3mmブロック中に混じる。粘性は強い。

SP-313

黒褐色 (10YR2/1) 砂質土。III-2-1層がやや多く混じる。粘性あり。IV層の細かいブロックが混じる。

SP-314-315

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。1mm前後の粗砂が少し混じる。

2 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。3cmの粗砂ブロックが混じる。しまりあり。

3 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。砂粒は細かく、やや粘性あり。IV層ブロックと2cmの炭化物が少し混じる。

4 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。1mm前後の粗砂とIV層に炭化物が少し混じる。やや粘性あり。

SP-333

黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。III-2-1層・IV層の2cmブロックが多く混じる。しまりあり。

SP-337-338

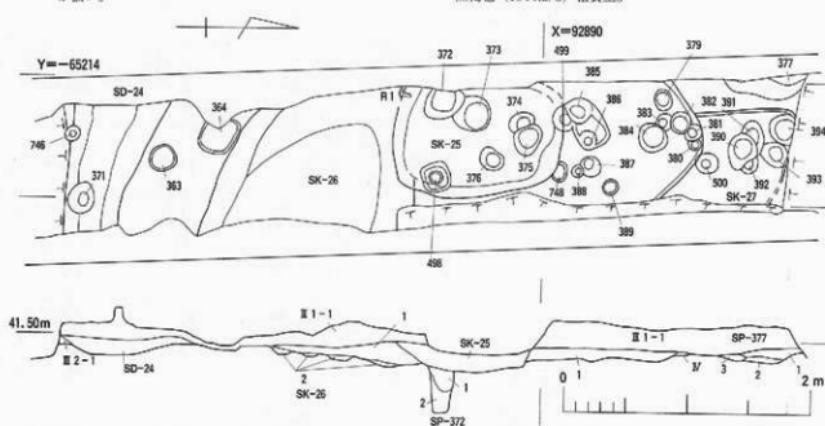
黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。SP-339層土に比べ、IV層ブロックが多く含む。しまりあり。

SP-339

黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。III-1-1層をベースにIII-2-1層・5cmのIV層ブロックが混じる。やや粘性あり。

SP-469

黒褐色 (10YR2/3) 砂質土。



III-1-1

黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。3mm程の礫をかなり多く含む。IV層ブロックが少し混じる。しまりあり。

III-2-1

黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。IV層のブロックを含む。

SD-24

黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。IV層の微細なブロックと炭化物を含み、粘性あり。

SK-25

褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。2mm程の礫を含み、1～5cmのIV層ブロックが多く混じる。ブロック状に混じる。

SK-26

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。III-1-1層との区別はつきに

くい。わずかに砂粒が多い。III-1-1層より砂粒は細かい。

2 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。3cmのIV層ブロックが混じる。しまりあり。

SP-377

1 褐灰 (10YR5/1) 砂質土。礫は2mm大。しまりは弱い。

2 灰黃褐色 (10YR4/2) 砂質土。III-1-1層より砂粒は細かいが、量は多い。

3 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂礫を含み、しまりあり。

SP-372

1 褐色 (10YR4/6) 粘質土。IV層がブロック状に入る。

2 灰黃褐色 (10YR4/2) 粘質土。

図66 II We区実測図(2) (縮尺1/40) (遺構名「SP-」一部省略)

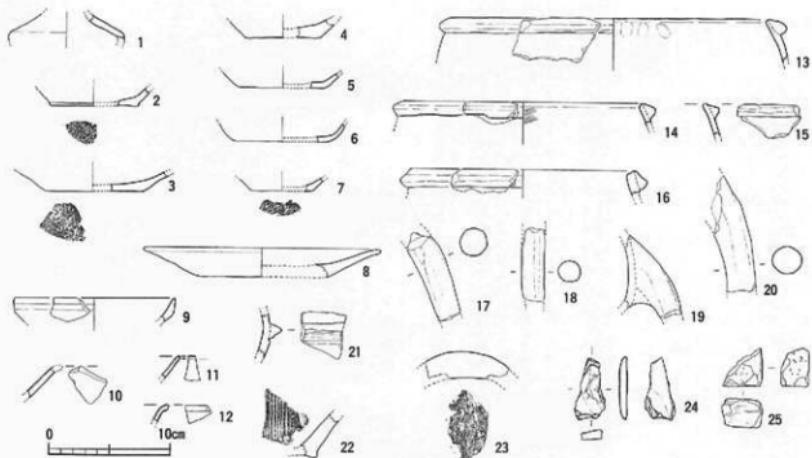


図67 II We区出土遺物実測図(1) (縮尺1/4)

区内で南北約4mの範囲に広がり、おそらくは北西—南東に斜行する4×3m程の隅丸長方形土壠と推定される。深さは20cm弱で、埋土は黒褐色から暗褐色の砂質土。北側の底面で柱穴数基が認められた。出土遺物から固化したのは8点(31~33、36~40)。31・32はSK-25北側の出土。31はSK-26内のSP-384出土で、古墳時代の須恵器壺蓋の口縁部。32は土師器皿底部。33・36~40はSK-25南側の出土。33はSK-25脇の西壁際でR1として取り上げた羽釜脚。36は須恵器壺蓋のつまみ。7世紀代。37・38は土師器の皿ないし坏の底部。外底面は回転糸切り。39・40は羽釜体部から脚部。以上から、SK-26も14世紀代の遺構である。

⑤ SK-27(図66)

SK-26の北側、II We区北端の攪乱との間にあり、深さ5cm程の土壤。底面で若干の柱穴が見られる。固化できた出土遺物は2点。34はSK-27内のSP-390出土の安山岩質の台石。表面が部分的に黒変する。35は土師器壺底部で、内外面ともナデ。

⑥ SK-33(図65)

SK-33はIII-2層下、X=92878付近で検出した。西側が調査区外に延びるが、南北1.5m・東西0.8m程の規模と推測され、深さは10cm以下と浅い。埋土は黒~暗褐色の粘質土。出土遺物はない。

⑦ SK-34(図65)

SK-34はIII-2層下、X=92881付近で検出した。南北長1m前後であるが、西側が調査区外に延びるため東西長は不明。深さは10cm以下と浅く、埋土は黒褐色の粘質土。形状・埋土から南側のSK-33とはほぼ同様の遺構と推定される。出土遺物はない。

⑧ SK-35(図65)

SK-34の北側、遺構の大半は調査区西外部に延びると推定される。深さは10cm前後で、埋土は黒褐~暗褐色の粘質土。やはり南側のSK-33・34と同様の遺構であろう。出土遺物はない。

⑨ 柱穴・小穴

II We区では150基近くの柱穴・小穴を検出しているが、明確な掘方・柱痕跡をもつものは少ない。SP-302、313、314・315、339、372などが西壁でしっかりと土層を確認できる柱穴であるが、SP-284、285、310、334、361等もしっかりととした深さの柱穴である。なお、III-2層下で見いだされた柱穴・小穴はいずれも浅い。

柱穴・小穴出土遺物の内、固化できたのは8点。41・42はSP-314・315出土の土師器皿底部。41は外底面回転糸切り。43・44はSP-306・307出土。43は羽釜口縁部で端部よりやや下に断面三角形の突帯を貼り付

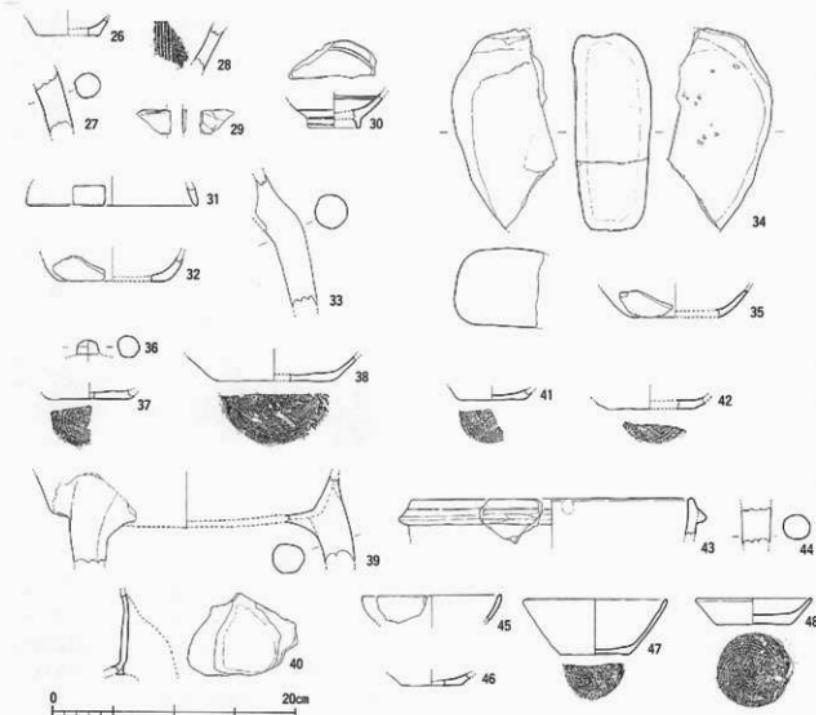


図68 II We区出土遺物実測図(2) (縮尺1/4)

ける。14世紀前半。44は羽釜脚部片。45はSP-310出土の土師器の壊口縁部。46はSP-344出土の土師器皿。回転糸切り痕が残り、13世紀以降。47はSP-303出土の土師器壊。体部・底面とも回転ナデが顕著。10世紀後半～11世紀前半。48はSP-285出土の土師器皿。口径9.2cmで、底部は回転糸切り痕が残る。底部から体部への立ち上がりが鋭く、14世紀代。

⑩ Ⅲ層出土遺物

II We区出土遺物の内、Ⅲ層出土として取り上げた遺物が多くある。このうち図化できたのは24点（1～7、9～25）で、Ⅲ-2層出土は含まない。1は須恵器の小壺。胴上位で大きく張り、頭部に向かって窄まる。

2～7は土師器壊ないし皿の底部。2・3・7の外底面に回転糸切りが見られ、4～6は底面ナデ。3は底

径8cmの大型品である。9は天目茶碗口縁部。10～12は青磁碗。10は端反りの口縁部。11は口縁が直線的に開く。13世紀前半。12は口縁先端で強く端反りする。14世紀代。13～16は羽釜の口縁部。いずれも口縁端部に接して突帯を貼り付ける。14世紀後半。17～20は羽釜脚部片。21は瓦質の羽釜の胴部片で、外面に断面三角形の突帯を貼り付ける。22は備前焼擂鉢の底部。14～15世紀代。23は丸瓦。凹面に布目がある。24は緑色片岩の板状素材。25は砂岩質砾石の破片。この他に、鏡1点（図115-8）と鉄滓1点（図115-13）も出土している。

(ii) Ⅱ Ef区 (図69・70・78、図版15)

テニスコート南半の西側約18mの区間。I層・II層下に安定してⅢ層が広がり、遺構も密集し、かつよく

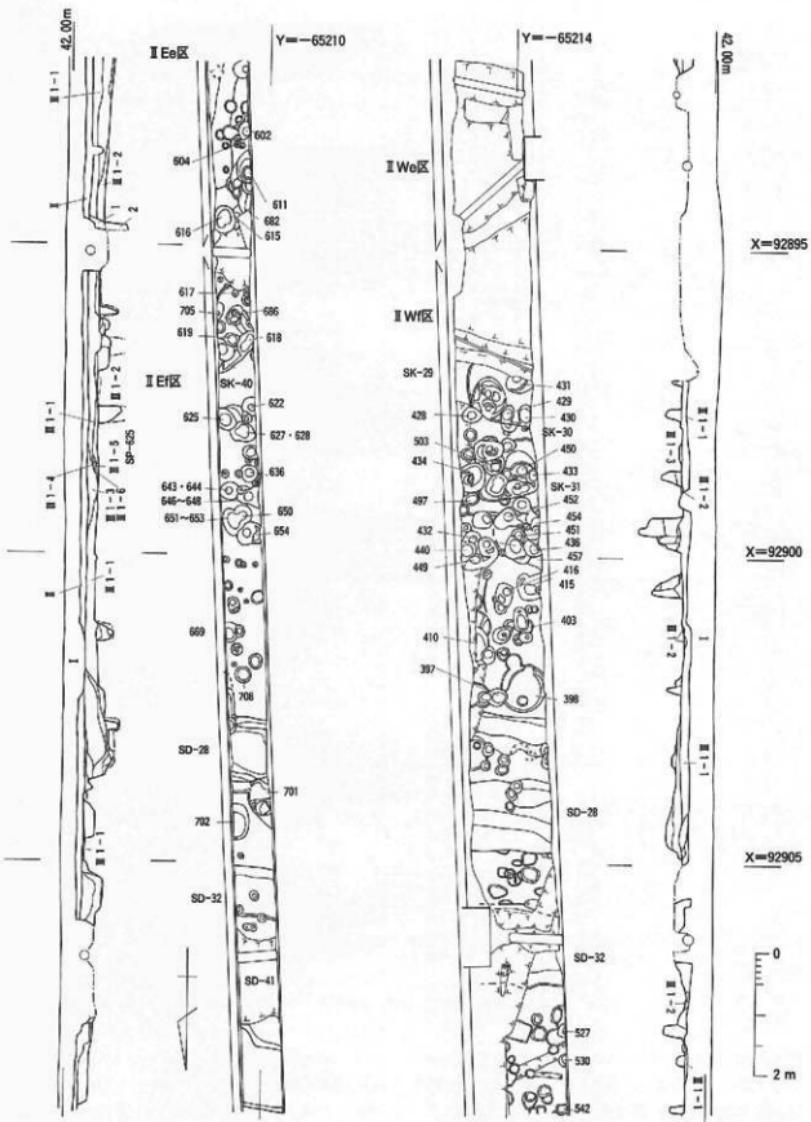


図69 II区実測図(7) (縮尺 1/80) (遺構名「SP-」一部省略)

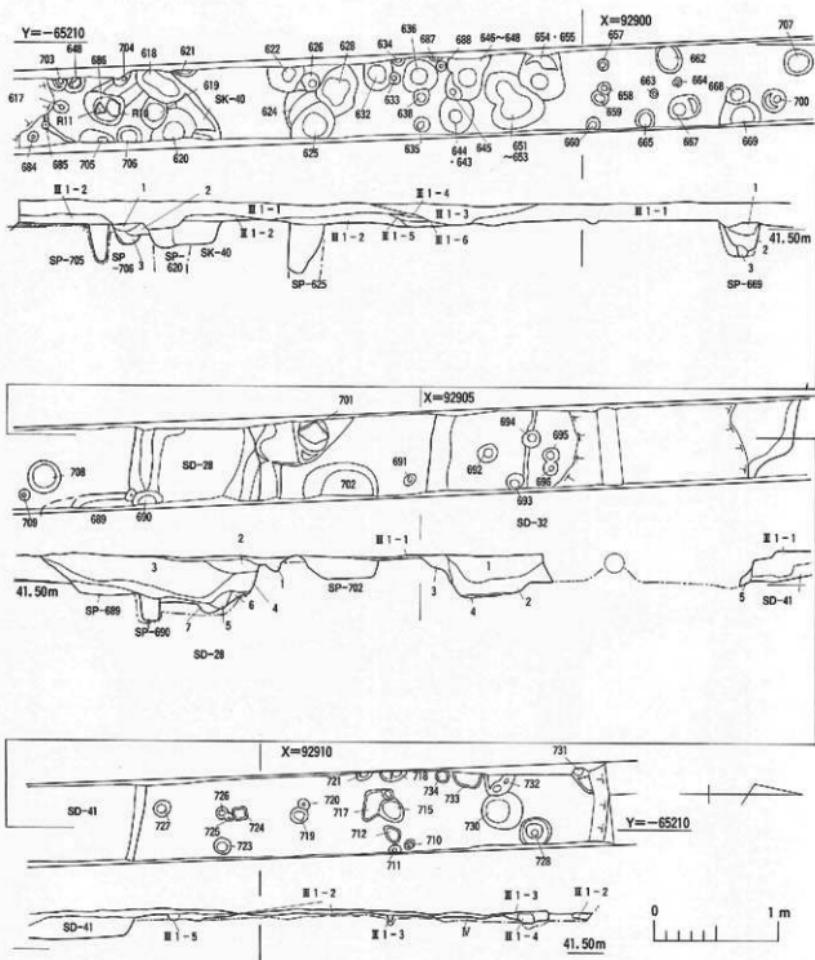


図70 II E1区実測図（縮尺1/40）（遺構名「SP-」一部省略）

残る。出土遺物も少なくない（図71・72、図版28-6・7）。IV層上面で検出した遺構は、SK-40、SD-28・32と80基弱の柱穴・小穴である。

① SK-40（図70）

II E1区の南端、幅1m程の北東-南西方向の土壌で

ある。SP-617~620に切られ、底面でSP-648、685、686、703~706を検出した。平均して20cm前後の深さである。SK-40の範囲内から出土した遺物で図化できたのは、SP-686出土の3点（27・29・30）。27はR10として取り上げ、29はR11として取り上げたものであ

図70 土層記号

I-1

黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。1mmの粗砂を極少量含む。やや灰色味を帯びる。

I-1-2

Ⅲ-1-1 層に酷似するが、わずかに粘性が強い。

黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。纏かい砂粒部分をラミナ状に含み、しまりあり。やや粘性あり。

黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。黒味を帯びる。1mmの粗砂をごく少含む。

III-1-3

Ⅲ-1-1層と同じ色調で、夾杂物も同様だが、やや灰色味を帯び、粘性が強いめ粘性は感じられない。

黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。Ⅳ層と赤褐色土の微小なブロックを含む。やや粘性あり。しまりあり。

III-1-4

黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。明褐色 (7.5YR5/6) の5mmブロックを含む。砂粒は細かく均質。しまりあり。

黒褐色 (10YR2/3) 砂質土。Ⅲ-1-3層と同じ土がブロック状に入っているが、量は少ない。

III-1-5

黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。Ⅲ-1-4層に似るが、やや灰色味を帯びる。

黒褐色 (10YR2/2) 砂質土と褐色 (10YR4/4) シルトが混じる。

III-1-6

黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。明褐色 (7.5YR5/6) 砂質土の5mmブロックを含む。砂粒は細かく均質。しまりあり。

SD-28

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。2mmの礫を多く含む。

2 暗褐色 (10YR3/4) 砂質土。2~3mmの礫を多く含む。

3 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。2~5mmの礫を多く含む。やや黒味を帯びる。

4 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。3層よりやや灰色味を帯びる。

5 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。やや褐色味を帯びる。

6 褐色 (10YR4/4) 粘質土。黒褐色 (10YR3/2) 粘質土が混じる。

7 褐色 (10YR4/4) 粘質土。黒褐色 (10YR3/2) 粘質土が混じる。

SD-32

1 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。ややサクサクした感じ。

2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。1層よりやや黒味を帯びる。

3 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。2mmの礫を多く含む。

4 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。サクサクしている。

5 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。サクサクしている。黒味を帯びる。

SK-40

Ⅲ-1-2層にⅣ層のブロックを多く含む。

SD-41

黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色の1cmのレンズ状ブロックをやや多く含む。1cmの角ばった炭化物を少し含む。

SP-620

SK-40に比べ、Ⅳ層のブロックは小さく、量も少ない。

SP-625

Ⅲ-2-2層にⅣ層のブロックを多く含む。

SP-669

1 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。2mmの礫を多く含む。

2 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。

3 黑褐色 (10YR2/1) 粘質土。礫を含まない。柱痕跡。

SP-689

黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。1mmの粗砂を多く含む。

SP-690

黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色の2~3cmの円形ブロックを少し含む。

SP-702

黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色の1cmのレンズ状ブロックをやや多く含む。1cmの角ばった炭化物を少し含む。

SP-705

黒褐色 (10YR2/3) 砂質土。Ⅳ層の微小なブロックと赤褐色 (5YR4/8) シルトの微小なブロックを含む。砂粒は細かく、やや粘性あり。

SP-706

1 SK-40層に比べ、Ⅳ層のブロックは小さく、量も少ない。

2 Ⅲ-1-1層とⅣ層の互層。

3 案褐色 (10YR5/1) 砂質土。Ⅳ層の1cmの円形ブロックを

わずかに含む。粘性あり。

る。なお、30はR10下からの出土と、SP-648出土が接合したものである。27は土師器の壊ないし皿。底部には回転糸切り後板目圧痕が見られる。13世紀以降。29は被熱粘土塊で、外側は赤変し胎土にはスサの痕跡が見られる。竈等の構造物の一端と見られる。30は花崗岩質の台石の破片。またSK-40出土の刀子1点(図115-2)もある。SK-40は14世紀前後。

(2) SD-28 (図70)

SD-28はX=92903付近で調査区を東西に横断する溝で、幅約1m、深さ約40cmの断面逆台形状を呈する。東縁で南側に屈曲して幅を増し、あるいはL字状のコーナー部分に当たるのかもしれない。埋土は黒褐色の砂質土。出土遺物から4点を図化した(20~23)。20・21は口縁端に突端をもつ羽釜の口縁部。22は脚部。23は備前焼の大甕の肩部片。いずれも14世紀後半。

(3) SD-32 (図70)

SD-32はSD-28の北側に約1.2mの間隔を空けて並

ぶ東西方向の溝。幅3m弱・深さ35cm前後の断面逆台形状である。埋土もやはり黒褐色砂質土。底面に数基の柱穴を確認している。出土遺物で図化できたのは42のみ。備前焼の片口鉢口縁部で、片口部にあたる。14世紀後半から15世紀。

(4) SD-41 (図70)

SD-41は、SD-32の北側を画する搅乱で南側を切られた遺構で、やはり東西方向の溝である。残る北側のみで幅1.3mを測り、深さは20cm前後とやや浅い。埋土は黒褐色の砂質土でSD-32にはほぼ一致するが、別遺構と判断した。出土遺物はない。

(5) 柱穴・小穴

80基弱の柱穴・小穴を検出しているが、特に密集が高いのは、SK-40を中心とした柱穴群である。その北にも柱穴は廻開するが、SD-41以北は特にまばらで小さなものとなる。明確な掘方・柱痕跡をもつものは、東壁土層で確認したSP-705、625、669、702等である。

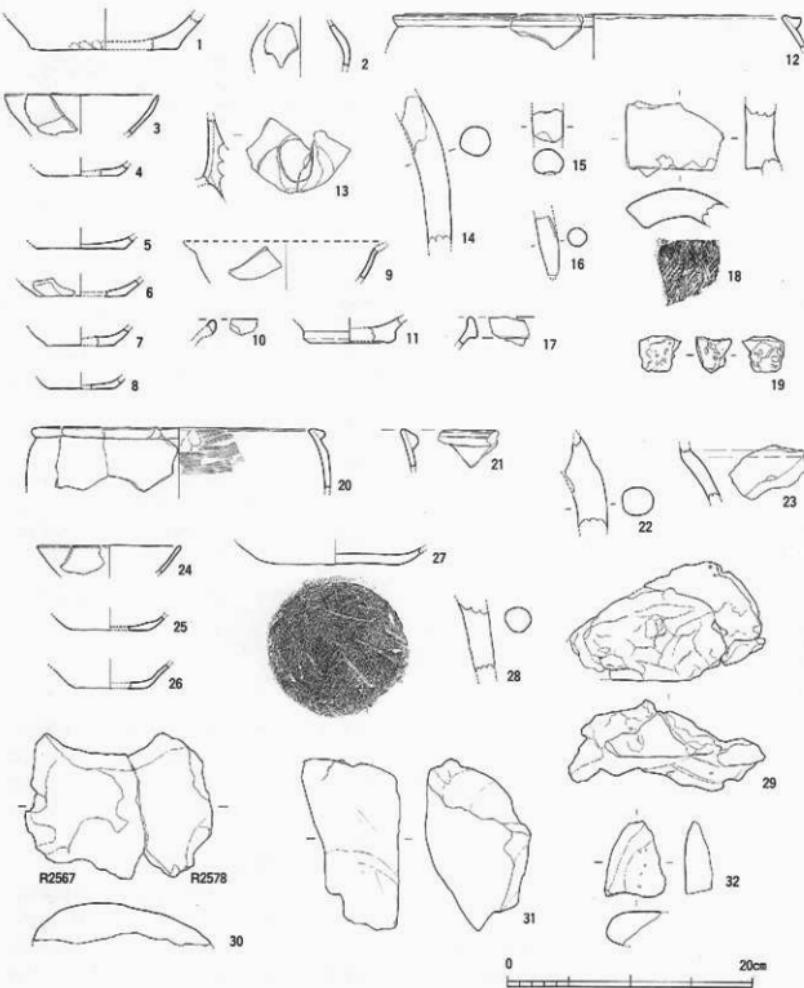


図71 II Ei区出土遺物実測図(1) (縮尺1/4)

が、SP-622、644、646、651、654、701、708、730等もしっかりとした深さの柱穴である。なお、SP-701からは板状の石材が出土している。

柱穴・小穴出土遺物で同化できたのは以下の通り。
24~26・28はSP-617出土。24~26は土師器の壊ない

し皿。28は羽釜脚部。31・32はSP-618出土。31は緻密な火成岩質の四石破片。外面に被熱部分が見られる。32は砂岩質の台石破片。外面に煤が付着する。33・34はSP-627・628出土。33は土師器の皿口縁部。34は土師器皿の底部で回転糸切り痕が残る。SP-627から

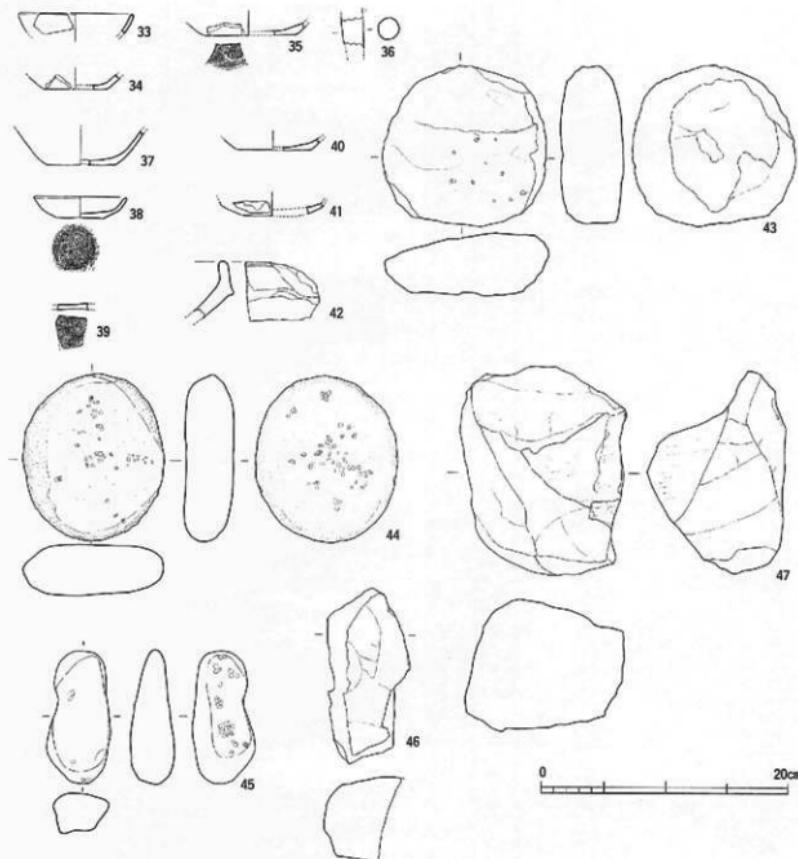


図72 II EF区出土遺物実測図(2) (縮尺1/4)

は、鉄滓1点(図115-14)も出土している。35・36はSP-636出土。35は壺もしくは皿の底部で、回転糸切り痕が残る。13世紀以降。36は羽釜の脚部片。37はSP-646出土の土師器の壺底部。38はSP-650出土の土師器皿の完形品。外底面は回転糸切り痕が残る。39はSP-653出土の土師器皿底部。40はSP-731出土の壺もしくは皿の底部片。回転糸切り痕が残る。41はSP-625出土の青磁の皿体部。体部下半で屈曲する。43はSP-652

出土の花崗岩質の台石。一面には焼けた痕跡がある。44はSP-643出土の台石。両面の中央部に敲打痕がよく残り、片面には被然部分が認められる。45はSP-655出土の敲石。下方先端と片面に敲打痕がある。46・47はSP-651出土。46は台石で、一部に擦過痕が残る。

(6) Ⅲ層出土遺物

II EF区出土遺物の内、Ⅲ層出土として取り上げた遺物が多くある。このうち図化できたのは19点。1は弥

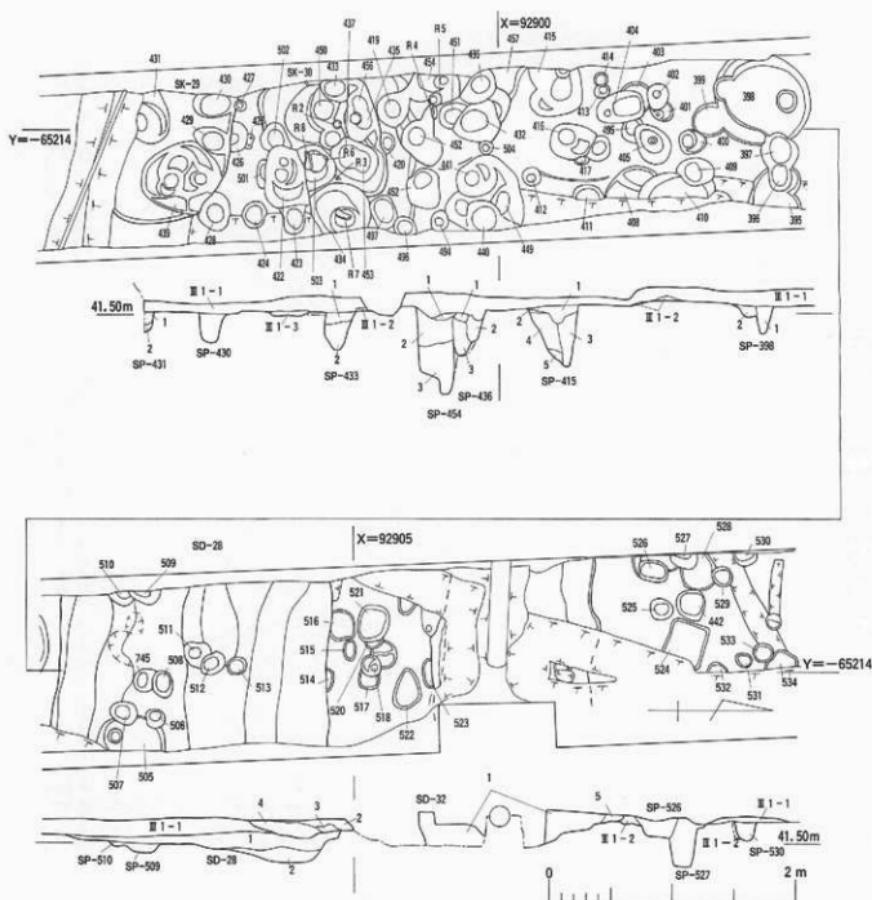


図73 II Wf区実測図（縮尺1/40）（遺構名「SP-」一部省略）

生土器の壺底部。2は須恵器壺の胴部。3は土師器壺の口縁部。4～8は土師器皿ないしは壺の底部。7は回転糸切り痕。9は龍泉窯系の青磁碗の体部で口縁部は端反り。12世紀中頃～末。10は白磁碗の口縁部で、端部は玉縁状。11世紀末～12世紀前半。11は白磁碗底部で、やや低めの輪高台がつく。11世紀後半～12世紀前半。12～14・16は羽釜。12が口縁部、13は体部で、他は脚。15は被熱粘土塊で、横断面円形。器表面には

灰褐色に変色した部分が見られる。17は須恵質のこね鉢口縁部。18は丸瓦の玉縁部。19は鉄滓。

(12) II Wf区（図69・73、図版16）

農学部校舎中庭の南半東側の約26mの区間。表土下に安定した10cmを越えるⅢ層が堆積し、出土遺物も多い（図76・77、図版29-1～7）。とりわけ、南部での遺構密集は調査区中最も高い（図版16-3）。なお、北部

図73 土層注記

III 1-1

黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。3mm程の砾をかなり多く含む。下層ブロックを少し混じる。しまりあり。

III 1-2

黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) 粘質土の1~2cmのブロックを少し含む。

黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。IV層およびIII 2-1層が混じる。ややしまりあり。

黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト。明赤褐色 (5YR5/8) 土が混じる。粘性は弱い。

SD-28

1 III 1-1層とはほとんど区別がつかない。わずかに砂粒が混じりう。

2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。1層に比べ、粘性あり。

SD-32

1 黒褐色 (10YR3/1) 砂質シルト。明赤褐色 (5YR5/8) 土が混じる。粘性は弱い。

2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。III 1-1層にはほぼ同じ。やや粒状が多い。あるいはI層内の堆積か。

3 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。IV層の小ブロックを含み、しまりあり。あるいはI層内の堆積か。

4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。IV層にわずかにIII 1-1層が混じる。粘性あり。あるいはI層内の堆積か。

5 I層にIV層の10cmの円形ブロックをわずかに含む。

SP-388

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。砂粒は細かく、1cmの小ブロックを含み、やや粘性あり。

2 黑褐色 (10YR2/1) 砂質土。III 2-1層とIV層の小ブロックを混じ、粘性あり。

SP-415

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。III 1-1層に比べ、砂粒少なく、しまりあり。

2 にぶい黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質土のブロック。

3 褐色 (10YR3/3) 砂質土。鉢の微細粒を含み、IV層の3cmブロックが多く混じる。しまりあり。

4 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。5cmのIV層ブロックを多く混じ、しまりあり。炭化物を含み、やや粘性あり。

5 黄褐色 (10YR4/2) 砂質土。IV層にII 1-1層が均質に

混じり、粘性は強い。

SP-431

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) 粘質土の1~3cmの円形ブロックをやや多く含む。

2 黒色 (10YR2/1) 砂質土。黒味が強い。

SP-430

黒色 (10YR2/1) 砂質土。褐色 (10YR4/4) 粘質土の楕円形の2~3cmのブロックを少し含む。

SP-433

1 黒褐色 (10YR2/1) 砂質土。褐色 (10YR4/4) 粘質土の楕円形の1cmブロックを少し含む。

2 II層とはほぼ同じ。やや黒味が強い。

SP-436

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) 粘質土の2~3cmブロックを少し含む。土器片を含む。

2 褐色 (10YR4/4) 砂質土。

3 黑色 (10YR2/1) 砂質土。土器片と粒状炭化物を少し含む。

SP-454

1 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) 粘質土の粒状ブロックを少し含む。

2 褐色 (10YR4/4) 粘質土。I層の黒褐色砂質土が混じる。

3 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) 粘質土の1~3cmの楕円形ブロックを極少量含む。

SP-509

黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。3cmのIV層ブロックを含み、しまりあり。SD-28のI層に比べ、砂粒は少ない。

SP-510

黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。3cmのIV層ブロックを含み、しまりあり。SD-28のI層に比べ、砂粒は少ない。

SP-526

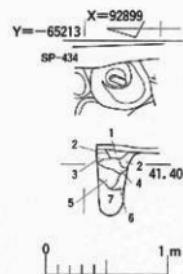
黑褐色 (10YR3/1) 砂質シルト。5cmのIV層のブロックを多く含む。

SP-527

黑褐色 (10YR3/1) 砂質シルト。1cmのIV層円形ブロックをまばらに含む。

SP-530

黑褐色 (10YR3/1) 砂質シルト。5cmのIV層のブロックを多く含む。



SP-434

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) シルトの粒状ブロックを極少量含む。

2 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。やや灰色味が強い。

3 褐色 (10YR4/4) シルト。黒褐色 (10YR2/2) 砂質土がまばらに混じる。

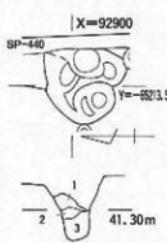
4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。黒褐色 (10YR2/1) 砂質土の5~10mmの内包ブロックを極少量含む。土器片を含む。

5 4層よりやや茶味味が強い。

6 褐色 (10YR4/4) シルトの1~3cmのやや粘性のあるブロックを多く含む。

7 黒色 (10YR2/1) 砂質土。褐色 (10YR4/4) 粘質土が1~3cmのブロック状に混じる。

図74 SP-434実測図 (縮尺 1/40)



SP-440

1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトの5mmの楕円形のブロックを少し含む。

2 褐色 (10YR4/4) 砂質土。黒褐色 (10YR2/2) 砂質土の1cmの楕円形のブロックを少し含む。

3 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトの1~2cmの楕円形のブロックを少し含む。

図75 SP-440実測図 (縮尺 1/40)

のおよそX=92913~92917の範囲では、東西幅は狭い範囲ながらIII-2層が安定して堆積している。IV層上面で検出した遺構は、SK-29~31、SD-28・32と、100基を越える柱穴・小穴である。

① SK-29 (図73)

II WF区の南端、南側を搅乱に切られた0.7×1m程の範囲に広がると認識した土壌である。埋土はIV層ブロックを含む黒褐色砂質土。底面でSP-429~431、439

を検出した。

SK-29の範囲内から出土した遺物で図化できたのは5点(16~20)。16はSK-29出土、17はSP-429出土、18~20はSP-430出土として取り上げた。16は羽釜脚部。17は土師器皿の底部である。体部下半に傾斜変換点があり、底面には回転糸切り痕が残る。18は土師器皿の底部。回転糸切り痕が残る。19は羽釜上半部。口縁端に接して突帯を貼り付ける。20も羽釜の底部から脚部。SK-29は14世紀後半。

② SK-30(図73)

SK-29の北側にわずかの間隔を空けて、ほぼ調査区を横断するように東西に長い1.2×0.9m程の範囲を想定した土壟で、SP-422に切られる。埋土は黒褐色砂質土で、砂粒が少なく、IV層ブロックを多く含み、焼土も混じる。SK-30内でSP-433~435、437、438、450、453、456、502、503を検出した。このうちSP-434は二段状の掘方をもつ(図74)。

SK-30の範囲内から出土した遺物で図化したのは11点(21~30・35)。21はSK-30出土の土師器壺の底部。回転糸切り痕が残る。22~25はSP-434出土。22~24は土師器。22は壺口縁部。23は皿口縁部。24は皿底部。25はR7として取り上げた砂岩質の台石で煤が付着する。26はSP-433出土の土師器皿底部で、底面に回転糸切り痕。27はSP-450からR2として取り上げた土師器皿の完形品である。底部は回転糸切り後、板目圧痕が施される。SP-453からは、繫1点(図115-7)が出土している。28~30はSP-503出土。28はR3とした青磁碗の体部。釉薬は厚い。29はR8とした花崗岩質の台石で、全面が黒変。30はR6した砂岩質の台石。敲打痕がまばらに見られる。35はSP-433出土の皿底部。SK-30は14世紀前後。

③ SK-31(図73)

SK-30の北側、調査区西に偏って1×0.8m程の三角形状の範囲を想定した土壟で、SP-419・441に切られる。埋土は、黒褐色砂質土でIV層の2cmブロックを含む。SK-31内でSP-432、436、451、452、454、457を検出している。

SK-31の範囲内から出土した遺物で図化したのは13点(31~34・36~43・59)。31~33はSK-31として取り上げた。31は土師器皿の底部で回転糸切り痕が残る。13世紀以降。32は亀山焼の胴部。外面は格子目タタキで一部ナデ消し。33は花崗岩質の砥石。34~36・38・40はSP-432出土。37・39はSP-436出土。34~37

は土師器皿、38は壺ないし椀。39は14世紀後半の羽釜口縁部。41・42はSP-452・454出土の土師器皿。ともにほぼ完形。41はR5、42はR4として取り上げた(図版16-2)。法量もほぼ等しく、底部は回転糸切り痕が残る。43はSP-452出土の扁平な緑色片岩石材。59はSP-457出土の壺底部。回転糸切り痕が残る。SK-31は14世紀後半。

④ SD-28(図73、図版16-4)

SD-28は、北岸をX=92905辺りにおく幅2m弱の調査区を横断する溝。II Ef区のSD-28とは南岸をほぼ一致させるものの、II Wi区で北側に拡張した格好となっている。またII Wi区では北側に深く傾いた断面となり、最深部で深さ約25cm。底面で若干の柱穴を検出している。埋土は黒褐色の砂質土。出土遺物は6点を図化した(10~15)。10は弥生土器の壺底部。11は土師器壺の口縁部。12は羽釜の口縁部。13~15は羽釜脚部。15は体部との接着面が見える。SD-28は14世紀後半の遺構である。

⑤ SD-32(図73)

SD-32は、中央に擾乱を挟むが、北岸をX=92907におき、3m弱に及ぶ東西方向の溝。深さは約20cmで、溝の立ち上がりはかなり緩やかである。埋土はIII-1層を切り込み、さらに南側のSD-28埋土を切る。II Ef区のSD-32に連なると推測したが、幅の異同も大きい。出土遺物はない。

⑥ 柱穴・小穴

II Wi区で100基を越える柱穴・小穴を検出しているが、集中地點はSK-29~31として当初判断した南部である。これら以外で明確な掘方・柱痕をもつものは、SP-398、415、440(図75)、526、527等の柱穴であるが、SP-422、441、416、409等も深さ的には加えることができる。なお、SD-28・32以北ではそのような柱穴がほとんどなくなる。

これら柱穴・小穴出土遺物の内、図化したものを以下解説しておく。44~47はSP-398出土。44・45は土師器皿の底部。46は須恵質の擂鉢口縁部。口縁部は肥厚し、上方へ拡張する。47は砂岩質の砥石で、表面に煤が付着していることと、小口側が削られて面をなしていることから、竈の礎石として転用されていたと考えられる。48~51はSP-440出土。48は土師器皿の口縁部。49は羽釜の口縁部。50は花崗岩質の磨石。51は砂岩質の台石。袋状の鉄器1点(図115-10)もSP-440からは出土している。52・53はSP-415出土。52は

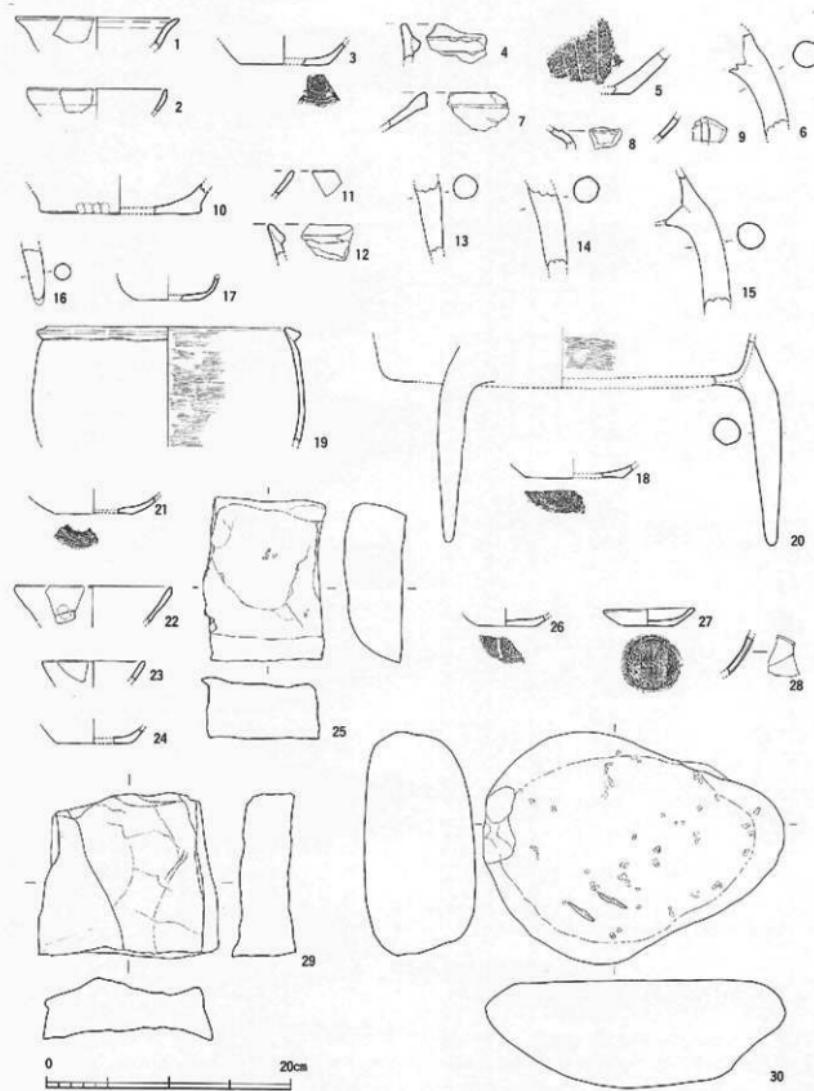


図76 II WI区出土遺物実測図(1) (縮尺1/4)

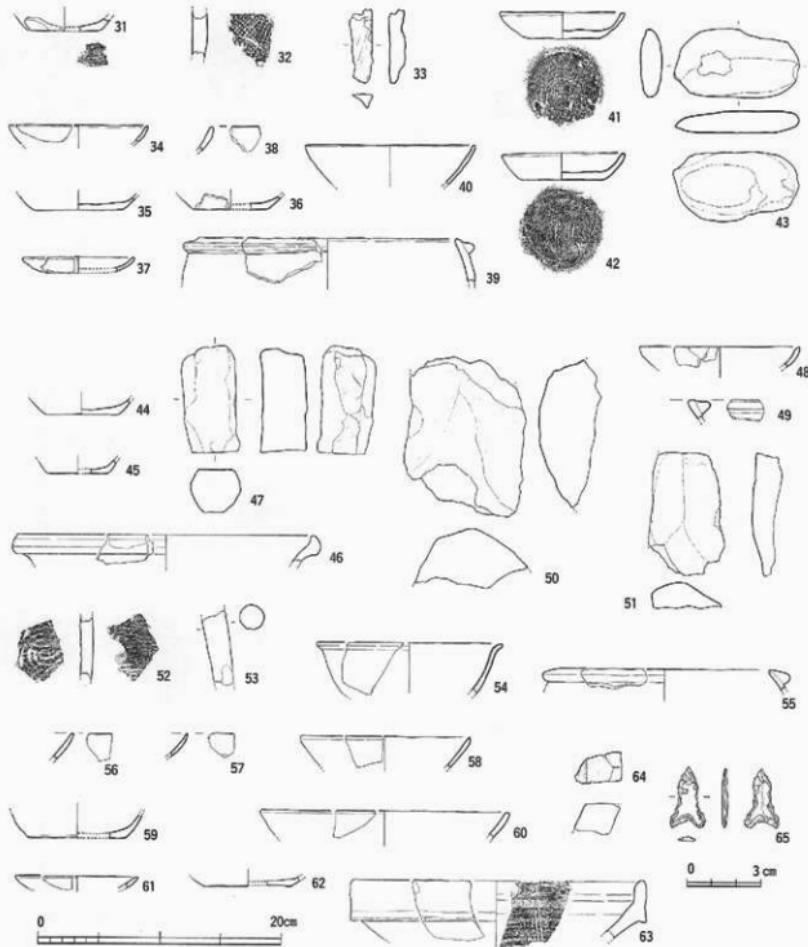


図77 II WI区出土遺物実測図(2) (縮尺1/4、1/2)

須恵器の窓の脇部片。53は羽釜の脚部。54・55はSP-410出土。54は青磁碗の口縁部で、体部から緩やかに内湾し、口縁先端部は屈曲する。55は羽釜の口縁部で、口縁端に接して突帯を貼り付ける。56はSP-497出土の瓦器椀口縁部。57はSP-416出土の土師器坏または

皿の口縁部。58はSP-448出土の坏口縁部。60はSP-446出土の坏口縁部。61はSP-403出土の土師器小皿の口縁部。62はSP-397出土の土師器皿底部。63はSP-428出土の備前焼の指鉢口縁部。口縁部は直立して下方に突出する。15世紀代。64はSP-412出土の泥岩質

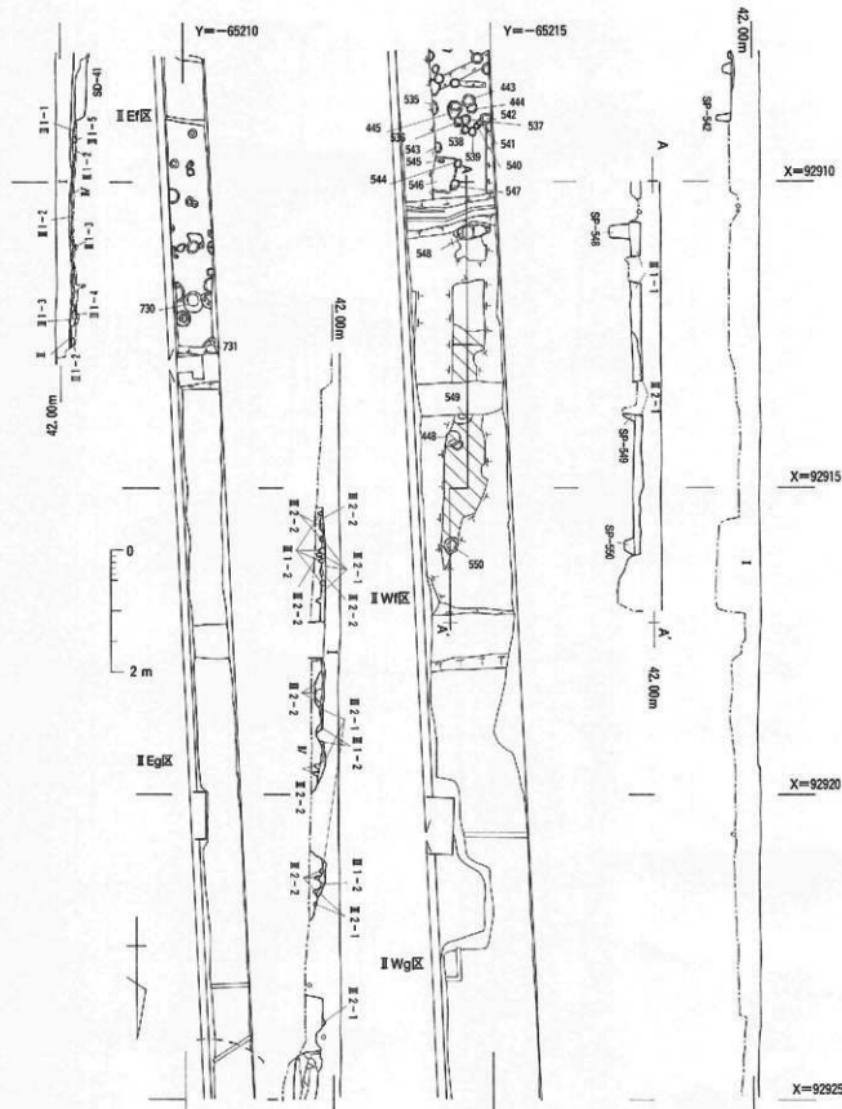


図78 II区実測図(8) (縮尺1/80) (遺構名「SP-」一部省略)

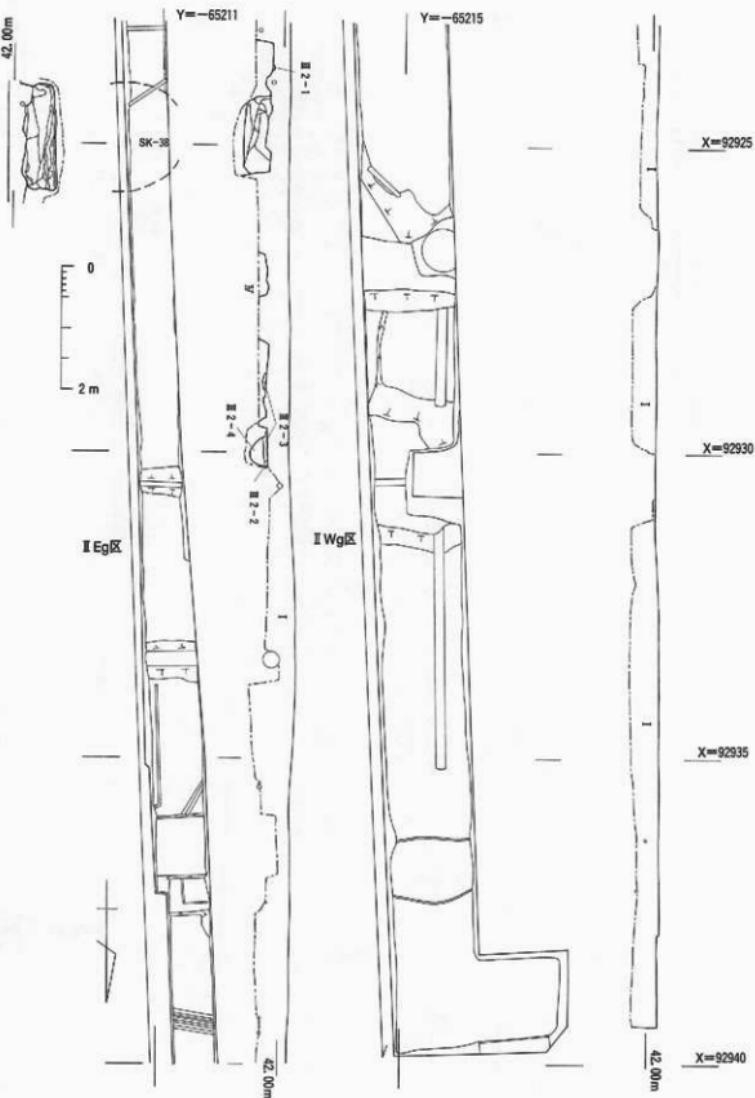


図79 II区実測図(9) (縮尺 1/80)

の砥石で、目は細かく側面も使用する。65はSP-449出土の打製石器。重量は0.6gでサメカイト製。凹基無茎式で、先端は銳利で薄い。剥離調整は薄く、表裏とも中央付近は調整が及ばない。

⑦ III層出土遺物

II WF区III層出土遺物から図化したのは9点(1~9)。III-2層からの出土はない。1・2は土師器底の口縁部。1は口縁が緩やかに外反し、2は端部が肥厚する。3は土師器皿底部で、回転糸切り痕が残る。4は瓦質の羽口縁部。5は土師質の擂鉢底部。内面にヘラ状工具による縱方向の条線がある。6は羽足脚。7は須恵質のこね鉢口縁部。8は須恵器壺の胴部片。外面上に微隆起突帯が1条ある。9は青磁碗の体部。外面上に蓮弁文があり、内外面の釉は薄い。

(1) II Eg区(図78・79、図版17-1)

テニスコート北半西側から道路交差点までの約33mの間。この区間は、まさにガス管埋設に伴う掘方を再掘削した格好である。ただし、北端ではわずかながらも面的にIV層が確認できるとともに、SP-559~561の小穴3基を検出した。SP-559からは中世土師器が出土している。他は、残存する調査区壁の土層により、一部でIII層やIV層を確認するに留まる。

① SK-38(図80、図版17-2)

II Eg区で特記すべきは、X=9292付近の両壁で確認できた土塙断面である。SK-38とした。東壁での確認幅、底面で約1.8m。西壁では1.2m。深さは最大60cm前後確認できる。本来は、底面2m弱と推定されよう。その断面形状であるが、東壁で顕著なように、底面が広がるフラスク状を呈し、本来は貯蔵穴であつたと推定される。また底面付近には、北側からの流れ込みによる埋土が堆積しており、その後、一気に埋没が進んだと見られる。東壁の南端から塙底部の破片(R9)が出土している(図81、図版29-8)。安定した平底で、外底面もミガキ仕上げする。体部外面は縱方向のやや太めのミガキ仕上げ、内面は粗い横方向のミガキ。胎土は砂粒を多く含む。弥生前中期～中期の時間幅が想定される。

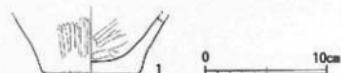
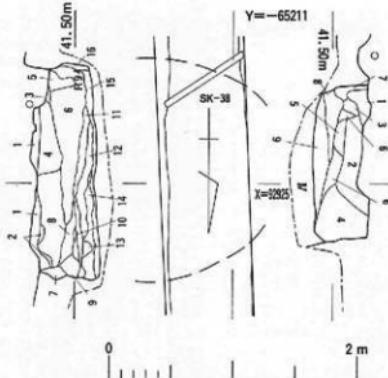


図81 SK-38出土遺物実測図(縮尺1/4)



SK-38 東壁土層

- 1 黒褐色(10YR3/1) 粘質土。粘性は強い。
 - 2 黒色(10YR2/1) 粘質土。やや褐色味を帯びる。IV層の円形ブロックを少し含む。
 - 3 黒色(10YR2/1) 粘質土。2層と同じだが、粘性が弱い。
 - 4 黒褐色(10YR3/2) 粘質土。IV層が多く混じる。やや粘性は弱い。
 - 5 黒色(10YR1.7/1) 粘質土。粘性は強い。上部はやや褐色味を帶びる。IV層の2cmの円形ブロックを含む。
 - 6 褐色(7.5YR4/6) 粘質シルトに黒褐色(10YR3/1) 粘質シルトが混じる。粘性は強く、ややサクサクした感じ。R9の北側の土は断面褐色味を帯びる。
 - 7 暗褐色(10YR3/3) 粘質土。粘性は弱く、1cmの塊を含む。下層をブロック状に含む。
 - 8 黑色(10YR1.7/1) 粘質土。IV層が混じる。やや粘性が弱い。
 - 9 黑色(10YR1.7/1) 粘質土。8層と同じだが、IV層の含有比率高い。
 - 10 褐色(7.5YR4/6) 粘質シルトに黒褐色(10YR3/1) 粘質土が混じる。粘性は強く、ややサクサクした感じ。
 - 11 黑色(10YR2/1) 粘質土。褐色味が強く、粘性は弱い。IV層の1cmの円形ブロックを多く含む。
 - 12 黑色(10YR2/1) 粘質土。粘性は弱い。IV層との互層。
 - 13 黑色(10YR1.7/1) 粘質土。IV層の5mmの円形ブロックを多く含む。
 - 14 黑色(10YR2/1) 粘質土。IV層が多く混じり、褐色が強い。
 - 15 黑褐色(10YR2/2) 粘質土。IV層が多く、色調は斑らで均一でない。
 - 16 黑色(10YR2/1) 粘質土。黑褐色土が混じる。しまりあり。
- SK-38 西壁土層**
- 1 東壁の5層に対応。
 - 2 東壁の2層に対応。
 - 3 IV層ブロック。
 - 4 東壁の4層に対応。
 - 5 黑色(10YR2/1) 粘質土。IV層の1.5cmの円形ブロックをまばらに含む。
 - 6 黑褐色(10YR3/1) 粘質土。8層が混じり、やや粘性が強い。
 - 7 黑褐色(10YR3/1) 粘質土とIV層の互層。
 - 8 東壁の6層に対応。
 - 9 東壁の15層に対応。

図80 SK-38実測図(縮尺1/40)

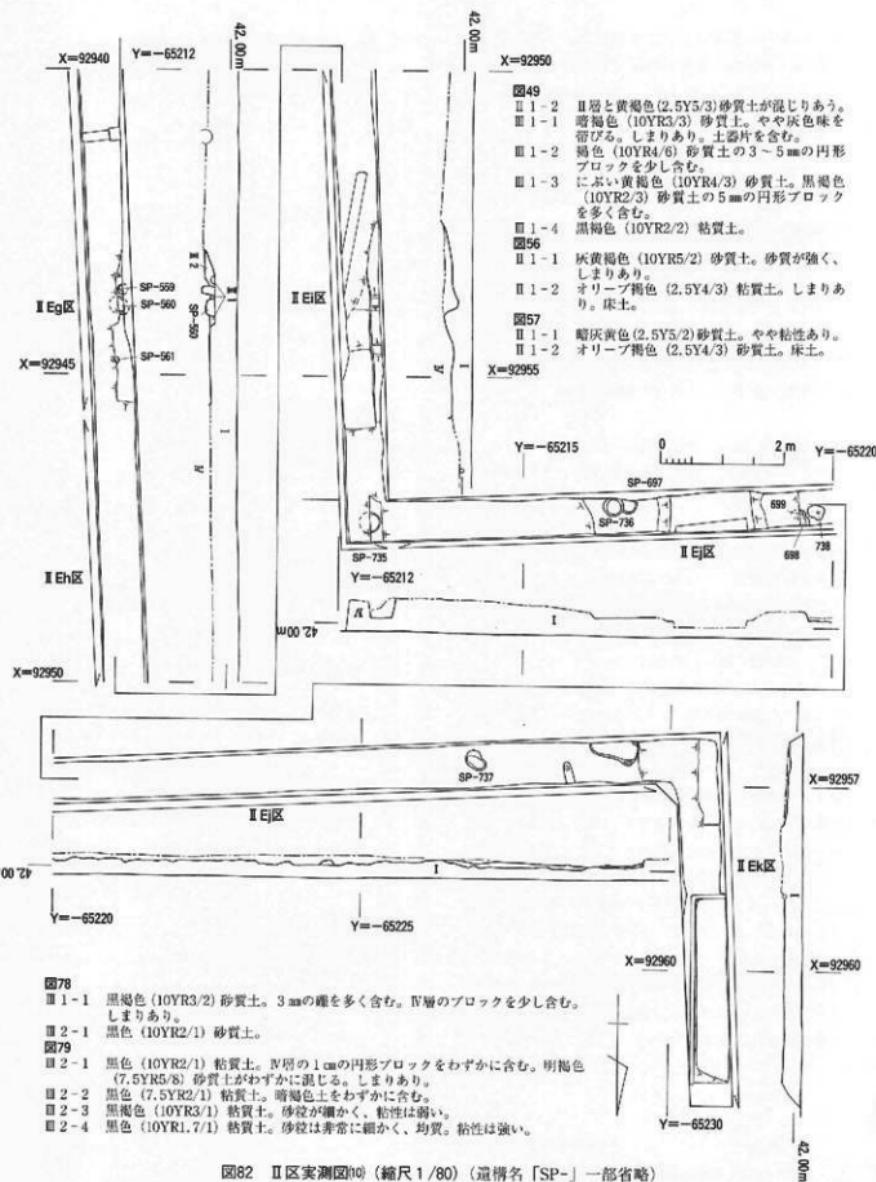


図82 II区実測図(10)(縮尺1/80)(這構名「SP-」一部省略)

(14) II Wg区 (図78・79、図版17-3)

農学部校舎中庭北半から農学部本館の東側約19mの間で、北端で西の建物側に約1.5m屈曲する。全面に擾乱が及び、出土遺物もない。

(15) II Eh区 (図82、図版17-4)

農学部本館北東の道路交差点の東西道路をまたぐ約4.5mの区間である。通常の交通を遮断する必要から短距離を別工程で行った調査区であるが、道路下といふこともあって全面擾乱が及び、IV層上面は確認していない。出土遺物もない。

(16) II Ei区 (図82、図版17-5)

道路交差点から北、連合農業研究科校舎西側の約8mである。南半はやはり全面擾乱が及んでいるが、北半の一部ではIV層上面がわずかながらも検出できるとともに、小穴の残欠1基 (SP-735) を確認している。ただし出土遺物はない。

(17) II Ej区 (図82、図版17-6)

南北方向の調査区がほぼ直角に屈折して西に延びる約17mの区間である。東部では擾乱により不明な部分が多いが、中位から西半はIV層の上面をI層直下で検出している。またそれとともに、小穴数基があり、そのうちSP-736・737からは中世土器類の細片が出土している。なお、SP-736出土遺物中には弥生土器片も認められる。

(18) II Ek区 (図82、図版17-7)

東西方向のII Ej区から再び屈折して北に延びる約6mの区間である。IV層上面をI層直下で検出しているが、造構の残存は認められなかった。出土遺物もない。

(19) II 区擾乱出土遺物 (図83)

II区全体を通じて、擾乱出土遺物から7点を図化した。3～5・7がII We区出土で、他はII Wg区出土。1は須恵器环蓋天井部。2は土器器壺の口縁部。3は羽釜の脚部上半。4は須恵質のこね鉢口縁部。5は青磁碗底部。外面下半から高台部にかけては露胎で、削り出し高台。外面に櫛括き文、内面に刺突文と弧状の文様が施される。6は砂岩質砥石。7は粘板岩製観。正面、左側面に縱方向の擦り目がある。また、II Ee区からは釘1点 (図115-6) の出土がある。

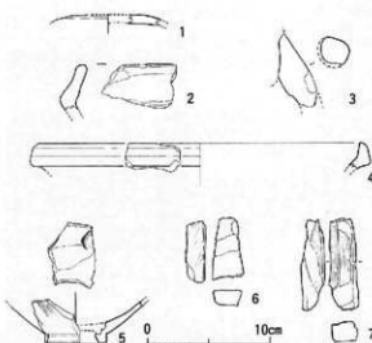


図83 II区擾乱出土遺物実測図 (縮尺1/4)

2 小結

II W区は南北140m、II E区では総延長180mを越えた。その分幅が狭く、造構の広がりの一端を確認したに留まるが、I区が榛味団地西部の東西方向の大トレンチであったのに対し、II区は南北方向の大トレンチとして、榛味団地における遺跡の広がりについて、多くの成果を得ることができた。

まず調査区の南端 (a区・b区) では、II層の耕作に伴う擾乱が激しい。調査区の東側を中心にそのような擾乱が広がると推測できる。途中管路敷設に伴う擾乱が激しい (c区・d区)、2次調査地点周辺では、良好な包含層・造構が残存し (e区)、とりわけ中庭付近が造構密集域となっていた (f区)。ただしそれ以北は、IV層上面のレベルが上昇することもあって、造構の残存はほとんどなくなった (g区～)。IV層の検出レベルは、南端のI区との合流点で標高40.9m、II Ek区の北端で41.8mと、約90cmの差がある。

このうち、良好な残存状況を示すのは、中世造構であり、その時期は、羽釜や回転糸切り痕を残す土器器の壺・皿から、14世紀を中心とした時期である。先に報告したI区SR-1出土の、円盤状高台の壺や貼付高台の碗を中心とする10～12世紀の遺物はほとんどない。集落領域の包含層資料と流路資料の差もあるが、12世紀前後を境に、榛味団地における生活領域の変化が予想される。

II区SP一覧 () 内は所在地区

- 201 (Wa) 図53。
 202 (Ea) 黒色 (10YR2/1) 砂質土。しまりあり。
 203 (Ea) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。やや黒味を帯びる。
 204 (Ea) 図50。
 205 (Ea) 図50。
 206 (Ea) 図50。
 207 (Wd) 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。粘性低い。中世土師器。
 208 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。粘性や弱い。褐色 (10YR4/4) シルトの5~10mmブロックを多く含む。中世土師器。
 209 (Wd) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。中世土師器。
 210 (Wd) 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。小石をほとんど含まない。
 211 (Wd) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) シルトの5~10mmブロックを多く含む。粒状炭化物を極少量含む。中世土師器。
 212 (Wd) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) シルトの5~10mmブロックを多く含む。粒状炭化物を極少量含む。
 213 (Wd) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) シルトの5~10mmブロックを多く含む。粒状炭化物を極少量含む。
 214 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。粘性はやや弱い。褐色 (10YR4/4) シルトの5~10mmブロックを多く含む。
 216 (Wd) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) シルトの5~10mmブロックを多く含む。粒状炭化物を極少量含む。
 217 (Wd) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) シルトの5~10mmブロックを多く含む。粒状炭化物を極少量含む。中世土師器。
 219 (Wd) 図58。中世土師器。
 220 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色 (10YR4/6) シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 221 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色 (10YR4/6) シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 222 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。粘性はやや弱い。褐色 (10YR4/4) シルトの5~10mmブロックを多く含む。
 223 (Wd) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。やや粘性がある。5mmの粒状炭化物と褐色シルトの5mmのブロックを少量含む。
 224 (Wd) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。やや粘性がある。5mmの粒状炭化物と褐色シルトの5mmのブロックを少量含む。
 227 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR6/4) の5~10mmブロックを少量、粒状炭化物を極少量含む。中世土師器。
 228 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR6/4) の5~10mmブロックを少量、粒状炭化物を極少量含む。中世土師器。
 229 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR6/4) の5~10mmブロックを少量、粒状炭化物を極少量含む。
 230~231 (Wd) 図58。中世土師器。
 233 (Wd) 図58。中世土師器。
 236 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR6/4) の5~10mmブロックを少量、粒状炭化物を極少量含む。中世土師器。
 234 (Wd) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。にぶい黄褐色 (10YR6/4) の2~3cmブロックを少量含む。
 235 (Wd) 図58。
 236 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR6/4) の5~10mmブロックを少量、粒状炭化物を極少量含む。
 237 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR6/4) の5~10mmブロックを少量、粒状炭化物を極少量含む。
 238 (Wd) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。にぶい黄褐色 (10YR6/4) の2~3cmブロックを少量含む。
 240 (Wd) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックを少量含む。
 241 (Wd) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。にぶい黄褐色 (10YR6/4) の2~3cmブロックを少量含む。
- 242 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 243 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 244 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 245 (Wd) ①黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。IV層微細ブロックをラミナ状に混じる。しまりあり。②褐色 (10YR4/1) 砂質土。しまりあり。
 247 (Wd) 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色の粒状ブロックを少量含む。
 248 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 249 (Wd) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。褐色シルトの5mmブロックを極少量含む。
 250 (Wd) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。褐色シルトの5mmブロックを極少量含む。
 251 (Wd) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。褐色シルトの5mmブロックを極少量含む。中世土師器。
 252 (Wd) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。褐色シルトの5mmブロックを極少量含む。
 253 (Wd) 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。しまりあり。
 254 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 255 (Wd) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。褐色シルトの5mmブロックを極少量含む。
 256 (Wd) 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色の粒状ブロックを少量含む。
 257 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 258 (Wd) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。褐色シルトの5mmブロックを極少量含む。
 259 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 260 (Wd) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性がある。褐色シルトの5mmブロックを極少量含む。
 261 (Wd) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
 262 (Wd) 黑褐色 (2.5Y3/2) 砂質土。粘性は弱い。黒褐色 (10YR2/2) 土の1cmブロックと橙色 (7.5YR6/8) 土の5mmブロックを多く含む。しまりあり。
 263 (Wd) 黑褐色 (2.5Y3/2) 砂質土。粘性は弱い。黒褐色 (10YR2/2) 土の1cmブロックと橙色 (7.5YR6/8) 土の5mmブロックを多く含む。しまりあり。
 264 (Wd) 黑褐色 (2.5Y3/2) 砂質土。粘性は弱い。黒褐色 (10YR2/2) 土の1cmブロックと橙色 (7.5YR6/8) 土の5mmブロックを多く含む。しまりあり。
 265 (Wd) 黑褐色 (2.5Y3/2) 砂質土。粘性は弱い。黒褐色 (10YR2/2) 土の1cmブロックと橙色 (7.5YR6/8) 土の5mmブロックを多く含む。しまりあり。
 266 (Wd) 黑色 (10YR2/1) 砂質土。粘性は弱い。IV層ブロックを含む。
 267 (Wd) 黑色 (10YR2/1) 砂質土。粘性は弱い。IV層ブロックを含む。
 268 (Wd) 黑色 (10YR2/1) 砂質土。粘性は弱い。IV層ブロックを含む。
 269 (Wd) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。
 270 (Wd) 黄褐色 (2.5Y4/1) 砂質土。粘性は弱い。黒褐色 (10YR3/1) 土が混じる。小石やブロックの混入はほとんどみられない。
 271 (Wd) 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。小石はほとんど含まない。黒褐色 (10YR2/2) 土の5~10mmブロック少しある。
 272 (Wd) 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。小石はほとんど含まない。黒褐色 (10YR2/2) 土の5~10mmブロック少しある。中世土師器・須恵器。
 273 (Wd) 黑褐色 (2.5Y3/2) 砂質土。粘性は弱い。黒褐色 (10YR2/2) 土の1cmブロックと橙色 (7.5YR6/8) 土の5mmブロックを多く含む。しまりあり。
 274 (Wd) 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。小石はほとんど含まない。黒褐色 (10YR2/2) 土の5~10mmブロック少しある。
 275 (Wd) 褐灰色 (10YR2/2) 土の1cmブロックと橙色 (7.5YR6/8) 土の5mmブロックを多く含む。しまりあり。
 276 (Wd) 黑褐色 (2.5Y3/2) 砂質土。粘性は弱い。黒褐色 (10YR2/2) 土の1cmブロックと橙色 (7.5YR6/8) 土の5mmブロックを多く含む。しまりあり。

- 5 mm ブロックを多く含む。しまりあり。
- 277 (Wd) 黒褐色 (10YR4/1) 粘質土。小石はほとんど含まない。黒褐色 (10YR2/2) 土の5~10mm ブロック少しく含む。
- 278 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。5 mm の炭化物を極少量含む。粘性強い。
- 279 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。5 mm の炭化物を極少量含む。粘性強い。
- 280 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。5 mm の炭化物を極少量含む。粘性強い。
- 281 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土と黒色 (10YR2/1) 粘質土が混在。にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土の5 mm ブロックを少しく含む。
- 282 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土と黒色 (10YR2/1) 粘質土が混在。にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土の5 mm ブロックを少しく含む。
- 283 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土と黒色 (10YR2/1) 粘質土が混在。にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土の5 mm ブロックを少しく含む。
- 284 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土と黒色 (10YR2/1) 粘質土が混在。にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土の5 mm ブロックを少しく含む。サ器・中肚土師器。
- 285 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1~2 cm ブロックを少しく含む。
- 286 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1~2 cm の円形のブロックを少しく含む。
- 287 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の1~2 cm ブロックをやや多く含む。
- 288 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色土の1~2 cm ブロックをやや多く含む。
- 289 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。中肚土師器。
- 290 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色土の1~2 cm ブロックをやや多く含む。
- 291 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。
- 292 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色土の1~2 cm ブロックをやや多く含む。
- 293 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色土の1~2 cm ブロックをやや多く含む。
- 294 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。5 mm の粒状炭化物を少量含む。
- 295 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。5 mm の粒状炭化物を少量含む。
- 296 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色土の1~2 cm ブロックをやや多く含む。
- 297 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。
- 298 (We)
- 301 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1~2 cm ブロックを少しく含む。
- 302 (We) 図65。
- 303 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。黒褐色 (10YR2/2) 粘質土の1~3 cm ブロック・2~3 mm の砂粒を少く含む。
- 304 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。黒褐色 (10YR2/2) 粘質土の1~3 cm ブロック・2~3 mm の砂粒を少く含む。
- 305 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。黒褐色 (10YR2/2) 粘質土の1~3 cm ブロック・2~3 mm の砂粒を少く含む。
- 306~307 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。黒褐色 (10YR2/2) 粘質土の1~3 cm ブロック・2~3 mm の砂粒を少く含む。
- 308 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。黒褐色 (10YR2/2) 粘質土の1~3 cm ブロック・2~3 mm の砂粒を少く含む。
- 309 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。黒褐色 (10YR2/2) 粘質土の1~3 cm ブロック・2~3 mm の砂粒を少く含む。
- 310 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。黒褐色 (10YR2/2) 粘質土の1~3 cm ブロック・2~3 mm の砂粒を少く含む。
- 311 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1~2 cm の円形ブロックを極少量含む。中肚土師器。
- 312 (We) 図65。
- 314~315 (We) 図65。
- 316 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の5 mm ブロックを極少量含む。
- 317 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。褐色土の5~10mm ブロックをやや多く含む。
- 318 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。褐色土の5~10mm ブロックをやや多く含む。
- 319 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1 cm ブロックをやや多く含む。
- 320 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の1 cm ブロックを少く含む。
- 321 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の1 cm ブロックを少く含む。
- 322 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の1 cm ブロックを少く含む。
- 323 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の1 cm ブロックを少く含む。
- 324 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。灰色味を帯びる。褐色砂質土の5~10cm ブロックを多く含む。
- 325 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。灰色味を帯びる。褐色砂質土の5~10cm ブロックを多く含む。
- 326 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。灰色味を帯びる。褐色砂質土の5~10cm ブロックを多く含む。中肚土師器。
- 327 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。2~3 cm の円形ブロックを少く含む。中肚土師器。
- 328 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。灰色味を帯びる。褐色砂質土の5~10cm ブロックを多く含む。
- 329 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。灰色味を帯びる。褐色砂質土の5~10cm ブロックを多く含む。
- 330 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。灰色味を帯びる。褐色砂質土の5~10cm ブロックを多く含む。中肚土師器。
- 331 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。灰色味を帯びる。褐色砂質土の5~10cm ブロックを多く含む。
- 332 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。灰色味を帯びる。褐色砂質土の5~10cm ブロックを多く含む。
- 333 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。III~2層、IV~2層の2 cm ブロックが多数混じる。しまりあり。中肚土師器。
- 334 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。灰色味が強い。褐色砂質土の5~30mm ブロックを少く含む。中肚土師器。
- 335 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の5 mm ブロックを極少量含む。
- 336 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。灰色味が強い。褐色砂質土の5~30mm ブロックを少く含む。
- 337 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 粘質土。SP-339埋土に比べIV層ブロックは大き目多い。しまりあり。
- 338 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 粘質土。SP-339埋土に比べIV層ブロックは大き目多い。しまりあり。
- 339 (We) 図65。中肚土師器・瓦器。
- 341 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の5 mm ブロックを少く含む。中肚土師器・須恵器。
- 342 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の5 mm ブロックを極少量含む。
- 343 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。褐色土の5 mm ブロックを極少量含む。中肚土師器。
- 344 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1 cm ブロック少量。褐色 (10YR4/4) シルトの2 cm ブロックをやや多く含む。
- 345 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1 cm ブロック少量。褐色 (10YR4/4) シルトの2 cm ブロックをやや多く含む。
- 346 (We) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の5~20mm ブロックを少々、褐色土の5 mm ブロックを多く含む。
- 347 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。
- 348 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。
- 349 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1 cm ブロック少量。褐色 (10YR4/4) シルトの2 cm ブロックをやや多く含む。
- 350 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1 cm ブロック少量。褐色 (10YR4/4) シルトの2 cm ブロックをやや多く含む。
- 351 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1 cm ブロック少量。褐色 (10YR4/4) シルトの2 cm ブロックをやや多く含む。
- 352 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。黒色 (10YR2/1) 粘質土の1 cm ブロック少量。褐色 (10YR4/4) シルトの2 cm ブロックをやや多く含む。中肚土師器。
- 353 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。
- 354 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。
- 355 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。
- 356 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。

- 357 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。
 358 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。
 359 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。
 360 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。
 361 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。
 362 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒を多く含む。
 363 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒を多く含む。
 364 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒を多く含む。
 366~370 (We)
 371 (We) SD-24内。黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒を多く含む。
 372 (We) 図66。
 373 (We) SK-25内。
 374 (We) SK-25内。中世土師器。
 375 (We) SK-25内。中世土師器。
 376 (We) SK-25内。中世土師器。
 378 (We) 中世土師器。
 379 (We) 図65。中世土師器。
 380 (We) SK-26内。
 381 (We) SK-26内。
 382 (We) SK-26内。中世土師器。
 383 (We) SK-26内。中世土師器。
 384 (We) SK-26内。
 385 (We) SK-26内。中世土師器。
 386 (We) SK-26内。
 387 (We) SK-26内。
 388 (We) SK-26内。
 389 (We) SK-26内。
 390 (We) SK-27内。
 391 (We) SK-27内。
 392 (We) SK-27内。
 393 (We) SK-27内。
 394 (We) SK-27内。中世土師器。
 395 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く混じる。
 396 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く混じる。中世土師器。
 397 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く混じる。中世土師器。
 398 (We) 図73。中世土師器。
 399 (We) 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。
 400 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。
 401 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。
 402 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。
 403 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。中世土師器・瓦器。
 404 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。
 405 (We) IV層ブロックかなり多い。中世土師器。
 408 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。中世土師器・瓦器。
 409 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。
 410 (We) 中世土師器・瓦。
 411 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。
 412 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。中世土師器。
 413 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや砂粒含む。
 414 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや砂粒含む。
 415 (We) 図73。中世土師器。
 416 (We) 暗褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。中世土師器。
 417 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。
 418 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。中世土師器。
 419 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。IV層ブロックやや含む。SK-31%
 420 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。IV層ブロックやや含む。
 422 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。中世土師器。
 423 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。
 424 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。中世土師器。
 425 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。IV層ブロックやや含む。
 426 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。砂粒多く含む。
 427 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。IV層ブロックやや含む。
 428 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。IV層ブロックやや含む。
 429 (We) SK-29内。中世土師器。
- 430 (Wf) SK-29内。図73。中世土師器。
 431 (Wf) SK-29%。図73。中世土師器。
 432 (Wf) SK-31%。須恵器・中世土師器・陶器。
 433 (Wf) SK-30%。図73。中世土師器。
 434 (Wf) SK-30%。図74。中世土師器。
 435 (Wf) SK-30%。中世土師器。
 436 (Wf) SK-31%。図73。中世土師器。
 437 (Wf) SK-30%。
 438 (Wf) SK-30%。中世土師器。
 439 (Wf) SK-29%。中世土師器・陶器。
 440 (Wf) 図75。須恵器・中世土師器・陶器。
 441 (Wf) 中世土師器・瓦器。
 442 (Wf) 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。IV層のブロックを多く含む。
 443 (Wf) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。中世土師器・瓦器。
 444 (Wf) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。中世土師器。
 445 (Wf) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。中世土師器。
 446 (Wf) 中世土師器。
 447 (Wf) 中世土師器。
 448 (Wf) 中世土師器。
 449 (Wf) 中世土師器。
 450 (Wf) SK-30%。中世土師器。
 451 (Wf) SK-31%。中世土師器。
 452 (Wf) SK-31%。中世土師器。
 453 (Wf) SK-30%。中世土師器。
 454 (Wf) SK-31%。図73。
 455 (Wf) 中世土師器。
 456 (Wf) SK-30%。中世土師器。
 457 (Wf) SK-31%。中世土師器。
 458 (We) 暗褐色 (10YR3/3) 粘質土。IV層の微細ブロックを含む。
 459 (We) 暗褐色 (10YR3/3) 粘質土。IV層の微細ブロックを含む。
 460 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 粘質土。IV層5cmブロックを含む。
 461 (We) にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。IV層ブロックを多く含む。
 462 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。
 463 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3mmブロックが混じる。
 464 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3mmブロックが混じる。
 465 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3mmブロックが混じる。
 466 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3mmブロックが混じる。
 467 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3mmブロックが混じる。
 468 (We) 黒褐色 (10YR3/2) 粘質土。IV層ブロックをやや少量含む。
 469 (We) 図65。
 470 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。
 471 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。
 472 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。
 473 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の微細ブロックが多く混じる。
 474 (We) 黒色 (10YR2/1) 粘質土。Ⅲ-2層
 475 (We) 黒色 (10YR2/1) 粘質土。Ⅲ-2層
 476 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3cmブロックを含む。
 477 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3cmブロックを含む。
 478 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3cmブロックを含む。
 479 (We) 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3cmブロックを含む。
 480 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3cmブロックを含む。
 481 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3cmブロックを含む。
 482 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の3cmブロックを含む。
 483~484 (We)
 485 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。焼土が混じる。
 486 (We) 黑褐色 (10YR2/2) 粘質土。IV層の微細ブロック

- が多く混じる。
- 487~492 (We)
- 493 (We) 黒褐色(10YR2/2) 砂質土。IV層をブロック状に多く混在。
- 494 (Wo) 中世土師器。
- 495 (Wo) 中世土師器。
- 496 (Wo)
- 497 (Wo) 中世土師器。
- 498 (We) SK-25内。
- 499 (We) SK-26内。
- 500・501 (We)
- 502 (We) SK-30内。
- 503 (Wo) SK-30内。
- 505 (Wo) SD-289^a。
- 506 (Wo) SD-289^a。
- 507 (Wo) SD-289^a。
- 508 (Wo) SD-289^a。
- 509 (Wo) SD-289^a、図73。
- 510 (Wo) SD-289^a、図73。
- 511 (Wo) SD-289^a。
- 512 (Wo) SD-289^a。
- 513 (Wo) SD-289^a。
- 514 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 515 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 516 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 517 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 518 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 519 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 520 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 521 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 522 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 523 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。やや鉄分を多く含む。
- 524 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。
- 525 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。
- 526 (Wo) 図73。
- 527 (Wo) 図73。
- 528 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを多く含む。
- 529 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。
- 530 (Wo) 図73。
- 531 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。
- 532 (Wo)
- 533 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。
- 534 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。
- 535 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。
- 536 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを多く含む。
- 537 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを多く含む。
- 538 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを多く含む。
- 539 (Wo) 黒褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを多く含む。
- 540 (Wo) Ⅲ-2層。
- 541 (Wo) Ⅲ-2層。
- 542 (Wo) 暗褐色(10YR4/1)砂質土。
- 543 (Wo) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。
- 544 (Wo) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。
- 545 (Wo)
- 546 (Wo) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-2層に少し砂質。
- 547 (Wo) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。
- 548~550 (Wo)
- 551 (Wo) ①黒褐色(10YR3/1) 砂質土。粘性は弱く、下部はIV層との互層となる。②Ⅰ層とIV層の互層。中世土師器。
- 552~554 (Ee)
- 555 (Wo)
- 556~568 (Re)
- 559 (Eg) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。褐色土の1cmブロックを少量含む。
- 560 (Eg) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。褐色土の1cmブロックを少量含む。
- 561 (Eg)
- 562 (Ee) №61。
- 563 (Ee) 灰黃褐色(10YR4/2)砂質土。IV層ブロックが混じる。
- 564 (Ee) 灰黃褐色(10YR4/2)砂質土。IV層ブロックが混じる。
- 565 (Ee) 灰黃褐色(10YR4/2)砂質土。IV層ブロックが混じる。
- 566 (Ee) №61。
- 567 (Ee) №61。
- 568 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層を少し混ぜ、色調は淡い。IV層ブロックがかなり混じる。
- 570 (Ee) №61。
- 571 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。
- 572 (Ee) 灰黃褐色(10YR4/2)砂質土。IV層ブロックが混じる。
- 573 (Ee) 灰黃褐色(10YR4/2)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックが混じる。
- 576 (Ee) 灰黃褐色(10YR4/2)砂質土。IV層ブロックが混じる。
- 577 (Ee) ①Ⅲ-1層にわずかに粘性増す。
②灰黃褐色(10YR4/2)砂質土。やや黄色味を帯びる。
- 578 (Ee) ①褐灰色(10YR5/1)砂質土。
②下部がやや暗い色調。明褐色土が混じる。
- 579 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層が少し混じり、色調は淡い。IV層ブロックがかなり混じる。
- 580 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックを含む。
- 581 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックを含む。
- 582 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックを含む。
- 583 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックを含む。
- 584 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックを含む。
- 585 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 586 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックを含む。
- 587 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックを含む。
- 588 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 589 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層。
- 590 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 591 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 592 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 593 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックを含む。
- 594 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層。
- 595 (Ee) 暗褐色(10YR3/3)砂質土。IV層の1cmブロックを多く含む。しまりあり。粘性は低い。
- 596 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 598 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層を多く含む。
- 599 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-2層とIV層ブロックを含む。
- 600 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層を多く含む。中世土師器。
- 601 (Ee) 黑色(10YR2/1)砂質土。IV層とⅢ-1層のブロックを含む。
- 602 (Ee) 黑色(10YR2/1)砂質土。IV層とⅢ-1層のブロックを含む。
- 603 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 604 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層を多く含む。
- 605 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層を多く含む。
- 606 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層を多く含む。
- 607 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層を多く含む。
- 608 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層を多く含む。炭化物含む。
- 609 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。Ⅲ-1層を多く含む。
- 611 (Ee) №63。
- 612 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 613 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 615 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。
- 616 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。IV層ブロックを少し含む。中世土師器・台石破片。
- 617 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。やや粘性があり、灰色味を帯びる。
- 618 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。やや粘性があり、灰色味を帯びる。
- 619 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。やや粘性があり、灰色味を帯びる。
- 620 (Ee) №70。
- 621 (Ee)
- 622 (Ee) №61。
- 623 (Ee) 褐色(10YR3/2)砂質土。粒状炭化物のブロック、3mmの縫を少量、褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。中世土師器・弥生土器。
- 624 (Ee) 黑褐色(10YR3/2)砂質土。粒状炭化物のブロック、3mmの縫を少量、褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。

- む。
- 625 (E) 図70。
626 (E) 粒状炭化物のブロック、3mmの礫を少量、褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
- 627・628 (E) 粒状炭化物のブロック、3mmの礫を少々、褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。
- 632 (E) 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土。
- 633 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。
- 634 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。
- 635 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) シルトの5mmブロックを多く含む。
- 636 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色 (10YR4/4) シルトの5mmブロックを多く含む。燒土。
- 638 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。
- 643・644 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。やや粘性がある。褐色シルトの1cmブロックを少量、3cmの炭化物を含む。
- 645 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。
- 646 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。
- 647 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。
- 648 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。
- 650 (E)
- 651 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。やや粘性あり。5~10mmの炭化物を少額含む。
- 652 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。やや粘性あり。5~10mmの炭化物を少額含む。
- 653 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。やや粘性あり。5~10mmの炭化物を少額含む。
- 654・655 (E) 黑褐色 (10YR2/3) 砂質土。黒褐色 (10YR2/3) 砂質土。やや粘性あり。5~10mmの炭化物を少額含む。
- 657 (E) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。やや粘性あり。5~10mmの炭化物を少額含む。
- 658 (E) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。やや粘性あり。5~10mmの炭化物を少額含む。
- 659 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルトが混じる。
- 660 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルトが混じる。
- 662 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。5mmの炭化物を極少額含む。
- 663 (E) 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色シルトの1cmブロックを多く含む。
- 664 (E) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。2mmの礫を少額含む。粒状炭化物を少額含む。
- 665 (E) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。2mmの礫を少額含む。粒状炭化物を少額含む。
- 666 (E) 暗褐色 (10YR3/3) 砂質土。2mmの礫を少額含む。粒状炭化物を少額含む。
- 667 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。5mmの炭化物を極少額含む。
- 668 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。5mmの炭化物を極少額含む。
- 669 (E) 図70。中世土師器・陶器。
- 673 (Ee) ①褐色 (10YR4/1) 砂質土。5mmの礫や炭化物を少額含む。②褐色 (10YR4/1) 砂質土。N層の微小ブロック含む。粘性あり。
- 674~683 (Ee)
- 684 (E) SK-40内。
- 685 (E) SK-40内。
- 686 (E) SK-40内。
- 687・688 (E)
- 689 (E) 図70。
- 690 (E) 図70。
- 691 (E)
- 692 (E) SD-32内。
- 693 (E) SD-32内。
- 694 (E) SD-32内。
- 695 (E) SD-32内。
- 696 (E) SD-32内。
- 697~699 (Ee)
- 700 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。1mmの砂粒を少額、粒状炭化物をまばらに含む。
- 701 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルトの1cmブロックを多く、粒状炭化物を少額含む。中世土師器・瓦器。
- 702 (E) 図70。中世土師器。
- 703 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。SK-40内。
- 704 (E)
- 705 (E) 図70。
- 706 (E) 図70。
- 707 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。1mmの砂粒を少額、粒状炭化物をまばらに含む。
- 708 (E) 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックをやや多く含む。中世土師器。
- 709 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。1mmの砂粒を少額、粒状炭化物をまばらに含む。
- 710 (E) 黑色 (10YR2/1) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックを少額含む。
- 711 (E) 黑色 (10YR2/1) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックを少額含む。
- 712 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックを少額含む。
- 714 (E) 黑色 (10YR2/1) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックを少額含む。
- 715 (E) 褐色 (10YR4/4) 砂質土と黒褐色 (10YR3/2) 砂質土が混在。
- 717 (E) 褐色 (10YR4/4) 砂質土と黒褐色 (10YR3/2) 砂質土が混在。
- 718 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックを少額含む。
- 719 (E) 褐色 (10YR4/4) 砂質土と黒褐色 (10YR3/2) 砂質土が混在。
- 720 (E) 褐色 (10YR4/4) 砂質土と黒褐色 (10YR3/2) 砂質土が混在。
- 721 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色シルトの5mmブロックを少額含む。
- 722 (E) 褐色 (10YR4/4) 砂質土。黒褐色 (10YR3/2) 砂質土の5cmブロックを多く含む。
- 723 (E) 褐色 (10YR4/4) 砂質土。黒褐色 (10YR3/2) 砂質土の5cmブロックを多く含む。
- 724 (E) 褐色 (10YR4/4) 砂質土。黒褐色 (10YR3/2) 砂質土の5cmブロックを多く含む。
- 725 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。褐色シルトの2cmブロックを少額含む。
- 726 (E) 褐色 (10YR4/4) 砂質土。黒褐色 (10YR3/2) 砂質土の5cmブロックを多く含む。
- 727 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。1mmの砂粒、褐色シルトの5mmブロックを多く含む。
- 728 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。褐色土の5mmブロックを少額含む。
- 729 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。褐色土の5mmブロックを少額含む。
- 730 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。褐色土の5mmブロックを少額含む。粒状炭化物を多く含む。中世土師器・弥生土器。
- 731 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。褐色土の5mmブロックを少額含む。
- 732 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。褐色土の5mmブロックを少額含む。
- 733 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。褐色土の5mmブロックを少額含む。
- 734 (E) 黑褐色 (10YR3/2) 砂質土。やや粘性あり。褐色土の5mmブロックを少額含む。
- 735 (E)
- 736 (E) 中世土師器・弥生土器。
- 737 (E) 中世土師器。
- 738 (E)
- 739~743 (Ee)
- 744 (We)
- 745 (Wf) SD-28内。
- 746 (We)
- 747 (Wd)
- 748 (We)
- 749 (Ee)

iii III区の調査

III区は、遺伝子実験施設新営地点の内、汚水処理施設西側、RI施設との間の、東西5m強・南北約30mほどの発掘区である(写真82)。汚水処理施設西側を南北方向に、X=92780以南をIIIa区、X=92780~92790をIIIb区、X=92790以北をIIIc区、汚水処理施設北側をIIId区と区画した。

ただし、これらの調査区の内、発掘を行ひ得た範囲はさらに限られる。IIIa・IIIb区では、東辺は深く掘削された汚水処理施設の余掘りと土層観察用畔の設定のため、汚水処理施設西壁から約1mほど離れねばならなかつた。また西辺も、南北方向に走る複数の既設管路のため、制限を受けた。IIIa区南の管路と調査区西壁の間では、作業範囲の制限から、後論するSR-1c層までしか掘削できず、IIIa区北からIIIb区の間は調査区西辺に3条の既設管路を残したままであり、西側の2条以西は、実質表土層の掘削と既設管路の検出に留まる。したがつて、IIIa区・IIIb区を通じて調査ができる範囲は、幅約3mの範囲でしかない。さらに加えて、一定深度以後は湧水のため、汚水処理施設余掘り部分崩落の可能性が生じてきため、人力による掘削は停止せざるを得ず(図版18・19)、重機による掘削で土層の確認と一部遺物の採集に留まつた(図版84・85、図版20)。

一方、IIIc区・IIId区では、浅い地点でIV層の検出ができることもあって、逆に擾乱の影響が大きくなり、この傾向は北側ほど顕著となる。なお、コンクリート基礎と汚水処理施設に挟まれたIIId区では、現地表下1.3mまで掘削を行つたが、擾乱が続き、地山層を確認できなかつた。

このように、かなり制限された調査になつたが、それでもI区に連続すると考えられる自然流路の広がりを確認できた。まず、I区以西でSR-1とした流路内堆積が調査区南半には認められた。さらに、I区で認められた溜まり状の堆積SX-2と共通の堆積も、IIIb区北側からIIIc区南側に広がりを確認できた。III区で造構として認識したのは、この2単位のみである。

(1) SR-1 (図84・85)

I区では、SR-1の上層部分としてa・b層といった砂質土堆積が認められたが、III区ではこれらが認められず、I層・II層の下で、c層が現れる。調査区南壁

でのc層検出レベルは、現地表下約1m、標高40.2mである。北側の高所には、X=92787.5付近まで迫れる。c層の下は砂質土に転じるが、その上位には、比較的砂質が細かく、単位もやや大きな土層が広がる。後論する湧水レベルより上位にあたり、これをe1-1層と大別した。北側高位では、X=92787付近まで続く。これ以下では、流水単位が細かく細分され、また砂粒もやや粗い場合を含む砂質土層に代わり、これをe1-2層とした。北側にはX=92788辺りまで広がり、最北部では後論するSX-2c層の下に堆り込んでいる。一方、湧水レベルの39.6m以下は、細分は行ひ得ていない。また、e1-1層とe1-2層の間にd層と認識した溜まり状の粘質土が入る場合があり、南壁とSR-1の北岸付近でその堆積が顯著である。

SR-1は、X=92783付近で南に大きく落ち込み、その落ち方ラインは、ほぼ東西方向に幅約2mを検出した。落方付近では、約70cm一気に落ち込みを形成し、40cm前後のd層の下に、約20cmの厚さの砂疊層であるe2層を最下層として、底となる。この地点での底のレベルは、39.0mを測る。ここから南には徐々に底のレベルを下げ、またこれと並行してe2層の厚さを増す。確認できた最南部のX=92775付近で、底面レベル38.6m、e2層の堆積厚45cmである。流路の最深部に達しているのかどうかは不明。

SR-1からはまとめて遺物が出土している。ただしd層出土遺物を固化できるものはなかった。

① c層出土遺物 (図86、図版30-1・2)

c層出土の内、固化できたのは46点。1~7は須恵器。1は壺蓋の稜部で6世紀前葉。2・3は坏口縁部。7世紀初。4は提瓶の胴部片で、成形時の円盤閉塞が窺える。5は長頸壺の底部。6は壺胴上部で、胴がやや強く張り、口縁部の屈曲は強い。内外面に回転ナデが施され、器壁は薄い。7は鉢口縁部。7世紀後半。8は赤焼けの須恵質陶器。外面には平行タタキ後、横方向のヘラ状工具による強いナデが施される。

9~12は坏・碗の口縁部。9は須恵器。10世紀段階。10は瓦器輪。ヘラミガキは不明瞭。13世紀段階。11~12は土師器輪の口縁部。11は内面に薄く炭素の吸着が見られ、12は端部がわずかに端反りする。13~33は坏底部。13のみ須恵器で、他は土師器。13~25は円盤状高台。13~21は直上に立ち上がり、22~25は内傾または

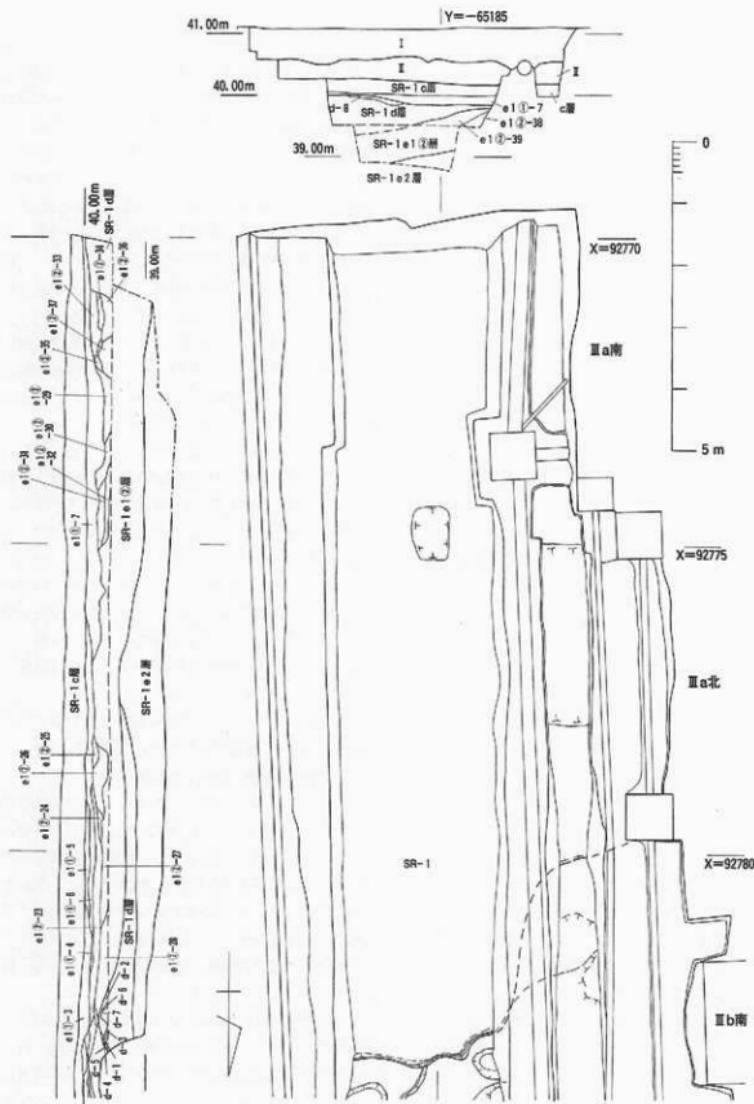


図84 III区実測図(1) (縮尺 1/80)

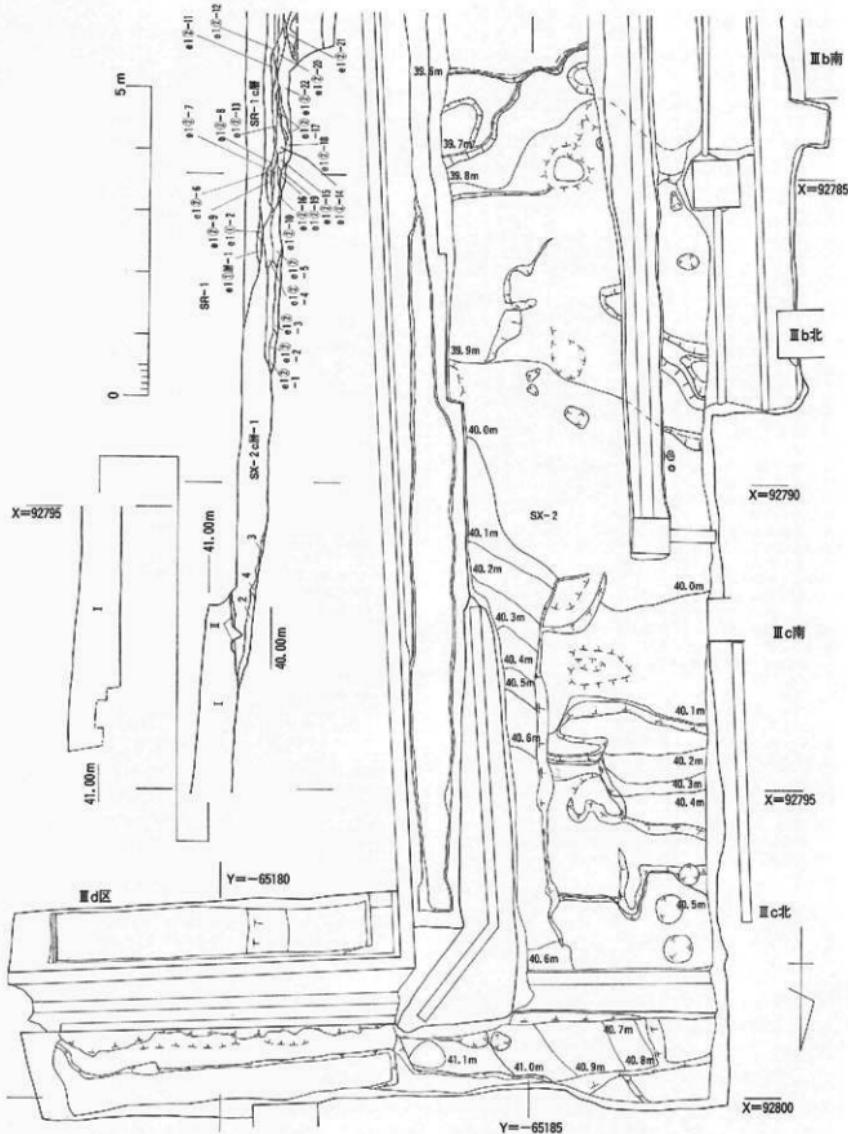


図85 III区実測図(2) (縮尺 1/80)

図84・85 土層注記

SR-1e1-1層

- にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土。下部にいくにつれ、砂質が増す。しまりあり。
- 1 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂質土。やや粗く、1~5mmの砂礫をまばらに多く含む。
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土。やや粘性あり。きめ細かく、礫はほとんど含まない。
- 3 にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土。きめ細かく、礫をはとんど含まない。
- 4 にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土。上部を含む。3~5mmの礫を多く含む。
- 5 黄褐色(10YR4/2) 砂質土。きめ細かく、しまりあり。
- 6 灰黄褐色(2.5Y6/2) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土と混じる。粒と比べ、砂粒の大きさにはばらつきあり。礫をわずかに含む。
- 7 斑状黄褐色(2.5Y5/2) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土と混じる。明赤褐色(10YR6/8) 土を1.5cmの円形ブロック状に含む。砂粒は細かく、2mmの粒がまばらに入る。しまりあり。粘性は弱い。

SR-1e1-2層

- 1 暗褐色(10YR3/3) 砂礫層。1~7cmの礫を多く含む。
- 2 暗褐色(10YR3/3) 砂質土。3cmの礫を極少量含む。
- 3 黒褐色(10YR3/2) 砂質土。粘性が強い。
- 4 褐色(10YR4/4) 砂質土。5層に比べ、きめが細かいが部分的に1~3mmの砂礫を少し含む。
- 5 褐色(10YR4/4) 砂質土。0.5~5cmの砂礫を多く含む。
- 6 オリーブ褐色(2.5Y4/3) 砂質土。
- 7 にぶい黄褐色(10YR5/3) 砂質土。きめ細かく、礫はほとんど含まない。
- 8 きめ細かく、ほとんど礫を含まない。
- 9 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土。下部に1~2cmの礫を多く含む。上部は5mmの粒を多く含む。
- 10 たまり状部分。
- 11 灰黄褐色(10YR4/2) 砂層。1~3cmの礫を多く含む。砂質も粗い。やや褐色味を帯びる。
- 12 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土。やや細かい砂の上に3cmの礫を多く含む。
- 13 黄褐色(10YR4/2) 砂質土。鉢分の多い砂を下部に多く含む。
- 14 黄褐色(2.5Y5/3) 砂質土。黒褐色(10YR3/2) 砂質土が20cmのレンズ状ブロックとして入る。砂質土の中にブロックとして粘質土が入り込む。
- 15 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土と粘質土が混じる。
- 16 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土。1~2mmの粗砂を多く含む。
- 17 にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂質土。1層よりやや細かい砂粒。
- 18 灰黄褐色(10YR4/2) 砂層。灰色の強い砂の層。3~5mmの粒を多く含む。
- 19 離層。5~10cmの丸みを帯びた砂。すき間に粗い褐色の砂が混じる。
- 20 砂礫層。褐色と灰黄褐色が混じる。2~5cmの礫を多く含む。
- 21 にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂礫層。1~3cmの礫を多く含む。
- 22 砂礫層。5~20cmの礫。粗い砂が入り込む。土器片を含む。
- 23 灰黄褐色(10YR4/2) 砂層。1~3cmの礫を多く含む。砂

粒も粗い。やや褐色味を帯びる。

- 24 黄褐色(10YR6/1) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土が混じる。やや粘性がある。しまりは弱い。
- 25 黄褐色(7.5Y5/1) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土がわずかに混じる。ややしまりあり。わずかに湿り気をもち、やや粘性あり。砂粒は細かい。
- 26 黄褐色(10YR6/1) 砂質土と赤褐色(5YR4/8) 土が同程度混じる。部分的に5mmの礫が5cm程のブロック状に入る。非常にサクサクしている。砂粒は粗い。
- 27 黄褐色(10YR6/1) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土が線状に入る。やや粘性あり。砂粒は細かい。
- 28 斑状黄褐色(10YR4/2) 砂質土。やや粘性あり。
- 29 黄褐色(10YR5/2) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土と混じる。しまりあり。
- 30 黑褐色(10YR3/1) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土を上位にわずかに含み、黄褐色(10YR8/8) 土の1cmブロックをわずかに含む。砂粒は細かく、しまりあり。
- 31 黄褐色(2.5Y5/1) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土と混じる。2mmの礫をまばらに含み、しまりあり。
- 32 灰色(5Y5/1) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土と混じる。しまりはあるが、サクサクした感もある。
- 33 黄褐色(10YR4/2) 砂質土。明赤褐色(10YR8/8) 土の1cmブロックを多く含み、しまりあり。
- 34 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土。33より赤味が強い。黄褐色(10YR8/8) 土の2cmまでのブロックをわずかに含み、しまりあり。
- 35 黑褐色(10YR4/1) 砂質土。37層との互層。黄褐色(10YR8/8) 土の1cmブロックを含み、非常にしまりが強い。
- 36 記載漏れ。
- 37 黄褐色(10YR5/2) 砂質土。明赤褐色(5YR5/8) 土と混じる。非常に砂粒は粗かい。

SR-1e2層

砂礫層。

SR-1d層

- 1 黄褐色(10YR4/2) 砂質土。灰色味が強く、やや粘性あり。
- 2 黑褐色(10YR3/2) 砂質土。
- 3 黄褐色(10YR4/2) 砂質土。やや粗い砂粒。
- 4 黑褐色(10YR2/2) 砂質土。粘性が強く、しまりあり。
- 5 砂層。
- 6 黄褐色(10YR4/2) 砂質土。灰色味が強く、やや粘性あり。
- 7 にぶい黄褐色(10YR4/3) 砂層。2~5mmの礫が多く、砂質は粗い。
- 8 灰黄褐色(10YR4/2) 砂質土。褐色(10YR4/6) 砂質土の0.5~2cmの円形ブロックを多く含む。礫はほとんど含まない。
- 9 黑褐色(10YR3/2) 砂質土。やや褐色味が強い。黄褐色(10YR8/8) 土の1cmブロックが多く、3cmブロックをわずかに含む。しまりあり。

SX-2層

- 1 黑褐色(10YR3/2) シルト質土。1cmのN層小ブロックをラミナ状に含み、粘性が強い。しまりあり。遺物を多く含む。I区SX-2c~7層に相当。
- 2 暗褐色(10YR3/3) 砂質土。
- 3 暗褐色(10YR3/3) 砂質土。1層よりやや砂質が強い。しまりあり。
- 4 褐色(10YR4/4) 砂質土。1~3mmの礫をやや多く含む。

高台は断面三角形で低く、焼成は良くない。13世紀代。

44は堀端口縁部で、上方に立ち上がり、端部は丸く収める。内面の器表面は剥落が激しく、また外面ともに被熱により赤変。45は焼成粘土塊で、片面は面をもつ。46はガラス溝付着の上器片。47はサスカイト製打製石錐で、凹基無茎式。剥離は薄く内部にまで及んでいない。48は磨製石庖丁の側面部近くの小片で、緑色

は丸みをもち、26のみ外輪する。28~33は高台と体部の境目が曖昧である。30は厚みのある底部から縦やかに内湾して立ち上がる。31は回転糸切り。33は口径7.1cmの小形の壺。34~36は土器盤皿。34は回転糸切りが見られる。36は径7.6cmの小皿。37~43は楕底部で高台を有する。40~42は内裏の黒色土器。40はやや高めの断面三角形の高台で、内面ミガキ。43は瓦器。

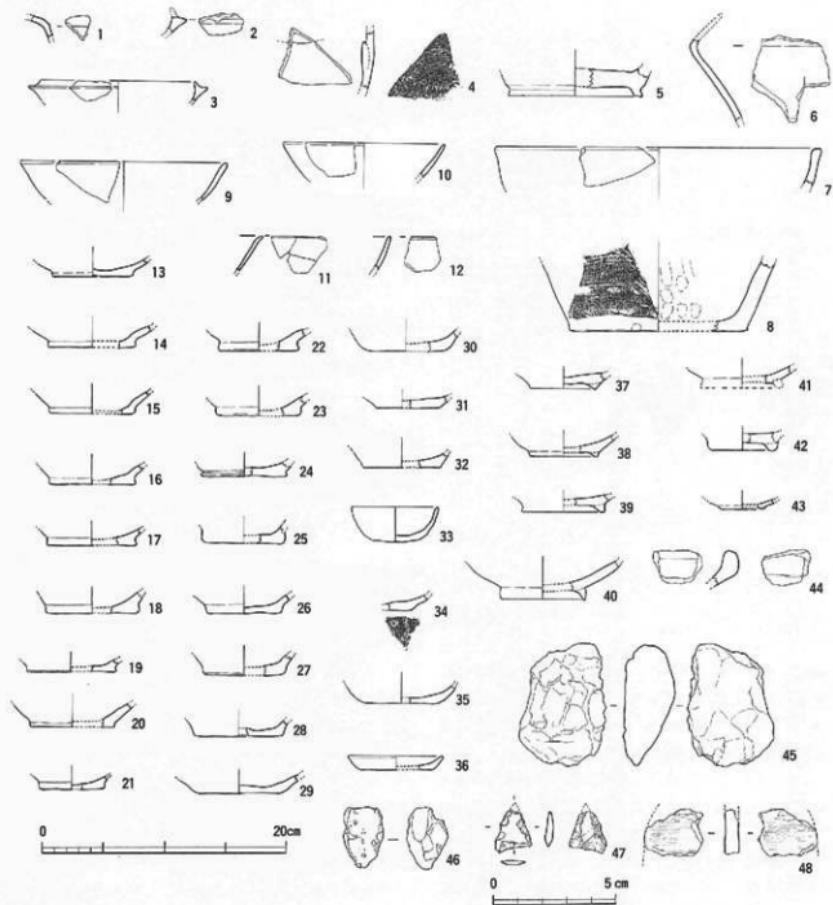


図86 III区SR-1c層出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

片岩製。なお、c層からは刀子1点(図115-3)も出土している。

② e1層出土遺物(図87-88、図版30-37)

SR-1e1層出土で固化できたのは72点。1~9は8世紀以前の須恵器。1~3は壺蓋で、1は5世紀末~6世紀初、2は6世紀前葉。4は7世紀前葉の壺。5は壺胴部片。6は8世紀後半の蓋。7は長頸壺の脚

台部。7世紀末。8は平底の壺底部。内外面ともに回転ナデ。9は大甕の体部片。10~14は土師器。10は高壺脚底部で、内面に明瞭な稜が入る。5世紀代。11は甕口縁。12は甕。13は壺口縁部。体部から口縁部に向かって緩やかに内湾し、口縁部は直立気味に立ち上がり、わずかに内傾する。14は壺底部。15~19は壺ないし椀の口縁。15のみ須恵器で他は土

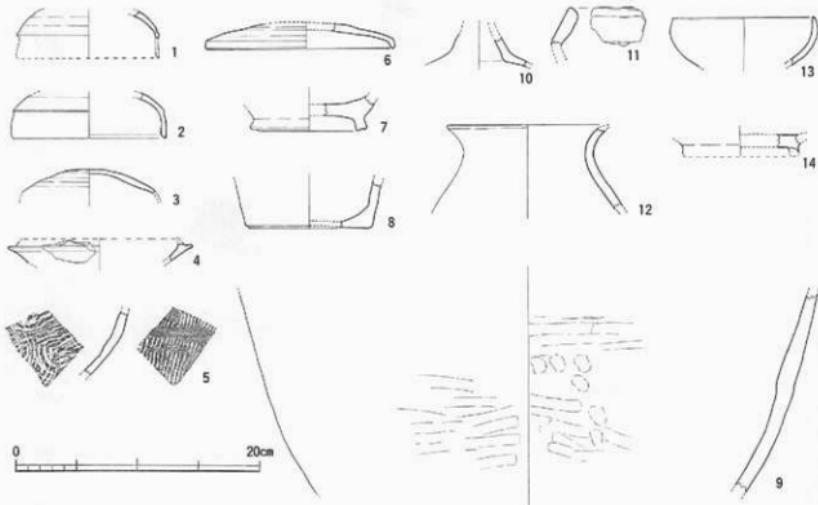


図87 Ⅲ区SR-1 e 1層出土遺物実測図(1) (縮尺1/4)

部器。15の口縁端部は強いナデにより稜が入る。10世紀代。16は外面に回転ナデによる明瞭な稜線を残し、赤色の化粧土が見られる。10世紀代。17~19は口縁端部下に強めのナデが施され、稜が入る。

20~34は坏底部である。20~24は円盤状高台。23・24は回転糸切り。24の胎土は粗い。25の底部内面は中央部が突出し、回転ナデの痕跡が明瞭に残る。28はヘラ切りの後に板目圧痕。29~31は高台をもたない。31は回転糸切り。32・33は外底面がやや凹む。33は回転糸切り。34は底径12.6cmと大型。これらの底部片は10~13世紀の範疇でとらえられる。

35~45は土師器皿。35~38は口縁部。35は楕の可能性もある。38は厚みのある底部から直線的に立ち上がる。外面に赤色の化粧土が見られる。39~45は小皿。40はヘラ切り。44は口径7.6cmとかなり小さい。45は内底面の中央が突出する。切り離しは回転糸切り。

46~50は楕の口縁。46~50は体部から緩やかに内湾し、口縁先端で短く外反する。いずれも口径16cm前後。51は内黒の黒色土器体部片。内面はミガキが施され、

下方ほど密。外面には煤が付着。53~71は楕底部で高台を有する。53・54は所謂足高高台で、53は重厚な底部。55~58は断面三角形の高台。56は丁寧なナデを施し、器壁はなめらか。60は低めの高台で、内底面には多方向のナデ。62は内面に雜なミガキを施す。62・66・67は、底部回転糸切りの後、高台貼り付け。68~71は内黒の黒色土器。内面のミガキは、70が定方向、71は放射状。

72は被熱粘土塊。2~3mm幅のスサ状痕が見られる。73はガラス滓。内面は黒色で表面と断面の一部にはぶい赤褐色を呈する。74は土師器坏。10世紀前半。

③ e 2 層出土遺物 (図89、図版31~4)

重機掘削の際、e 2 層出土として回収した遺物の内、図化できたのは38点。

1~10は須恵器。1・2は坏蓋で、ともに稜が明瞭で5世紀末から6世紀初。3は坏底部。4は壺口縁部で、直立する筒状の頭部から、口縁端部は玉縁状に巻き込む。6世紀後葉。5は壺もしくは罐の胴部。6は直口の鉢。7世紀代。7は壺もしくは坏の底部片。焼

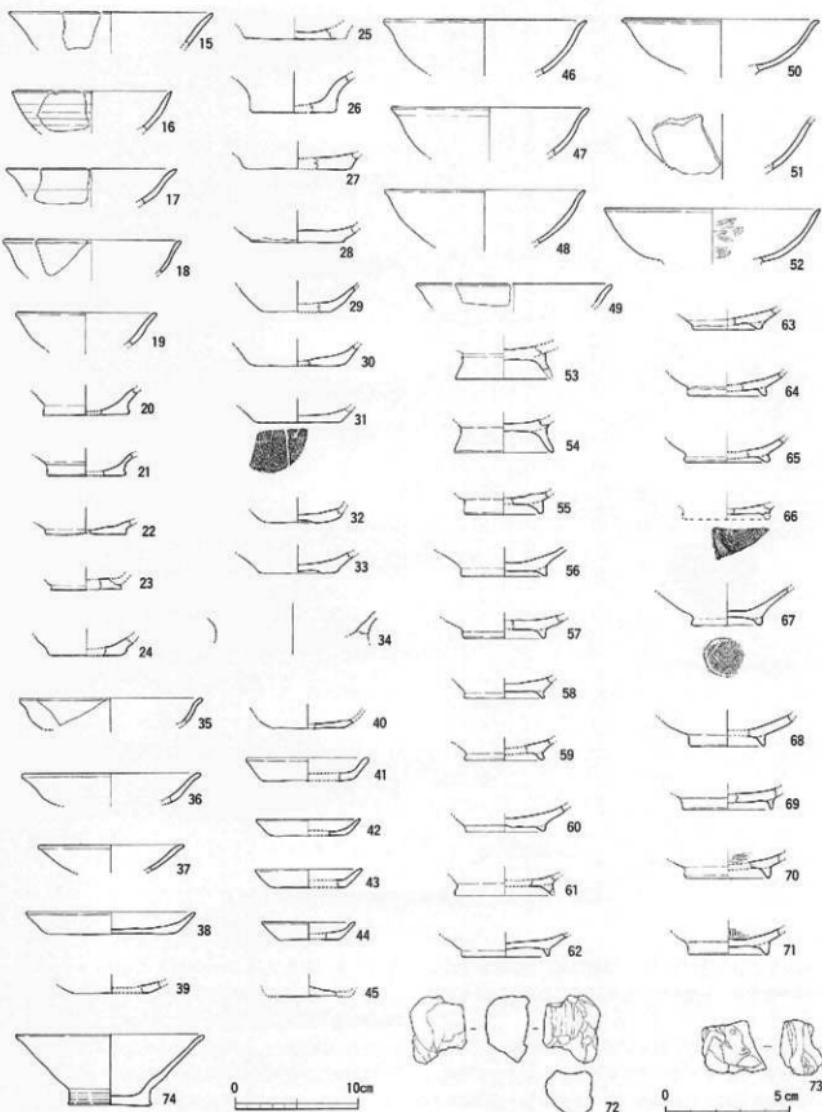


図88 III区SR-1 e 1層出土遺物実測図(2) (縮尺1/4、1/2)

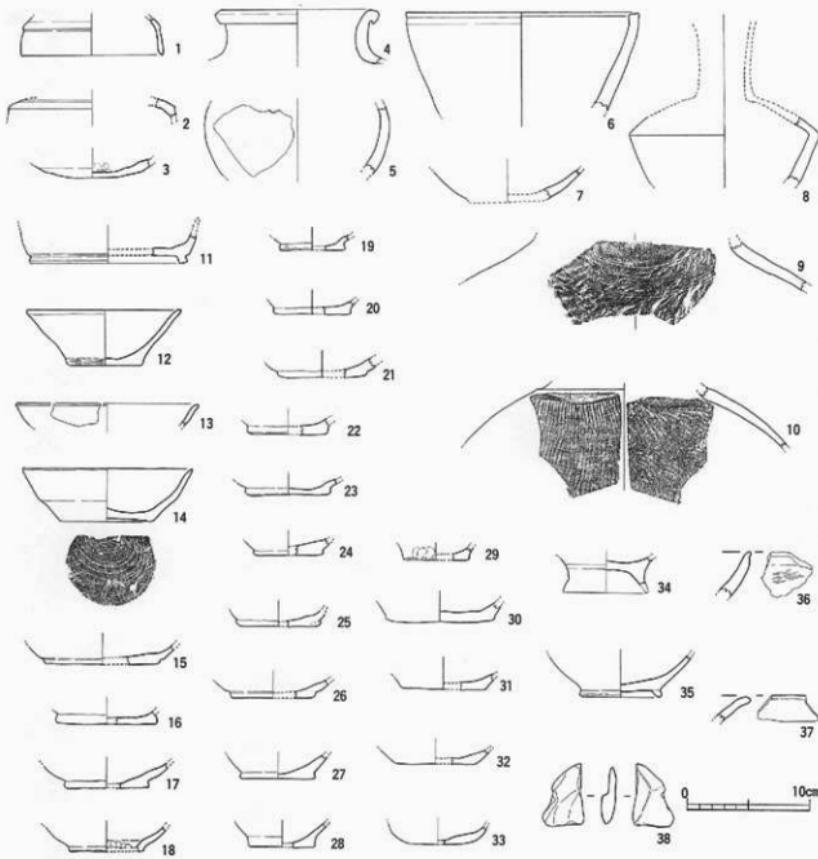


図89 Ⅲ区SR-1 e 2層出土遺物実測図（縮尺1/4）

成は軟質で火拂が入り、8世紀以降。8は算盤玉状の長頸壺脇部。8世紀代。9・10は大甕または壺の脇部上半。

11~37は土器器。11~33が壺。11は断面台形のしつかりした高台をもち、平らな底部から外上方に開く。須恵器を模倣したと考えられ、8世紀代。12は底部から緩やかに外に開き、口縁部は直口し、端部は丸く收める。底部立ち上がり部分には横方向のハケメが施さ

れる。10世紀前半。14の底部付近は強い横ナデによりくぼみ、口縁部は直線的に開く。底面は凹面で、回転糸切り痕が残る。13世紀前半。15~33は底部片で、15~28が円盤状高台。16~18はやや内傾する高台。16・17は回転ヘラ切り。15は須恵質の焼きで火拂が入る。24~26は丸みをもった高台。27はやや内傾した高台で底部をヘラ切り後ナデ。28は高めの外へ開く高台。29~32は立ち上がりがなく底部から外に開く。33は丸み

のある底部。34・35は楕底部。34は足高高台で10世紀代。35は内面にミガキ。36は甌か鉢の口縁部。37は鉢の口縁。38は泥岩質の剥片。表面の摩滅が著しい。

(2) SX-2 (図84)

I b区で認められた粘質土の溜まり状の堆積が、III区北部でも認められた。南北範囲は、X=92785~92793辺りまで、以北はI層がIV層直上にまで達する。I区では、SR-1と直接切り合わなかったが、III区では切り合い関係から、SX-2がSR-1 e1-1層とe1-2層の間に位置づけられることが判明した。

SX-2 c層出土遺物として図化できたのは、18点(図90、図版31-5)。1は須恵器坏。6世紀末葉。2は須恵器の壺底部付近。外面は回転ヘラケズリ。3~5は土器器坏・楕の底部。3は円盤状高台で緩やかに内湾して口縁にいたる。10世紀代。4は坏口縁。5は楕口縁。6~16は壺の底部で、16以外は円盤状高台。6は厚く明瞭な内傾して立ち上がる高台。底部は回転ヘラ切り後ナデ。7~13は直線的に立ち上がる高台。7は回転ヘラ切り後ナデ。12は回転糸切りでその上に板目圧痕が見られる。13は回転ヘラ切り。14・15はやや丸みをもった底部の立ち上がり。17は皿の口縁。18は鉢の口縁で、端部は短く外反。

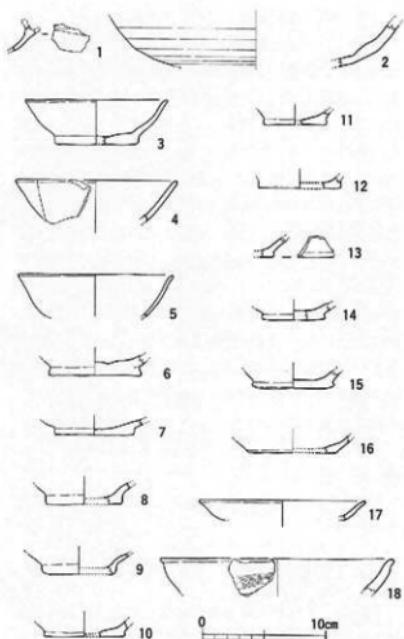


図90 III区SX-2c層出土遺物実測図(縮尺1/4)

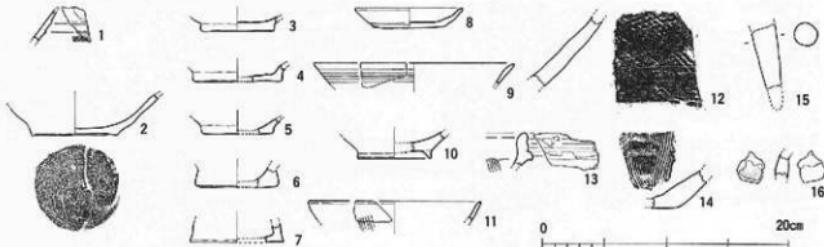


図91 III区擾乱出土遺物実測図(縮尺1/4)

(3) III区擾乱出土遺物 (図91、図版31-6)

III区の擾乱出土遺物から図化したのは16点。1は須恵器鏡の口縁部。口縁外面には微隆起突帯が2条、突帯下には櫛描波状文が施される。2~7は土師器坏の底部片。2は回転糸切り。3~6は円盤状高台で、底部に明瞭な立ち上がりをもつ。8は土師器皿。外底面はヘラ切り未調整。9は瓦器碗口縁部。外面には横ナデによる稜が明瞭に入る。12世紀。10は土師器碗底部。11は青磁碗口縁部。口縁は直口し、外面に櫛描直線文が斜めに施される。15世紀前半。12は赤焼けの須恵質陶器の胴部下半。SR-1c層出土と同じ形態の破片(図86-8)がある。13は備前焼擂鉢の口縁部。口縁部は直立し、口縁外面には四線文が2条施され、16世紀後半。14は備前焼擂鉢の底部。15は羽釜脚。16は器種不明の胴部片である。外面には粘土の繊ぎ目が見られ、内面は突然により赤変する。

(4) 小結

III区では、I区以西で検出していたSR-1の本流

部分を検出したことになる。ただし、SR-1の南岸は未検出のままで、SR-1の底にても、最終的に重機掘削によって確認したに留まる。しかしその範囲内でも、I区とは若干異なる遺物相が窺える。すなわち、III区SR-1出土遺物は、円盤状高台の土師器坏等、10~12世紀の遺物が主体で、これはI区と同様ながら、回転糸切り底の13世紀以降に下る土師器の坏・皿が、c層からe層にいたるまで、一定量出土している。また、I区SR-1ではより多く出土した、古墳時代に遡る遺物も、III区では少ない。流路内の地点により、埋没単位に差が生じていた可能性が高い。

一方、I h区で認められたSX-2の堆積がIII区でも認められ、それがSR-1e1層中に嵌入するように堆積することが判明した。別遺構でSX-2としたものの、本来はSR-1d層の面的広がりと理解できることになる。あるいは、SR-1北岸に水口等の何らかの施設が置かれたことに伴う堆積の可能性もあるが、狭い調査範囲では、不明なままである。

iv IV区の調査

IV区は、伝子実験施設新營地点の内、排水処理施設を解体した後に、その建物跡に設定された調査区である(図92)。東西約13m・南北18mを測る。排水処理施設基礎等により、表土掘削段階で既に井桁状に擾乱が及び、とりわけ北側の擾乱が激しい。それでも、擾乱の及ばなかった深度においては、調査区南側でI区・III区で検出したSR-1の本流部分を確認できだし、部分的にSX-2に相当する堆積の広がりも確認できた(図版21)。IV区で確認した遺構は、この2単位の堆積以外に柱穴1基(SP-176)のみである。

IV区内の小区画は、南北方向に、X=92780以南をIVa区、X=92780~92785をIVb区、X=92785~92790をIVc区、X=92790以北をIVd区とし、東西方向にY=-65160以東を東、Y=-65160~-65165を中、Y=-65165以西を西として、「IVb中」等として遺物を取り上げた。

(1) SR-1 (図92、図版22)

SR-1は、その北岸を北西~南東方向に斜行しながら、およそ標高39.8mで確認できた。北岸直下で39.5mまで下がり、調査区内最深部では39.2mを切る。こ

の最深部は、検出した北岸にはほぼ並行し、しかも北岸がわずかながらも北側に彫らむことから、この地点が蛇行する水流の攻撃面側に当たっていたと判断される。一方、南側については、調査区南壁付近で底のレベルが南側に上昇する部分も認められ、攻撃面と反対側で緩やかな傾斜によって、調査区外で南岸を形成していたものと推測される。その一部は、本調査に先行する事前試掘の99804調査5トレンチで検出した落ち方方が相当しよう。

IV区において発掘できたSR-1埋土は、上層のa・b層を欠き、c層以下、e1層とe2層である。c層は調査区南壁で20cm内外、e1層が60cmに及んで厚く堆積し、e2層は20cm程度とやや薄い。流路の最深部ではe2層がもう少し厚い堆積となっていたが、それでも西側のIII区と比べると、e2層の堆積は薄いようである。以下、出土層毎に遺物を解説する。

① c層出土遺物 (図93、図版32-1・2)

図化したのは28点。1は弥生土器の複合口縁壺口縁部。2・3は土師器坏底部。2の体部は丸みをもつ。4~7は円盤状高台の坏底部。4は内底面に回転ナデの痕跡が顕著で中央部が突出する。6は回転ヘラ切

り。7の内底部はへそ状に突出する。8~10は土師器皿。8は体部から縦やかに内湾し、口縁下で強いナデにより短く外反する。9は小皿。回転糸切りで、底部から体部への立ち上がりは競い。10は回転ヘラ切り後ナデ。11は須恵器。大きく開く口縁部が先端で短く外反する。9世紀代。12・13は土師器碗。14~24は施底部で高台を有する。16・18は回転糸切り後、高台を貼り付け、内面はミガキ。19は内黒の黑色土器。21は瓦器碗。高台は断面台形状を呈する。外側はナデ、内面見込みは定方向のミガキ、体部は横方向のミガキである。12世紀代。22~24は土師器。25は青磁碗部片。外側面に比較的厚い釉が施され、外側には蓮弁文の花弁が3単位残存している。26は東播系須恵器のこね鉢口縁部。11世紀後半から12世紀前半。27は土師質のこね鉢口縁部。28は羽釜口縁部で14世紀前半。29は漁戸・美濃系のおろし皿。外底面は回転糸切り痕が残る。

(2) e1層出土遺物(図94~95、図版32~3~9)

国化したのは59点。1・2は須恵器壺蓋。とともに6世紀後葉。3は須恵器壺底部。内面に青海波文の当て具痕が残る。

4~42・44・45は土師器。4・5は壺口縁部。4は10世紀代。5は大型。6は皿口縁部で、白色の精製土を用いる。8~31は壺底部。8~25は円盤状高台。26~30は立ち上がりのないもの、曖昧なもの。8・13・16は須恵質に近く白色系の胎土。9・10・15~18・20・24・25・30・31は回転ヘラ切り。9・10はヘラ切り後板目圧痕。15は切り離し後ナデ。16は板状の擦痕が見られる。8・12・26・27・29は回転糸切りである。32~40は皿。32は大型。37は回転糸切り痕が残る。38は底部が厚く、口縁先端は短く外反する。外底面は回転糸切り痕が残る。39・40も回転糸切り。37~40の小皿は、13~14世紀。41・42は碗口縁部。44は足高高台で10世紀代。45は底部。

43~46・50は内黒の黑色土器の碗。43は縦やかに外に開く。器壁は薄く、内面横方向のミガキ、外面横ナデ。46~50は底部。46は回転ヘラ切り後やや高めの高台を貼り付ける。体部は横方向のミガキ。47の内面も横方向のミガキ。48・49は外側横ナデ、内底面に定方向のミガキ。49の欠損した高台の貼り付け面には2条の沈継が見られる。

51・52は土師器土鍋。51は口縁部の屈曲が強く、内面には明瞭な棱が入る。外側は縦方向の粗いハケ。内面の稜はハケメ調整による器壁の段差。52は口縁部。

53は須恵器壺の筒状頸部。54は軟質ながら須恵質の壺底部。白色系の胎土。55は堀もしくは壺の胴下半部。56は壺の胴上半部。胎土は砂粒を多く含む。57は鉢の口縁部で、白色系の胎土。口縁部は短く屈曲し、上方へわずかにつまみ出される。58は瓶の胴部。胴部外面は格子目状のタタキの後粗いハケメ。59は羽釜脚部。

(3) e2層出土遺物(図96~98、図版33)

e2層からは117点を国化した。1は弥生土器の複合口縁壺。2~5・8~12は須恵器。2・3は壺。6世紀末から7世紀初頭。4は壺蓋。天井部には扁平なつまみがつく。8世紀代。5は壺底部。高台は内側のみ接地する。8世紀後半。6は土師器の壺底部。7は土師器の壺口縁部。8・9は壺体部。10は壺底部。9・10は胎土・焼きから古代。11は壺口縁部。5世紀後半に遡る。12は筒状の胴部。

13~75は壺ないしは皿。75のみ須恵器で他は土師器。13~21は口縁部。13~17は皿で、17は大型。18は内傾する立ち上がりから、体部は縦やかに内湾し、口縁端部は丸く収める。底部外面は回転ヘラ切り。10世紀代。21の壺は短い立ち上がりで、体部は直線的に外傾する。やはり10世紀代。22~75は底部。22~62は円盤状高台をもつ。22~37はほぼ直上に立ち上がる高台で、22は短く、33~36はやや長く立ち上がる。24・33・37は回転ヘラ切り、26は外底面に板目圧痕が見られる。34は回転ヘラ切りの上に板目圧痕。38~54は内傾する円盤状高台。40は回転ヘラ切り後板目圧痕。42は回転ヘラ切り。45は外底面は凹形で、回転糸切り。49は回転ヘラ切り後にナデ。50は回転ヘラ切り。53は回転ヘラ切り後部分的にナデ。54は回転糸切りで、精製土を用いる。55は高く内傾する立ち上がり。56~62は外傾または丸みを持った円盤状高台。56は回転ヘラ切り後ナデ。58は精製土を用い、内面ミガキ。56・60は回転ヘラ切り。63~75は立ち上がりが曖昧もしくは見られない底部。63・64は回転ヘラ切り。65は回転ヘラ切り後板目圧痕。75は須恵器で丸い底部。

76は皿底部。77~81は口径10cm前後の小皿。79は外底面回転ヘラ切り未調整。いずれも10~11世紀。

82~110は碗。89が瓦器、90は須恵器、92が青磁、103~108は内黒の黑色土器で、他は土師器。82~91は口縁部。82・83の縁部は肥厚して縦反りする。82は内面ミガキで精製土を用いる。84も内面ミガキ。85は内外面ともにミガキ。89は瓦器で12世紀代。90は須恵器。口縁端部付近で屈曲し、丸く収める。91の口縁部は強

II層

- 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質土。明赤褐色 (5YR5/8) 土の1cmの円形ブロックをわずかに含む。サクサクした感じ。
 - にぶい黄色 (2.5Y6/3) 砂質土。赤褐色 (5YR4/8) 土が混じり、黒褐色 (10YR3/2) 土を棒状ブロックで含む。
 - 黄色 (2.5Y8/6) シルト、明褐色 (7.5YR5/8) 土、黒褐色 (10YR3/2) 土、灰白色 (7.5Y7/2) 土が混じり、色調斑ら。
 - 橙色 (7.5YR6/6) 砂質土。にぶい黄橙色 (10YR6/4) 砂質土と混じる。砂粒は均質。
 - 明黄褐色 (10YR6/6) 砂質土。4層と互層。しまりあり。やや粘性あり。
 - 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土。黒褐色 (10YR3/2) 粘質土を含む。
- SR-1・2層**
- 暗褐色 (10YR3/2) 砂質土。1mまでの粗砂を少し含み、しまり強い。やや粘性あり。遺物含む。
- SR-1・1層**
- 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。色調は全体にぼんやり、灰色味や黄色味を帯びる箇所もある。部分的に暗赤褐色 (2.5Y3/6) 土を含む。
 - 灰黄色 (2.5Y6/1) 砂質土。ややにぶい色調で、砂粒の大きさにはばらつきがあり、1.5cmの礫もまばらに含む。
 - 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土。1層に比べ、暗い色調。3mm程の礫を多く含む。
 - c層に同じ。c層との間に薄い隙間を点々と介在。
 - 褐灰色 (10YR4/1) 砂層。5cm前後の礫を含み、しまり弱い。
 - 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。砂粒は細かく、0.1mm以下。しまりは弱い。部分的に層をミナナ状に含む。
 - 黒褐色 (10YR3/1) 砂質土。d層ブロックがラミナ状に混じる。
 - 褐灰色 (10YR5/2) 砂層。1m前後の粗砂を混じえ、しまりは弱い。
 - 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。d層・IV層を含む。しまりあり。
 - にぶい黄橙色 (10YR6/3) 土。砂粒は1mm前後。しまり弱い。
 - 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土。砂粒は0.1mm以下で細かいがしまりは弱い。c層を10層よりやや多く含む。
 - 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂層。1cmまでの礫を含み、しまりは弱い。
 - 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。砂粒繊かく、わざかにd層を含む。
 - 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土。d層・IV層を含み、しまりあり。
 - 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土。1m前後の粗砂を含み、しまりあり。
 - 褐灰色 (10YR5/1) 砂層。1cm前後の礫からなる。鉄分の沈着あり。しまり弱い。
 - 黑褐色 (10YR3/1) 砂質土。d層をブロック状に多く含み、粘性あり。
 - 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。わざかにd層を含む。しまり弱い。
 - 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土。砂粒は0.1mmまででしまり弱い。
 - 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土。明赤褐色 (5YR5/8) 土が混じる。1cmの礫をほんのわずかに含む。粘性弱い。
 - 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。明赤褐色 (5YR5/8) 土が20層以上多く混じる。砂粒は細かいが、ぱらつきあり。サクサクした感じ。
 - 褐灰色 (10YR5/1) 砂質土。砂粒は細かく均質。小石をわざかに含む。
 - 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。明赤褐色 (5YR5/8) 土が混じる。感覚は2層と似る。
 - 褐灰色 (10YR4/1) 粘質土。粘性はやや弱く、23層との互層。
 - 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。砂粒は細かく1mm程の粗砂も多く含む。
 - 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。砂粒は細かく2mmの礫をわざかに含む。
 - 灰黄色 (2.5Y6/2) 砂質土。砂粒は細かく均質。サクサクした感じ。
 - にぶい黄橙色 (10YR6/4) 砂礫層。礫は5mmと小さいが、非常に多い。
 - 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト。やや粘性あり。部分的に28層との互層。
 - 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質土。明褐色 (7.5YR5/8) 土をブロック状に含む。灰白色 (7.5YR5/1) 土が混じる。
 - にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質土。砂粒は細かく、2mm程の礫をやや多く含む。一部にやや大きい砂粒が混じる。やや粘性あり。
 - 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。砂粒は細かく均質。橙色 (7.5YR6/8) 土が混じり、しまりあり。
 - 褐灰色 (10YR4/1) 砂質土。2mmまでの砂礫をわざかに含む。東側の高所では橙色 (7.5YR6/8) 土が混じり、小石は見られない。
- SR-1・2層**
- 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂礫。5cm前後の礫を主体とし、しまり弱い。鉄分の沈着あり。
 - にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂礫。5cm前後の礫を含み、しまり弱い。

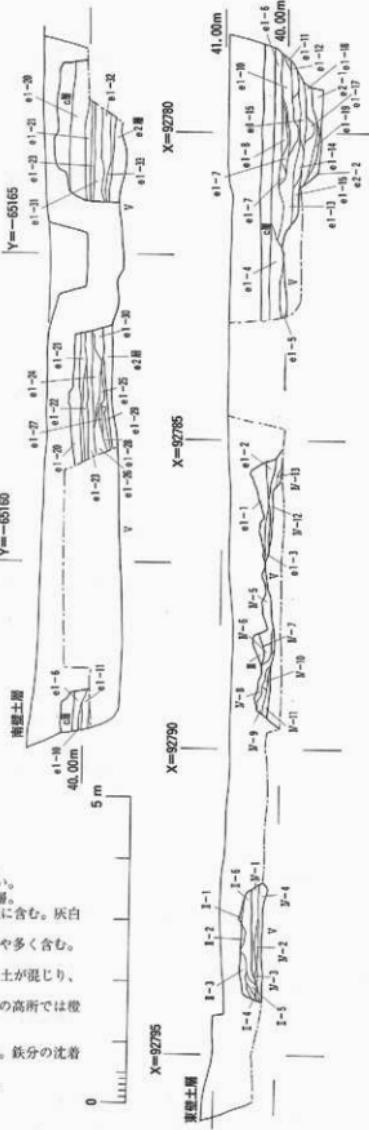
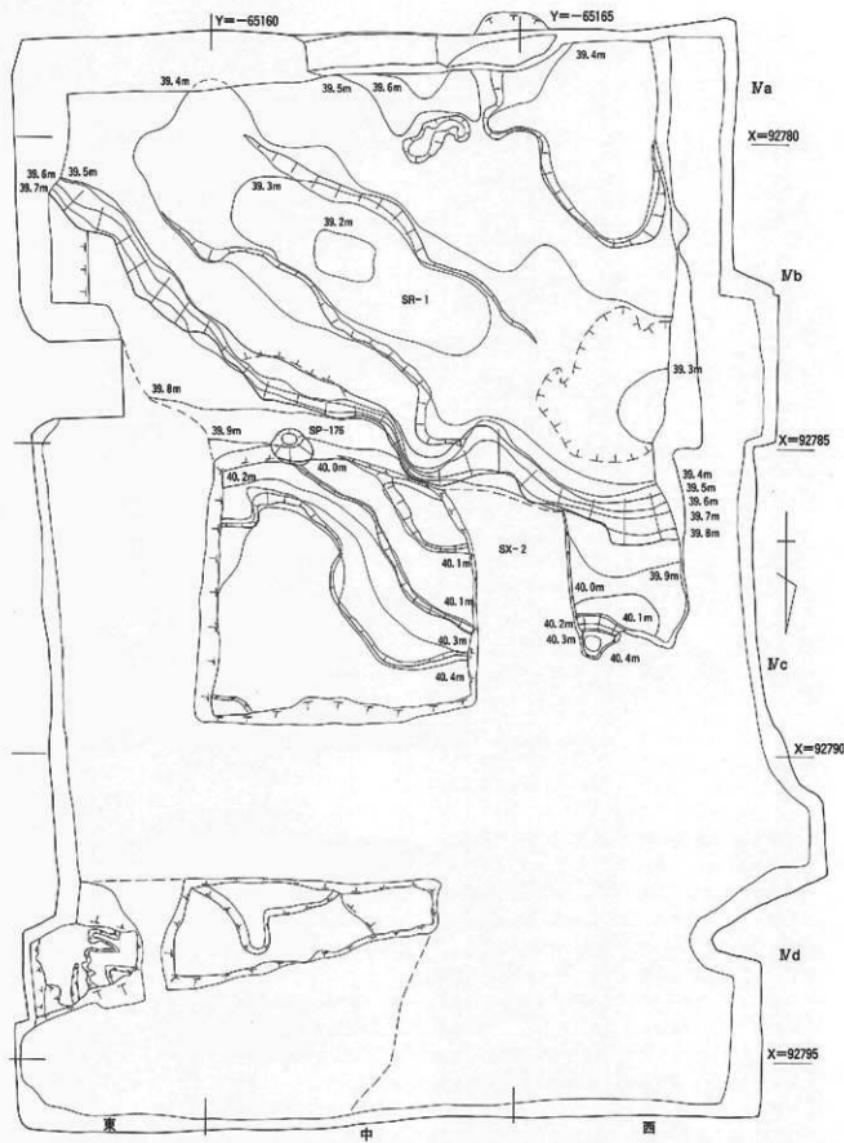


図92 IV区実測図（縮尺1/80）



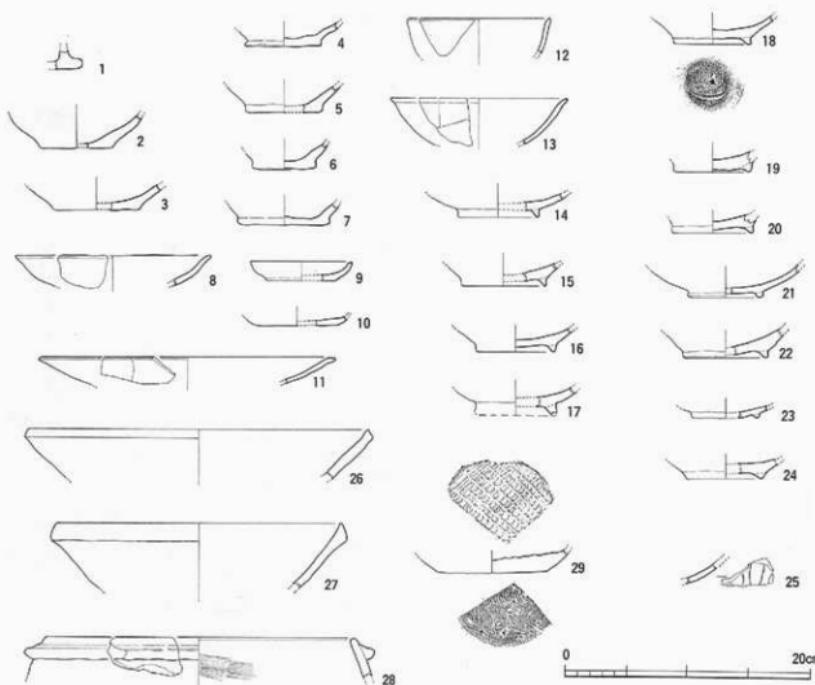


図93 IV区SR-1c層出土遺物実測図（縮尺1/4）

く外反する。92は青磁碗の体部片。内外面の釉はやや厚みがある。93~110は底部。93・94は足高高台で、93の高台端部は反り氣味に開く。10世紀代。99~102は内面にミガキを施し、胎土は精良。99・100は見込みに定方向のミガキ。100の外面には赤色の化粧土が塗られる。回転糸切り後高台貼り付け。104は内面横方向のミガキ。105も内面にミガキ。高台の欠損部には貼り付けの際の沈線が2条が見られる。108は底部内面に定方向の密なミガキ。109は内外面黒色の黒色土器。高台は低く器壁も薄い。110は須恵質で外底面はケズリ。

111は土師質土鍋の口頭部。112は土師器の壺頭部。胎土は細かい砂粒を多く含む。113は、軟質で白

色系胎土の須恵質の壺底部。外面は底部付近に横方向のハケメ後ナデ消し。114は土鍋の頭胴部。115は土鍋の口縁部。口縁部はやや強く屈曲し端部は面をなす。116は土釜の口縁部で、口縁部外面に粘土帯を1条貼り付ける。10世紀代。117は羽釜脚。

(2) SX-2 (図92)

I h区及びIII区で認められた粘質土の溜まり状堆積が、やはりIV区でも部分的に認められた。擾乱により、高位部分がほとんど失われている中で、IVc区西とIVc区中の、島状部分において、IV層の直上、南側では薄くSR-1c層を被った下で、SX-2c層が広がっていた。

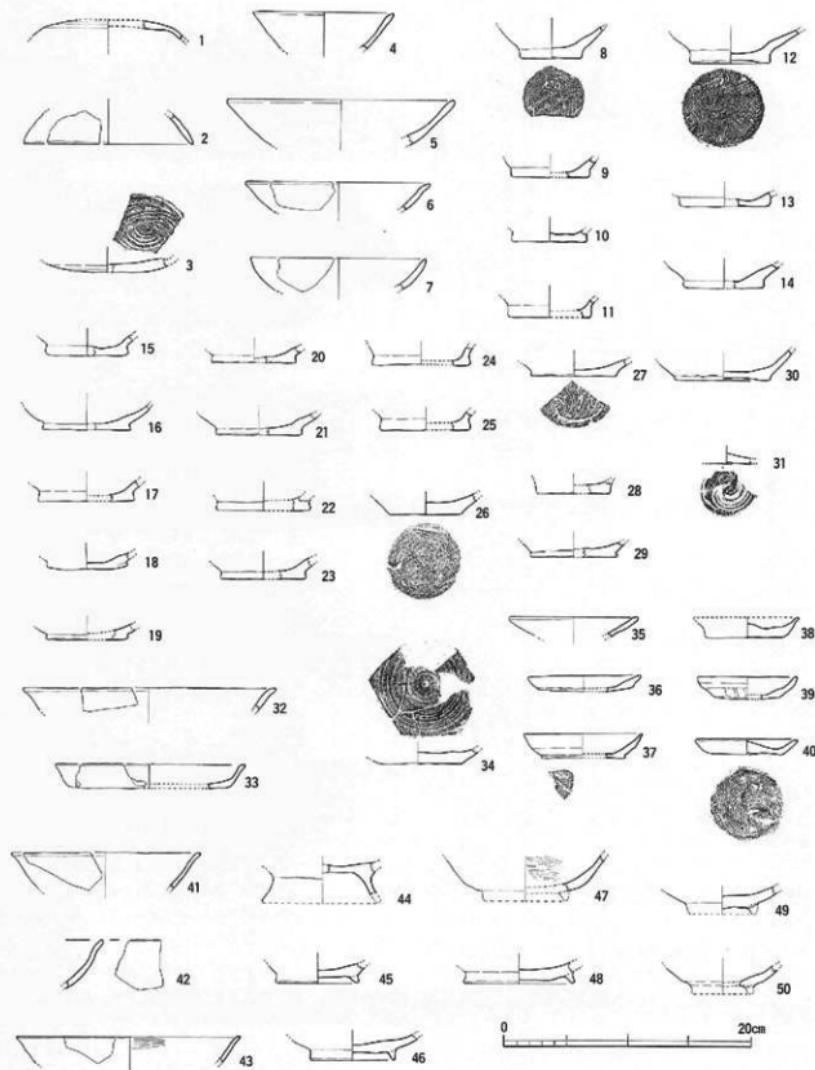


図94 IV区SR-1 e 1層出土遺物実測図(1) (縮尺1/4)

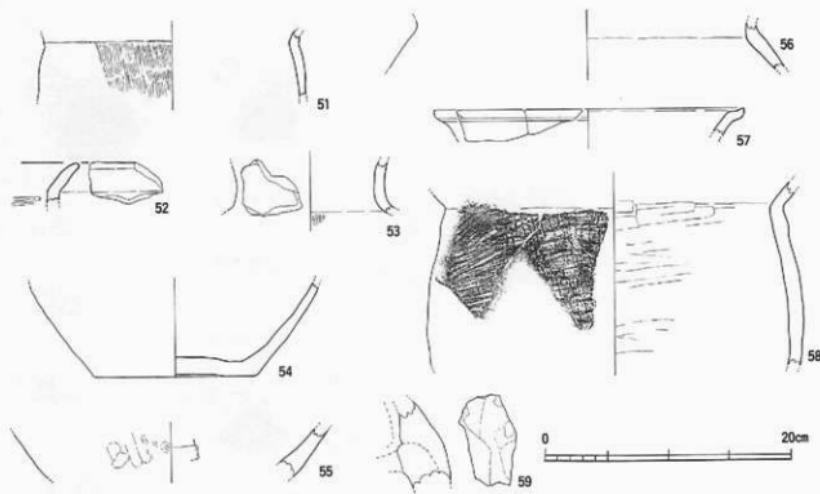


図95 IV区SR-1e 1層出土遺物実測図(2) (縮尺1/4)

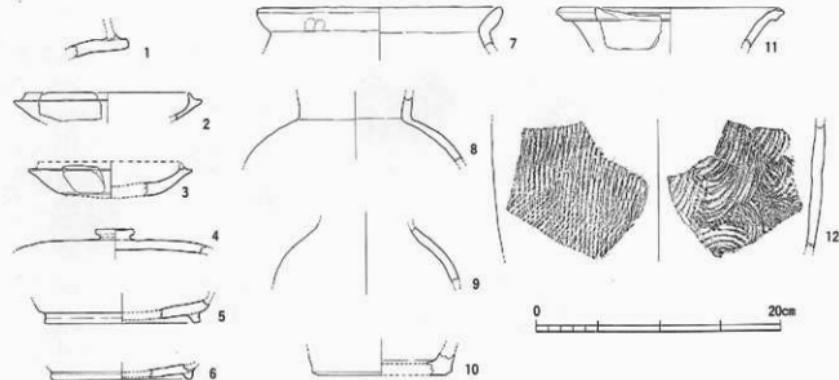


図96 IV区SR-1e 2層出土遺物実測図(1) (縮尺1/4)

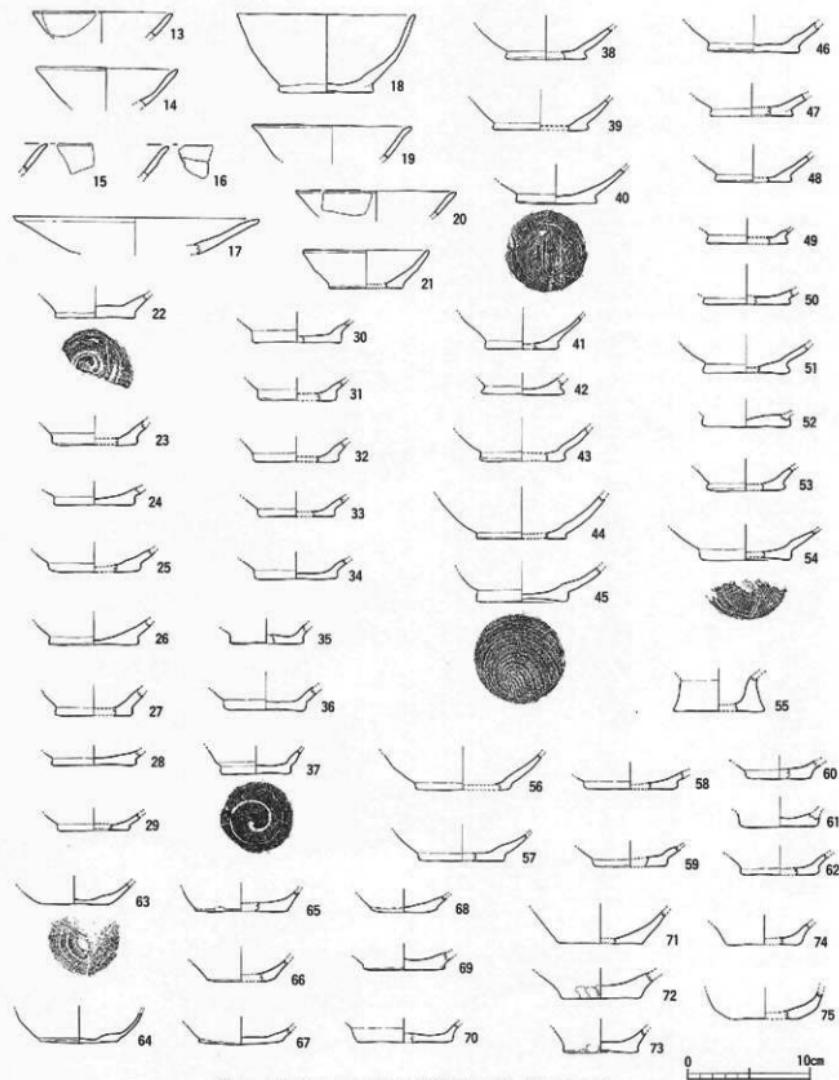


図97 IV区SR-1 e 2層出土遺物実測図(2) (縮尺1/4)

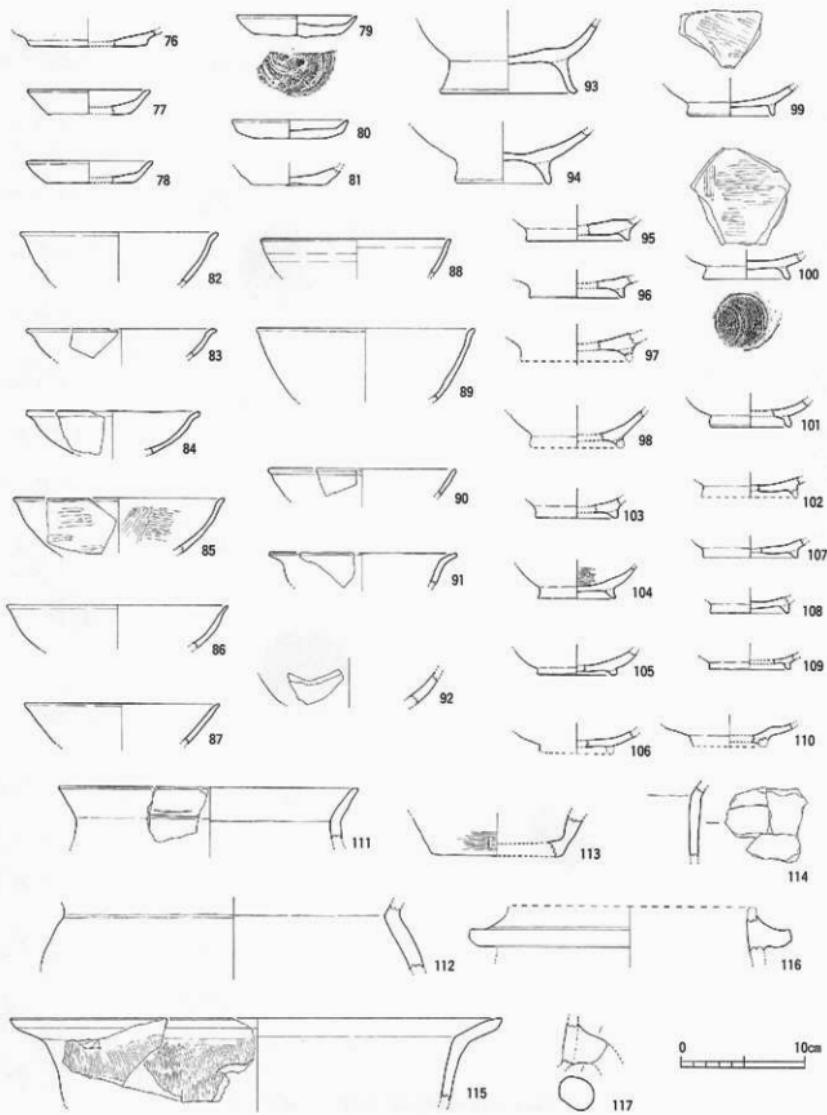


图98 IV区SR-1 e 2 层出土造物実測図(3) (縮尺1/4)

SX-2c層出土遺物の内、図化したのは12点(図99、図版34-1・2)。1~3は円盤状高台の壊底部。外底面はすべて回転ヘラ切り。1・3は土師器、2は軟質の須恵器。4は、口縁下に強い回転ナデにより、「て」の字状となった皿口縁部。5は口径8cmの小皿。6は皿もしくは壊の底部。7は椀で、強いナデにより口縁先端で外反する。8は瓦器椀口縁部。12世紀代。9~11は高台付きの椀底部。11は回転糸切り後、断面三角形の高台を貼り付ける。12は須恵質の平瓦。凸面繩席文タキで、四面は細かな布目が見られる。SX-2出土遺物も点数は少ないが、SR-1出土遺物と様相に差はないようである。

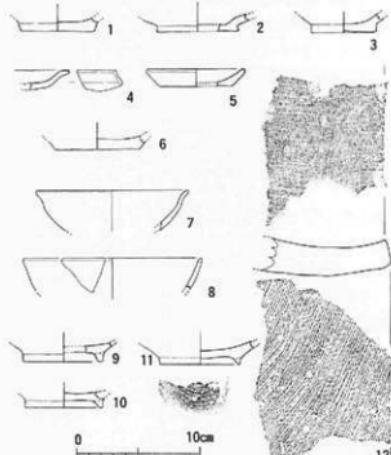


図99 IV区SX-2c層出土遺物実測図(縮尺1/4)

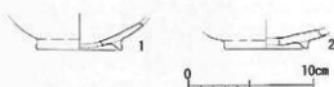


図100 SP-176出土遺物実測図(縮尺1/4)

(3) SP-176(図92)

SX-2c層掲げ中に、同じc層を埋土とする柱穴を確認した。SP-176である。掲乱によって南半は上位を削平されているが、北半の残存部分では、柱穴上端径80cm前後に復元できる。残存した最高所から柱穴底までの深さは40cmを測り、底面は25×18cm程の東西に長い楕円形である。出土遺物として2点が図化できた(図100、図版34-3)。いずれも土師器椀底部である。1は断面三角形、2は台形状の高台をもつ。

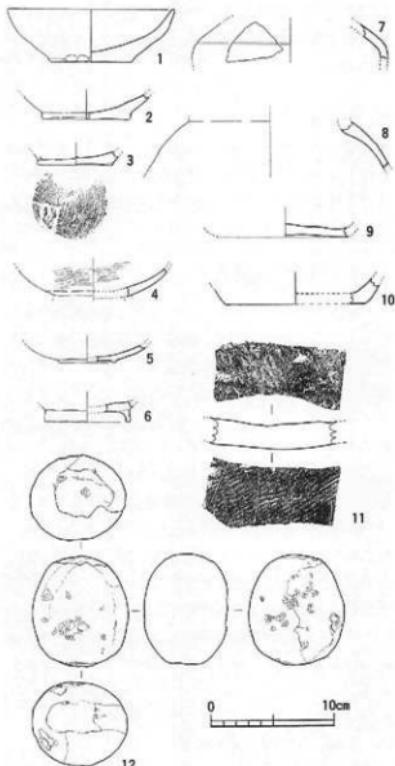


図101 IV区掲乱出土遺物実測図(縮尺1/4)

(4) IV区捲乱出土遺物 (図101、図版34-4・5)

最初に述べたように、排水処理施設撤去に伴う捲乱がIV区には大きく及び、それら捲乱部から出土した遺物の内、12点を図化した。

1～3は壺。1は短い立ち上がりから緩やかに内湾し口縁部にいたる。立ち上がり部分に指頭圧痕がよく残る。2は円盤状高台の底部。底部は回転ヘラ切り後ナデ。3は回転糸切り。4～6は碗底部。4は内黒の黒色土器。内外面ともに横方向のミガキ。5は内外面ともにナデ。6は底部回転糸切り後、やや長めの高台を貼り付ける。7は須恵器の短頸壺もしくは瓶の胴上半部。8は土師質の壺。9は中世陶器の平底壺の底部。胎土は砂粒が多く含む。10は天目の底部。底面は露胎。11は平瓦。凸面は平行タタキをナデ消し、凹面もナデ。12は砂岩質の敲石。平面格円形ではほぼ全面に敲打痕が見られる。

(5) 小 結

IV区では、捲乱が著しいとはいえ、I区・III区で部分的にしか調査できなかつたSR-1について、北岸から底まで東西約10mにわたって調査できたことにな

る。しかも、底部の様子や先の試掘調査の成果を加味すると、SR-1の南岸の位置の特定もおよそ可能な状況である。調査全体のまとめの中で、これについては触れたい。なお、SX-2とした堆積の広がりも認められ、その堆積土で埋没する柱穴SP-176も検出された。III区の小結で述べたように、あるいは水口などの施設に伴う堆積、さらには附隨施設としての柱穴を考慮しておくべきなのかもしれない。ただし、それをより正確に検討するには、周辺の捲乱が激しすぎる。

IV区でもSR-1出土遺物は、10～12世紀の遺物が主体をなすものの、各層から13世紀以降の遺物の出土が認められ、底部回転糸切りも多い。したがって、I・III区の様相も加味して、SR-1の最終埋没は13世紀から14世紀にまで下ると結論づけられる。14世紀前後には、北部の2次調査地点付近で集落が形成されており、その遺物の一部がSR-1埋没に際して供給されたと考えられる。なお、12世紀以前の遺物の供給先については、SR-1上流の東部に求めることが適当で、4次調査地点の暗褐色シルト質土出土遺物とともに、樽味団地東部からの供給が予想される。

v V区の調査

V区は、電気管路に関して、農学部校舎東側中庭に設定された発掘区である。植栽と既存管路の多い中庭のため、直線的に発掘区を設定することができず、かなり曲折した発掘区となった(図版23-1)。それでも、幅0.7m・総長56mに及ぶ。また、既存管路などで分断された毎に、Va区～Vf区に小分割している。

V区で検出した遺構は、豊式住居4棟、溝2条、柱穴・小穴23基である。V区の西よりVa区では、中世の柱穴が比較的多く認められ、Vb・Vc区では、弥生時代と推定される住居跡(SC-16・17・18・20)の重複と、溝(SD-15)を検出している。一方、V区中央部以東は、中世の包含層が広がるが、遺構は少ない。ただし、南側の樽味遺跡2次調査で検出された南北方向の溝SD-1に連なる溝(SD-19)が検出されている。

(1) Va区 (図102、図版23-2)

V区の西端、長さ11m・幅0.8mの東西に長い調査区である。60～70cmの表土の下、薄いII層の堆積を挟

んで、IV層が現れる。標高41.4m前後である。このIV層上面で竪穴式住居1棟(SC-20)と小穴19基を確認している。

① SC-20 (図104)

Va区東端で、東西方向から東で若干北にふる、ほぼ直線的な掘り込みである。SP-165に切られているが、埋土はそれと異なり、黒褐～黒色の粘質土で、南側Vb区のSC-18に一致する。ただし、床面レベルは41.3m前後で、SC-18には一致せず、別単位の遺構と考えられる。なお、SC-20出土遺物は何れも細片で図化できるものではなかった。

② 柱穴・小穴

多くは径10cm前後の小穴であるが、中には柱痕と掘方埋土が判別できるものも存在した(SP-159・161・165等)。これらのうち、SP-170出土遺物1点が図示できる(図103)。桶形型瓦器輪の口縁部で、直線的に開いた後内湾し、端部は先細り。外面の口縁端部沿って帶状に黒変部が見られる。13世紀代。この他の多くの小穴も、中世と推定される。

- II-1 褐色 (10YR4/4) 粘質土。
 II-2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土。黄色味が強い。
 II-3 黄褐色 (10YR4/2) 粘質土。2~3mmの礫を少し含む。
 II-4 黄褐色 (2.5Y4/1) 粘質土。
 II-5 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質土。7層と色調や砂質は同様だが、明赤褐色土の入る量が少ない。
 II-6 断灰黃色 (2.5Y5/2) 砂質土。明赤褐色 (5YR5/8) 土が斑らに多く入る。
 II-7 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘質土。5層との互層。粘性は強い。
 II-8 黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。
 II-9 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。3cmの厚層ブロックを混じえ、やや粘性あり。
 II-10 黄褐色 (10YR4/2) 砂質土。2~3mmの礫を少し含む。
 II-11 黄褐色 (10YR4/2) 砂質土とにぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土が混じりあう。10cmよりやや茶色味を帯びる。
 II-12 噴褐色 (10YR3/4) 粘質土。
 II-13 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土。14層よりやや茶色味が強い。
 II-14 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土。2~3mmの礫を少し含む。
 III-1 噴褐色 (10YR3/4) 粘質土。3~5mmの礫を多く含む。
 III-2 噴褐色 (10YR4/1) 粘質土。固い。粘性は弱い。炭化物を含む。5mm程の礫をわずかに含む。
 III-3 噴褐色 (10YR3/3) 砂質土。
 III-4 噴褐色 (10YR3/3) 砂質土。5cmまでの礫を混じえ、しまりあり。
 III-5 噴褐色 (10YR3/4) 粘質土。
 III-6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘質土。
 III-7 噴褐色 (10YR3/4) 粘質土。

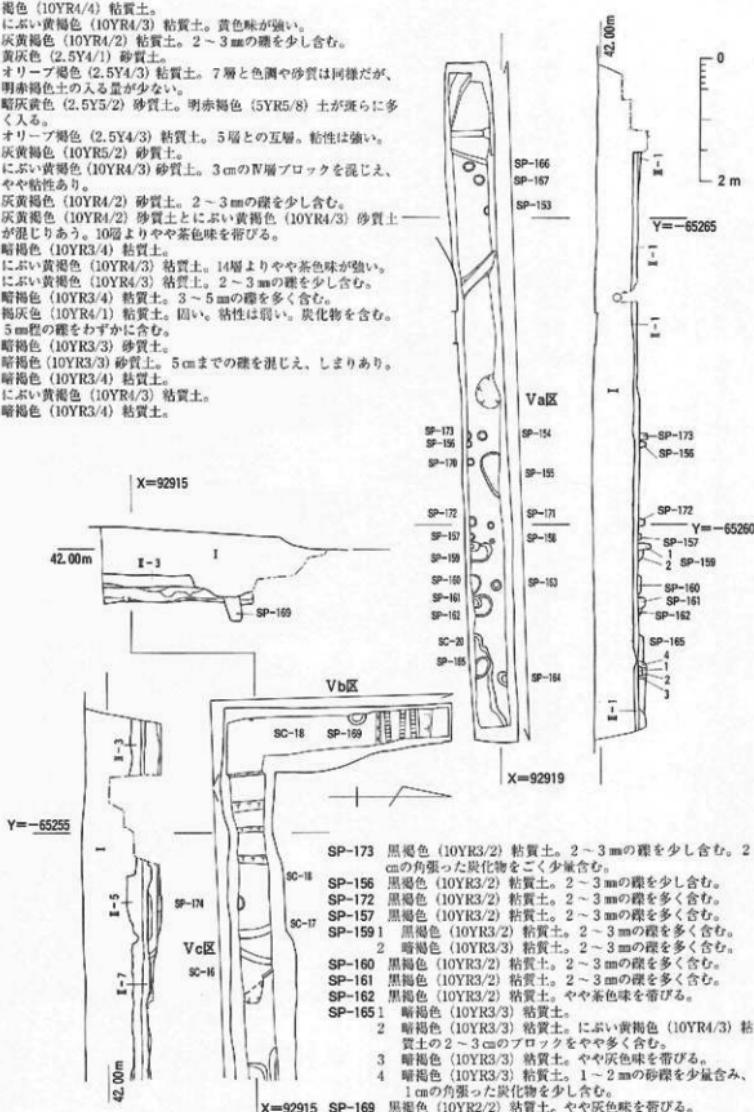


図102 V区実測図(1) (縮尺 1/1000)



図103 SP-170出土遺物実測図（縮尺1/4）

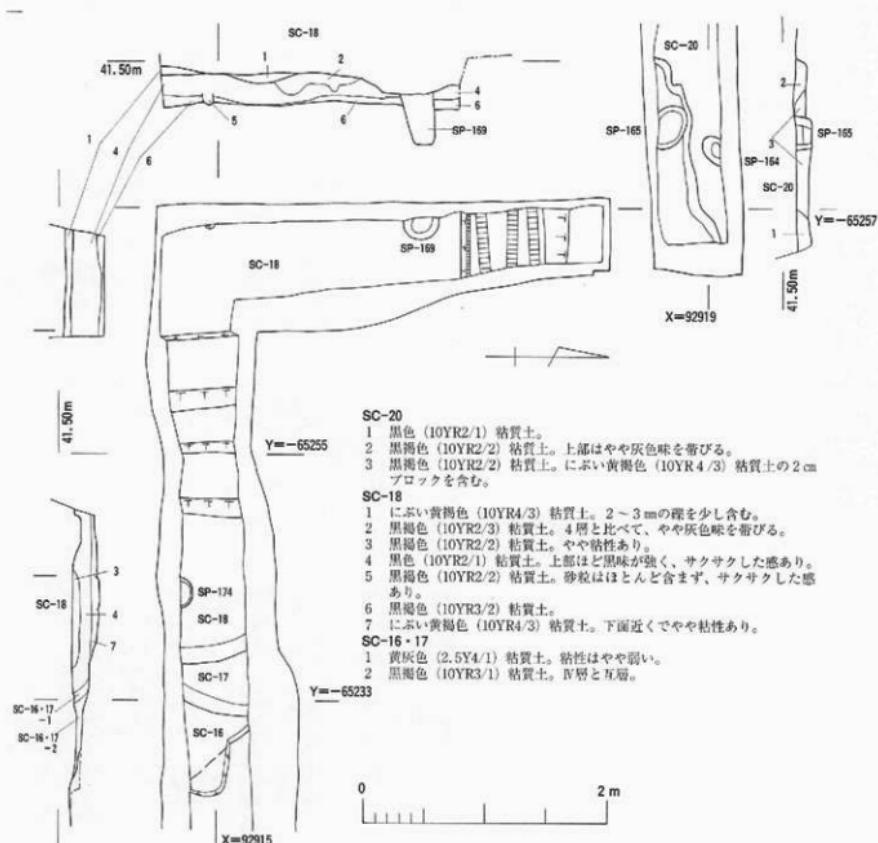


図104 SC-16・17・18・20実測図（縮尺1/40）

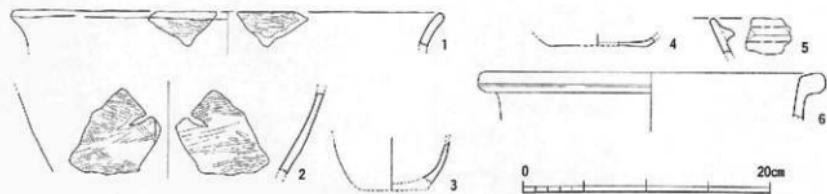


図105 V区Ⅲ層出土遺物実測図(1) (縮尺1/4)

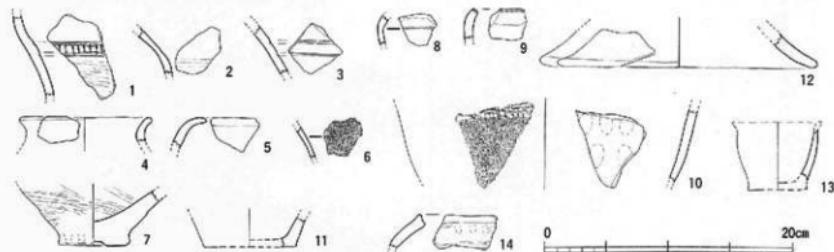


図106 SC-16・17・18出土遺物実測図 (縮尺1/4)

(2) Vb区 (図102、図版23-3)

Va区から直角に南側へ屈曲し、再び東西方向に直角に屈曲するまでの、幅0.8m前後・長さ3.6m足らずの南北に長い調査区である。Va区とは緑石基礎のため0.4m程の、Vc区とも既設管路により1.4m程の未掘部分を挟む。さらにVb区北端1m程は、やはり既設管路により、以下を未掘のまま残している。したがって、IV層上まで完掘できたのは、幅0.5m・長さ2.4mに、東に2cm程屈曲した範囲に過ぎない。

① SC-18 (図104)

この範囲では黒褐～黒色粘質土が厚さ20～30cmと厚く堆積し、上部はⅢ層として取り上げたものの、下部は後記するVc区のSC-18に連続するものと理解して、遺物を取り上げた。完掘した床面標高は、41.15m内外である。床面では柱穴1基 (SP-169) を確認したが、これは、壁面土層の観察により、上部からの掘り込みであると認められた。SC-18についてはVc区に連続し、出土遺物はそこで併せて説明する。

② Ⅲ層出土遺物 (図105)

上記したように、Vb区ではⅢ層出土として若干の遺物を取り上げている。多くは黒褐～黒色粘質土のⅢ-2層出土遺物であるが、SP-169のような中世遺構の

掘り込みも一部認められ、中世遺物も混在する。なお、Va-b区間、Vb-c区間の未掘部分について、新設管路敷設時に、横からの掘削に伴って出土した遺物も、併せてⅢ層出土としている。

Vb区出土は4・5。Va-b区間出土が2・3。Vb-c区間出土が1・6である。1～3は弥生土器。1は、縦やかに外反する壺か鉢の口縁で、内外面横方向のミガキ。2も壺なしし鉢の胴部で、内外面横方向のミガキ。3はミニチュア土器の体部片。4は土師器皿の底部。板目压痕が見られる。5は羽釜口縁部片で、14世紀前半。6は土師器釜の口縁部。直線的に外に開き、端部は断面隅丸方形の粘土帯を貼り付ける。胎土は精良。

③ Vc区 (図102・107、図版23-3)

東西方向の、幅0.8m前後・長さ約7mの調査区で、東側のVd区とは既設管路による未掘部分で区切られている。東側では、若干の凹凸があるものの、明確な遺構は認識していない。対して西側は、Vb区から連続する遺構が存在する。

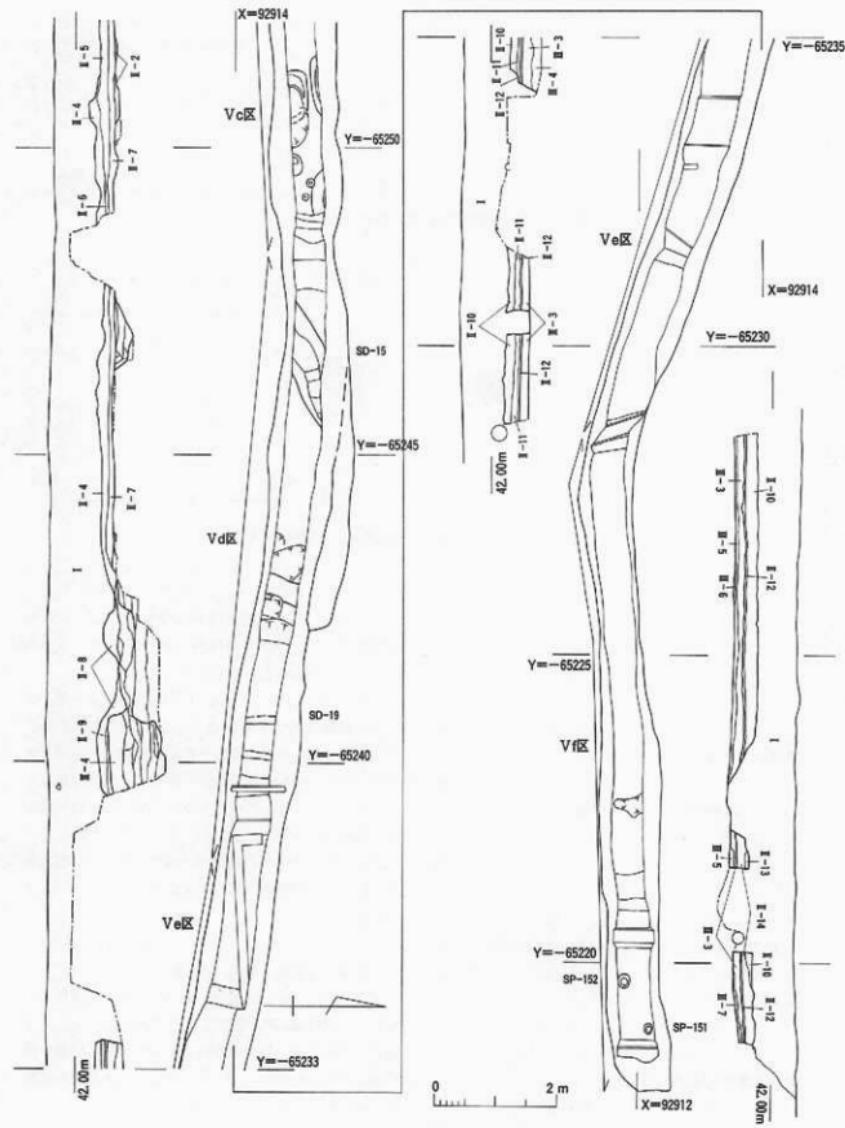


図107 V区実測図(2) (縮尺1/80)

① SC-16・17・18 (図104)

Vb区で確認されたSC-18がやはりVc区にも広がる。ただし、西端ではVb区同様、約41.15mの標高に掘り込みが達するが、東側では段状の掘り込みとなり、これをそれぞれ別々に認識した。下段がSC-18、中段SC-17、上段SC-16である。遺物取り上げではSC-16・17を一括としたが、最終的な土層確認によると、むしろSC-17とした埋土の単位は、SC-18に一連のものようである。Va区のSC-20も含めて、SC-17・18、SC-16、SC-20と3回程度の遺構の重複があることになる。

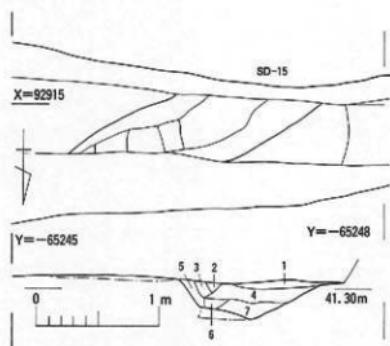
これら住居跡から出土した遺物の内、図化できたのは14点(図106、図版34-6)。1はSC-16・17出土として取り上げ、2はSC-17出土。他はSC-18出土であるが、6~11がVb区、3~5・12~14がVc区出土である。1~13は弥生土器で、時期は前中期頃。1~3・6は壺の胴部片。1は縦やかに内湾する胴部から、施文部を境に外反する頭部に転じる。施文は、2条のヘラ書き沈線の間に縱方向の浅い沈線があり梯子状。胴部外面は横方向のミガキ仕上げである。2は胴部最大径部位の破片。表面の還存が良くないが、数条の沈線があった可能性がある。3はヘラ書き沈線を2条施す。器壁の薄い6には羽状文を施す。4~5は壺の口縁部。7は壺の底部で、内外面ミガキ。8~9は如意形口縁の甕口頭部。8は屈曲部に浅い沈線があり、9は口縁端部全面を刻む。10は胴部片で浅めの沈線と刺突文の一端が残る。11は甕の底部片。12は甕底面には煤が付着する。13は甕のミニチュア。14は土師器の甕口縁部。口縁端部はわずかに肥厚し面をもつ。外面には指押さえ痕がよく残り、煤が付着する。

(4) Vd区 (図107、図版24-1)

幅0.8m前後・長さ約10mの区間がVd区で、東西から東で若干南側にふる。Vd区では基本的に、Ⅱ層直下で地山面であるIV層となり、その標高はおよそ41.4m。IV層上面で、SD-15・19を検出している。

① SD-15 (図108、図版24-2)

Vd区西端近く、Y=-65248~-65245の間で検出した、北東~南西方向の溝である。幅は本来80cm前後で、深さ30cm前後を測る、逆台形状のしっかりした溝であったと推定される。埋土は基本的に黒~黒褐色の粘質土で、西側のSC-18他に近似する。出土遺物で図化できたのは2点(図109)。1は壺の底部。底面は小



- 1 黒色(10YR2/1)粘質土。粘性は弱く、サラサラした感あり。5cmの黄橙色(7.5YR7/8)粘質土ブロックを含む。
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土。黒褐色(10YR2/2)粘質土のブロックを含む。
- 3 黒褐色(10YR3/1)粘質土。明褐色(7.5YR5/6)粘質土や浅黄褐色(7.5YR8/6)粘質土の小ブロックを多く含む。
- 4 黒色(10YR2/1)粘質土。やや粘性弱い。
- 5 黒褐色(10YR2/1)粘質土。3層を互層状に含む。
- 6 黒褐色(7.5YR3/1)砂質土。明褐色(7.5YR5/8)土との2mmの円形ブロックを多く含む。
- 7 黒色(10YR2/1)粘質土。黄褐色(10YR5/8)土の5mmの円形ブロックをわずかに含む。

図108 SD-15実測図(縮尺1/40)



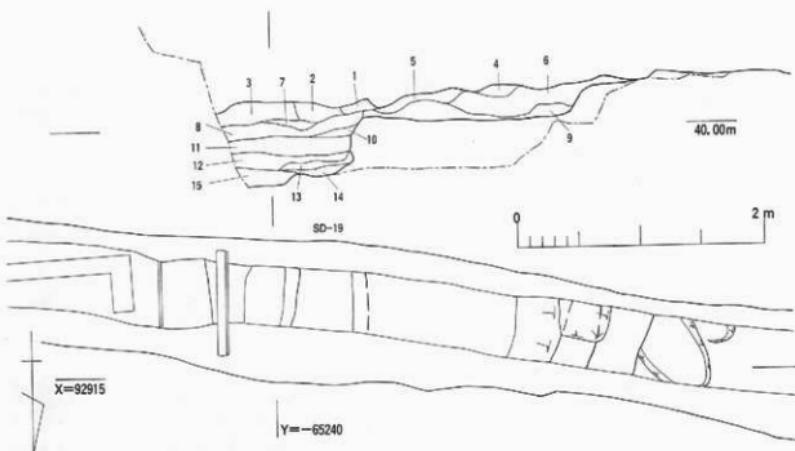
図109 SD-15出土遺物実測図(縮尺1/4)

さい。2は如意形口縁壺の口縁部。下端を刻む。いずれも弥生土器で、2は前期に属る。

② SD-19 (図110、図版24-3)

Vd区の東端で検出された溝で、東岸は未検出である。それでも、幅約3mを検出している。検出面は、西側の地山面にほぼ等しく41.4mであるが、東側では一部Ⅲ層をはさみ、41.3m付近以下をSD-19とした。SD-19埋土は細分できるが、基本的に砂質土で流水性堆積と見られる。溝は断面逆台形状のしっかりしたもので、西側1.6m程の間は、底面41.05mと浅いが、東側の幅1m以上は、40.55mまで一気に深さを増す。

SD-19出土遺物から図化できたのは、12点(図111、図版34-7)。1は須恵器壺。7世紀初頭。2は土師器



- 1 閑灰色 (10YR5/1) 砂質土。砂粒は細かく均質。2層に比べ、やや粘性あり。
- 2 閑灰色 (10YR5/1) 砂質土。砂粒細かく、しまりあり。わずかに鉄分の沈着がラミナ状にあり。
- 3 閑灰色 (10YR5/1) 砂質土。細かく均質な砂粒をベースに、5mmまでの繊維を含み、鉄分の沈着がやや多い。
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土。シルト質土やIV層小ブロックをウミナ状に含み、しまりあり。
- 5 黄灰色 (2.5Y5/1) 砂質土。細かく均質。砂層中に、1~2mmの砂繊維がラミナ状に嵌入する。
- 6 灰黃褐色 (10YR5/2) 砂質土。砂粒は細かく均質。シルト質土を斑状に含み、しまりあり。
- 7 灰黃褐色 (10YR4/2) 砂質土。5mm前後の繊維を少量含み、やや粘性あり。
- 8 閑灰色 (10YR5/1) 砂繊維。5~10mmの繊維を多く含み、シル

- ト質土もブロック状に若干含む。ややしまり弱い。
- 9 閑灰色 (10YR5/1) 砂。10cmの砂繊維と5mm前後の繊維をやや含む。
- 10 閑灰色 (10YR4/1) シルト。粘性強い。
- 11 閑灰色 (10YR6/1) 砂。シルト質土や、やや粗い砂粒をラミナ状に含み、ややしまりあり。
- 12 灰黃褐色 (10YR6/2) 砂。11層に比べ、1~2mmの砂繊維が主体を占め、やや砂粒が粗い。そこに、シルト質土や、やや粗い砂粒をラミナ状に含む。ややしまり弱い。
- 13 黒褐色 (10YR3/1) シルト。粘性強い。
- 14 閑灰色 (10YR3/1) 砂繊維。2cmの繊維を少し含み、下面は固い鉄分の沈着面あり。
- 15 閑灰色 (10YR6/1) 砂質土。1cmまでの粗砂をやや混じえ、3cmのIV層ブロックが多く混じる。

図110 SD-19実測図 (縮尺1/40)

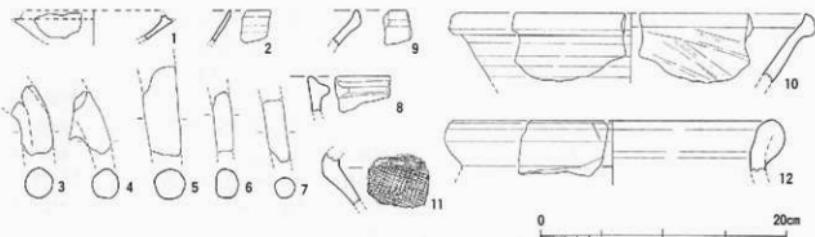


図111 SD-19出土遺物実測図 (縮尺1/4)

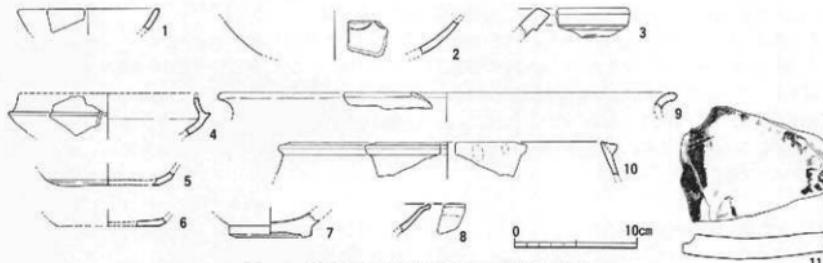


図112 V区Ⅲ層出土遺物実測図(2)(縮尺1/4)

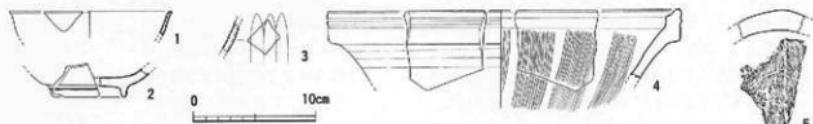


図113 V区擾乱出土遺物実測図(縮尺1/4)

楕口縁部。器壁は薄く端部はやや先細り。3～7は羽釜脚部片。4は瓦質。8は羽釜口縁部片。断面三角形の突帯を貼り付ける。9～11は須恵質。9・10はこね鉢口縁部。ともに11世紀後半から12世紀前半。11は龜山焼大壺の肩部。外面には2mm角の格子目タタキがやや斜めに入る。12は備前焼の壺口縁部。玉縁の折り曲げ口縁で、15世紀代。

SD-19は、検出位置と出土遺物から、南側の柿味遺跡2次調査で検出されたSD-1の北側延長にあたると推定される。ただし、その深さと、西側へのテラス状部の拡張から、あるいは水口等の部分に相当する可能性も考慮されなければならない。

③ Ⅲ層出土遺物(図112)

Ⅲ層出土として取り上げた遺物が若干存在する。ただしこの地点のⅢ層は、Vb区を中心とした黒～黒褐色粘質土ではなく、色調の薄く砂質の強い暗褐色砂質土であり、SD-19の上層にも一部広がっていた。

図化したのは3点(1～3)。1は土師器皿の口縁部。2は青花の皿。内面に弧線を描く。3は須恵器の鉢か壺の口縁部。口縁部外側を段状に肥厚させ、そこに1条の沈線を施す。

(5) Ve区(図107、図版24-4)

Ve区は幅0.8m前後・長さ約10.6mの区间で、Vd

区にも増して東方で南に傾いた調査区である。この区間では、既設管路や地下貯蔵タンクなどによる擾乱が激しく、包含層を掘削できたのは、Y=-65235付近の1m前後の範囲と、Y=-65230前後の3m弱ほどの範囲しかない。前者ではⅢ層が約30cm堆積し、細分ができる。その下Ⅳ層上面のレベルは41.2mである。対して後者では、Ⅲ層の堆積は10cm強で、Ⅳ層上面のレベルも41.4mまで上がる。図化できるVe区Ⅲ層出土遺物はない。

(6) Vf区(図107、写真100)

V区の東端、Ve区とは既設管路による未掘部分を介在させ、幅0.8m前後・長さ約10mに及ぶ区間である。この区間では、若干の擾乱も挟むが、包含層は比較的広い範囲に残存する。西半ではⅢ層が約15cmの厚さで堆積し、その下のⅣ層上面のレベルは42.35m付近。中間の擾乱付近でⅢ層の厚さを若干増し、Ⅳ層上面レベルも少し下がるが、東端の擾乱以東はⅢ層の厚さを減じ、Ⅳ層上面レベルも41.5mまで上がっていく。この部分のⅣ層上面で、小穴2基を検出している。

① Ⅲ層出土遺物(図112)

Ⅲ層出土として取り上げた遺物が存在する。この地点でもⅢ層は、色調の薄く砂質の強い暗褐色砂質土である。図化できたのは、8点(4～11)。4は須恵器

坏。6世紀中葉。5は瓦質の皿底部。6は土師器皿底部。底部外面には回転糸切り痕を残す。7は白磁碗底部。高台は削り出しで、外面露胎。8は青磁皿口縁部。端部が「て」の字状を呈し、内外面の端部に黄灰色の釉がかかる。9は土師器壺口縁部。復元口径は36.8cm。10は羽釜口縁部。11は平瓦らしいが、両面と破面にタル状の付着物があり、転用品。

(7) V区攪乱出土遺物 (図113)

V区の攪乱出土遺物から団化したのは5点。3がVa区、5がVc区、1・2・4がVd区出土である。1は青磁碗の口縁部片。端部は短く外反し、内外面施釉。12世紀代。2は青花碗底部で、内外面に薄い釉が施され、豊付のみ露胎。高台に1条、体部にも文様が見られる。3は龍泉窯系の青磁碗。内外面に厚めの釉が塗られ、外面には蓮弁文が浅い凹みとなって見られる。13世紀代。4は、衛前焼鉢。16世紀代。5は丸瓦。

vi VI区の調査

I区同様、拓翠寮に關しても公共下水道への下水道切り替えが必要となり、拓翠寮の北側から東側にかけて、南端は99708調査地点に達する、幅0.7m・総長約28mの発掘区がVI区である(図114)。VI区のみ、他の調査区と連続せず、しかもその間に距離が比較的あつたため、基準点の移動に際して、まずVI区内だけの基準点を設置し、かかる後に本来の座標へ調査区を落とし込んだ。最初基準にしたのは、拓翠寮敷地南東隅部の点(X=92736.752, Y=-65302.049)で、これから調査区東側に並行する線を南北の基準とし、そのライン上の(X=92755.737, Y=-65302.750)をVI区の仮原点とし、団化を行った。

現地表下40~50cmでII層直下のIV層に達し、遺物包含層は認められない。IV層上面検出のレベルは、VI区南端で、地表下約50cm・標高39.9m。現地表から浅い深度でIV層が検出されたため、調査区南では東側を断

(8) 小 結

V区の調査では、細い調査区でその一端を明らかにしたに過ぎないが、弥生時代前期の遺構の存在と、南側の2次調査で確認された中世方形区画溝の広がりを見いだすことができた。

前者は、Vb区を中心とした住居跡群(SC-16・17・18・20)であり、少なくとも3段階の重複が確認できる。また、この東側で見つかったSD-15も同時期の遺構の可能性が高い。なお同様の構造は、II Eg区や樽味遺跡1次調査区でも発見されており、これらを含めた弥生集落の様相については、後論する。

中世方形区画の延長と推定されるのがSD-19である。2次調査SD-1のはば真北延長に位置し、14~15世紀代の方形区画の一端を構成する南北方向の溝である。樽味遺跡2次調査区周辺の中世集落の展開状況についても、周辺II区の成果を加味して後論したい。

ち割り、下層の状況の確認も行った。その結果、IV層は約20cmほどの厚さで、以下はV層となる。なお、断割土層の所見で、IV層上面を切り込む、III層に類する埋土をもつ掘り込みがいくらか認められ、柱穴などの存在が、辛うじて窺える(図版25-1・2)。一方、調査区北半は、表土下で流路内堆積層を広い範囲で確認し、これをSR-21とした。

(1) SR-21 (図114、図版25-3・4)

調査区北半、X=92753以北で、IV・V層が落ち込み、そこに流路内堆積が認められた。調査区西端の最深部で、堆積層厚50cm・底面標高39.5mに達する。I区西半広くに展開したSR-1とともに、一帯を東から西へ流れる流路帶の一部を構成するものと推測される。なお、出土遺物は認められなかった。



図114 VII区実測図 (縮尺1/80)

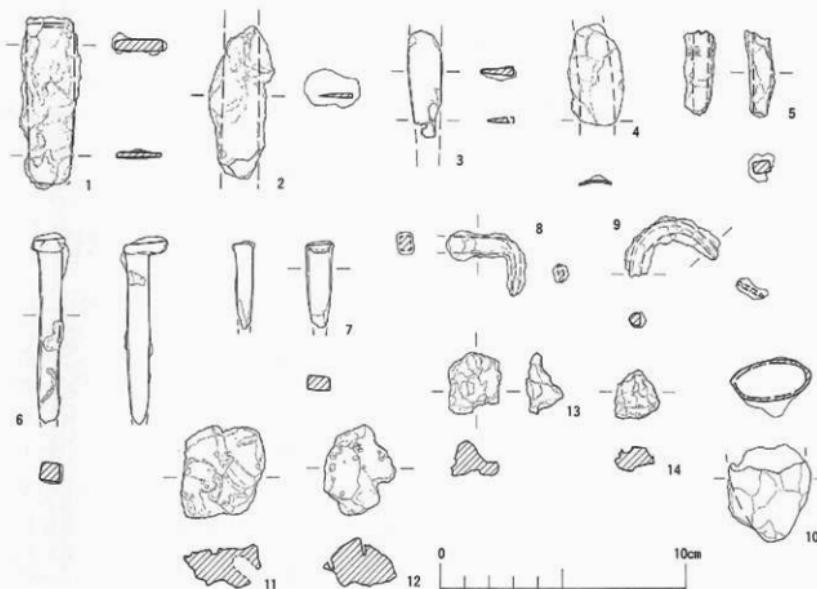


図115 出土鉄器・鉄滓実測図（縮尺1/2）

4 まとめ

樽味遺跡5次調査は、樽味団地西半一带に長いトレチを入れる格好となり、旧地形や遺跡の広がりについて多くの知見を得ることができた。以下、その成果について、若干のまとめを行っておく。

(1) 樽味団地の旧地形

今回の調査の所見に基づき、樽味団地の東西方向と南北方向の土層断面図を作成した(図116)。

東西方向には、Y=-65230辺りでSR-1が調査区から外れ、以東はIV層上面が標高40.50m前後で安定して広がる。ただし、SX-2を挟んで、東西でIV層検出高に約50cmの差があり、段丘状の裾部にSX-2が堆積していたことになる。一方、SR-1は底のレベルにかなりの起伏があり、流路の蛇行が予想されるとともに、西方あるいは南方への流路の広がりが予想される。

南北方向では、SR-1を除くと、IV層上面の比高差は約90cmと比較的小さい。その中で、2次調査地点付近の標高41.5~41.8m付近が、最も造構の集中し、包含層も厚く堆積する地点である。SR-1の岸辺から70m近く離れ、比高差も50~80cmある。堆積土にも水性堆積は見られないよう、地形的にも安定した位置である。以上から、樽味団地西北部は、SR-1等の樽味団地南部を西流する流路の北側微高地にあたることになる。

SR-1は、I・III・IV区で確認しているが、面的な調査ができたのはIII・IV区である(図117)。とは言え、いずれも狭い範囲でしかなく、南岸は調査区内には求められなかった。ただ、99804調査の5トレチで南岸を検出しており、IV区付近では流路幅10m前後と復元できる。ところが、III区では15m近くまで幅を増し、

南岸の現れるIe区では、逆に幅を減じると予測できる。また、VI区ではSR-21とした流路の南岸が見つかり、団地外西方の榛味四反地遺跡1次調査でも東西方向の流路が見つかっている³¹⁾。したがって、SR-1からSR-21にいたる南北約50m幅が、中洲状の高まりを残しながらも、幅広の流路帯のような景観を呈した可能性が高い。東西に蛇行しながら、幅にもかなり変化のある様子が復元されよう(図118)。なお、4次調査では8世紀段階にほぼ埋没してしまう南流するSR-1が存在したが、5次調査SR-1との直接的関係は、現時点ではわからない。

(2) 弥生前期集落の広がり(図119)

5次調査では、確実な弥生前期の遺構として、Vb区を中心とした竪穴式住居群(SC-16・17・18・20)を検出した。時期は前期中頃。Vd区の溝(SD-15)も前期に遡る可能性が高く、II Eg区の貯蔵穴(SK-38)も、前期末以降ながら、時間的接点を持つ可能性が残る。1次調査においても、前期中頃に遡る溝(SD-4)と土壤(SK-5)を検出しておらず、これらはいずれも、榛味団地北西部に位置する。すべての遺構が同時併存とはできないが、弥生前期土器の中世遺構への混入や包含層出土が見られるのも、ほぼこの範囲であり、一帯が弥生前期の生活領域であったことは間違いない。現時点で、およそ東西100m・南北60m程度の広がりが想定される。石手川を挟んだ文京遺跡21次調査・24次調査地点とともに、松山平野における弥生集落の成立を語り得る遺跡と評価できよう。

(3) 中世集落の広がり(図120)

1次調査や2次調査によって、14世紀から16世紀の集落の様子が知られてきた。とりわけ2次調査地点においては、小規模で簡単な構造の掘立柱建物や横列を内部にもつ方形区画の一端が明らかになり、そのような区画の広がりが予想されていた。

今回の調査では、II Ee・II Ef区、II We・II Wf区、そしてV区が2次調査地点に最も近接するとともに、5次調査中、最も包含層・遺構の残存が良好な地区であった。しかし、2次調査地点から連続する区画の延長が想定できるのは、2次調査SD-1の北側延長にある、V区のSD-19のみである。ともに深さ60cmを越える逆台形状の断面で、埋土の様子も近似する。2次調査地点内では水口が伴ったが、SD-19でも西側に浅い落ち込みが広がり、同様の水口が想定できる可能性がある。出土遺物にも大きな差ではなく、2次調査SD-1と5次調査SD-19は一連の溝と判断できる。

この南北溝の東、2次調査SD-7以北は、SD-7以南と同様の遺構の広がりが確認されている。その北を画す遺構として、5次調査II Ef区・II Wf区にまたがるSD-28あるいはSD-32が指摘できよう。ただし、南北幅12~15mとやや狭い区画になってしまい、断定はできない。

一方、2次調査地点東側のII Ee区・II We区においては、2次調査SD-7の延長は見出せない。また、ほぼ同時期の遺構が広がりながらも、他に有意な区画遺構も見いだせない。狭い未調査区域に南北方向の区画が存在するのか、それとも狭い調査区で抽出し得ないのか、現時点では保留せざるを得ない。したがって、今回の調査成果としては、14世紀前後の生活遺構が東へも広がっていることを提示できるに留まる。

なお、SR-1出土遺物や4次調査暗褐色シルト質土出土遺物には、10~12世紀の遺物を多く含み、それら遺物を供給した当時の生活領域は、上記してきた14世紀前後の集落とは地点を離れて、SR-1上流にあたり、榛味遺跡4次調査地点を含む、榛味団地の東部に求められることが現時点では適当であろう。

[注]

1 榛木謙一 1992:桑原地区の道路、松山市文化財調査報告書 26

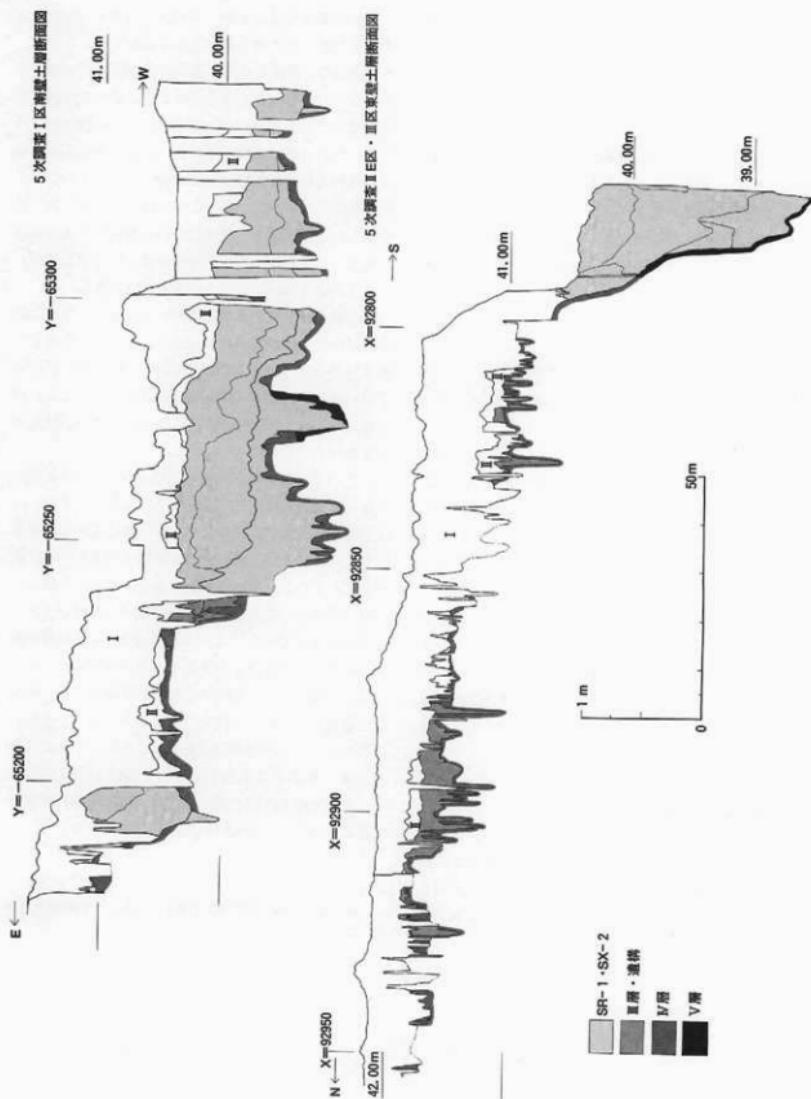


图116 椿味团地土层断面图 (缩尺 1/1,000 · 1/40)

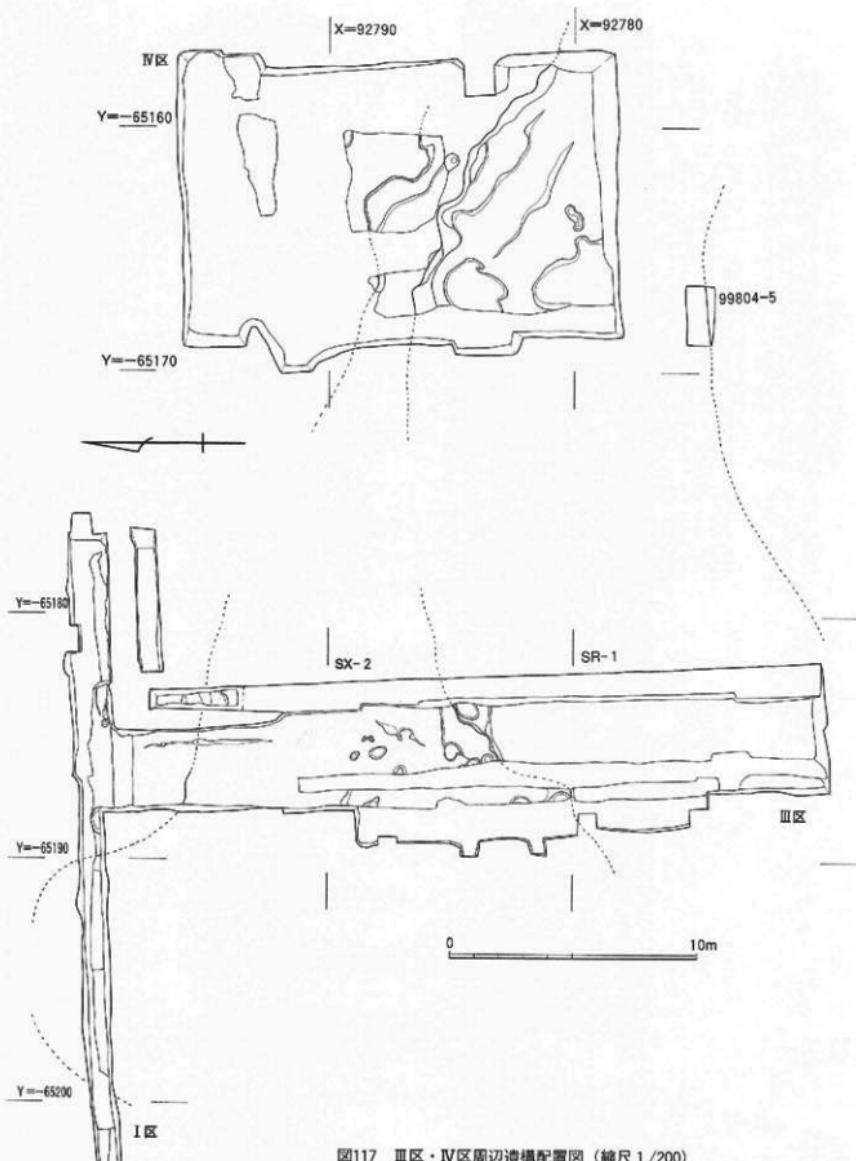


図117 III区・IV区周辺造構配置図（縮尺1/200）

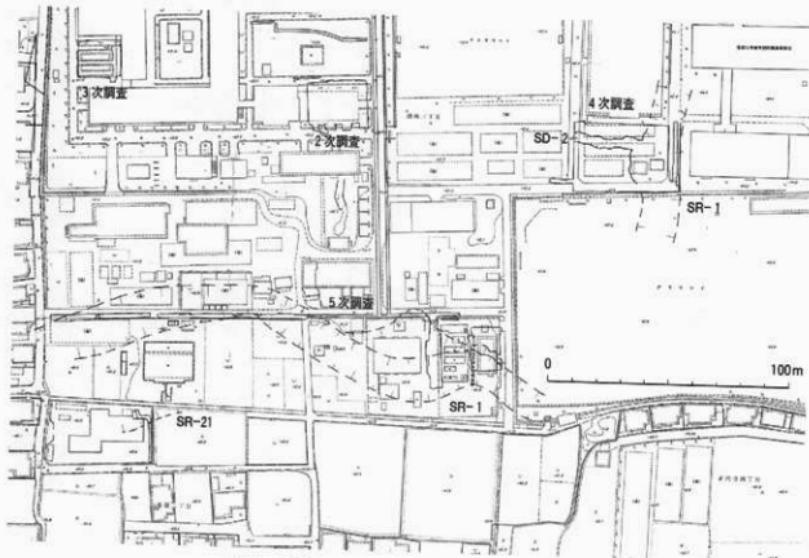


図118 樽味団地自然流路復元図（縮尺1/2,000）

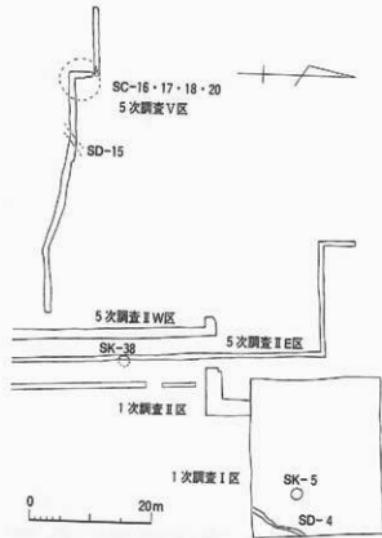


図119 弥生前期遺構配置図（縮尺1/800）

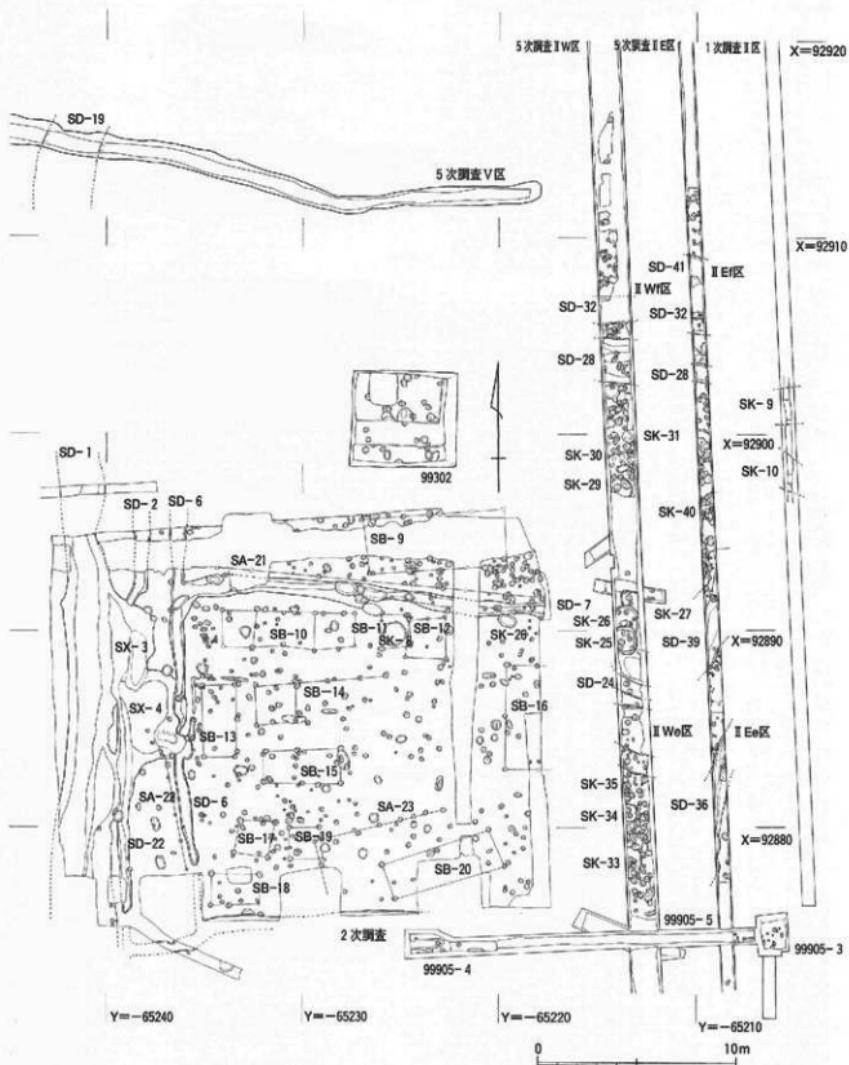


図120 槽味遺跡 2次調査周辺遺構配置図（縮尺 1/250）

図59 II We区出土遺物

出土位置	種類	器種	部位	測量・その他の特徴	実測番号
遺構・居住地区					
1 SP235 II We 土師器 磁 口縁 内外面磨滅。内外面灰白色。1~2mmの長石・石英少含む。	2006				
2 SP206 II We 土師器 磁 裏部 内外面磨滅。外表面淡褐色、内面灰白色。長石・石英少含む。	2004				
3 SP218 II We 土師器 磁 底部 内外面磨滅ナメ。底部底面あり。外表面白色、内面青褐色。長石・石英・雲母少含む。	2005				
4 SP251 II We 土師器 磁 烧熱粘土塊 外面灰褐色、内面に赤褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	2007				

図60 II Ee区出土遺物

出土位置	種類	器種	部位	測量・その他の特徴	実測番号
遺構・居住地区					
1 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 口縁 内外面磨滅ナメ。底部底面赤切。内外面に赤い褐色。精製土。	2520				
2 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 内外面磨滅ナメ。外面に赤い褐色、内面白。1~2mmの長石・石英多く含む。	2512				
3 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 内外面磨滅ナメ。外面に赤い褐色、内面に赤い褐色。長石・石英多く含む。	2516				
4 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 内外面磨滅ナメ。外面に赤い褐色、内面に赤い褐色。長石・石英多く含む。	2511				
5 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 内外面磨滅ナメ。外面上に赤褐色、内面灰褐色。1~3mmの長石・石英含む。	2504				
6 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 内外面磨滅ナメ。外面上に赤褐色、内面灰褐色。1~2mmの長石・石英含む。	2503				
7 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 ガラス 外面上に赤褐色、内面灰褐色。1~3mmの長石・石英含む。	2507				
8 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 ガラス 外面上に赤褐色。1~4mmの長石・石英多く含む。	2502				
9 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 ガラス に赤い褐色。無胎土。長石少含む。	2508				
10 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 ガラス に赤い褐色。無胎土。長石少含む。	2506				
11 一 Ⅲ層 II Ee 白磁 磁 口縫 錆斑底面赤切。外表面リーフ状の赤い釉。化粧土。黄褐色のきめ細かい胎土。燒成不良。	2514				
12 一 Ⅲ層 II Ee 白磁 磁 磁口 磁口部 内外面磨滅ナメの釉。白色を少含む。	2518				
13 一 Ⅲ層 II Ee 白磁 磁 体部 内外面磨滅の釉。黒色を少含む。灰褐色の釉。	2515				
14 一 Ⅲ層 II Ee 白磁 黑 体部 黒の釉を少含む。灰褐色の釉。	2519				
15 一 Ⅲ層 II Ee 磁器 磁 口縫 外表面灰状工具による精ナメ。外表面灰、内面赤褐色。1~3mmの長石少含む。肌底質。	2506				
16 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 内外面磨滅ナメ。外表面リーフ状の釉。	2513				
17 一 Ⅲ層 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 内外面磨滅ナメ。外表面灰褐色、内面灰褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	2517				
18 一 Ⅲ層 II Ee 磁器 こね棒 口縫 拉伸土。外表面磨滅ナメ。外表面灰白色。1mm以下の長石・石英少含む。やや軟質。	2509				
19 一 Ⅲ層 II Ee 磁器 磁 磁口 表面全般が使用感。砂質質。	2510				
20 SD36 II Ee 土師器 磁 口縫 外表面磨滅ナメ。底部底面赤切。外表面青褐色、内面灰白色。1~2mmの長石少含む。	2547				
21 SD36 II Ee 土師器 磁 底部 外表面磨滅ナメ。内面灰褐色。精製土。	2546				
22 SD36 II Ee 土師器 磁 磁口 磁口部 内外面磨滅ナメ。内面灰褐色。1~3mmの長石・石英少含む。	2545				
23 SD39 II Ee 土師器 磁 口縫 外表面磨滅ナメ。内面に赤褐色。精製土に長石少含む。	2553				
24 SD39 II Ee 土師器 磁 磁口 外表面磨滅ナメ。外面上に赤褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	2552				
25 SD39 II Ee 土師器 磁 磁口 外表面磨滅ナメ。内面灰褐色。長石・石英少含む。	2551				
26 SD39 II Ee 土師器 磁 磁口 ガラス に赤い褐色。1~3mmの長石少含む。	2549				
27 SD39 II Ee 土師器 磁 磁口 ガラス に赤い褐色。1~3mmの長石少含む。	2550				
28 SP504 II Ee 土師器 磁 口縫 外表面磨滅ナメ。内面灰褐色。1~3mmの長石少含む。	2555				
29 SP604 II Ee 石器 磁 磁口 19と同一個体。砂質質。	2566				
30 SP616 II Ee 土師器 磁 底部 外表面磨滅ナメ。底部底面赤切。内面灰褐色。精製土。	2561				
31 SP571 II Ee 土師器 磁 磁口 外表面磨滅ナメ。外面上に赤褐色。長石・石英少含む。	2554				
32 SP611 II Ee 土師器 磁 口縫 外表面磨滅ナメ。内面灰褐色。長石少含む。	2558				
33 SP611 II Ee 土師器 磁 磁口 外表面磨滅ナメ。内面に赤褐色。内面に赤褐色。長石・石英少含む。	2559				
34 SP611 II Ee 土師器 磁 磁口 表面剥離。に赤褐色。1~2mmの長石・石英多く含む。	2557				
35 SP611 II Ee 石器 磁 磁口 磁は一面のみ。砂質。	2560				

図61-62 III We区出土遺物

出土位置	種類	器種	部位	測量・その他の特徴	実測番号
遺構・居住地区					
1 一 Ⅲ層 II We 磁器 磁 磁口 内外面磨滅ナメ。内外面灰褐色。1mm以下の長石少含む。	2032				
2 一 Ⅲ層 II We 磁器 磁 磁口 内外面磨滅ナメ。底部底面赤切。内外面に赤い黃褐色。1mm以下の長石少含む。	2033				
3 一 Ⅲ層 II We 磁器 磁 磁口 内外面磨滅ナメ。外表面灰褐色、内面灰褐色。1~2mmの長石・石英少含む精製土。	2028				
4 一 Ⅲ層 II We 磁器 磁 磁口 外表面磨滅。外面上に赤褐色。内面灰褐色。砂粒はほとんど含まない。	2021				
5 一 Ⅲ層 II We 磁器 磁 磁口 外表面磨滅。外面上に赤褐色。内面灰褐色。長石・石英少含む。	2015				
6 一 Ⅲ層 II We 磁器 磁 底部 内外面磨滅ナメ。内面灰褐色。精製土・長石・石英少含む。	2018				
7 一 Ⅲ層 II We 磁器 磁 底部 内外面磨滅ナメ。底部底面赤切。外表面青褐色。精製土。	2006				
8 SK25 II We 土師器 磁 口縫 内外面磨滅ナメ。外表面青褐色、内面灰褐色。1~2mmの長石少含む。	2037				
9 一 Ⅲ層 II We 天目 磁口 外面黒色、内面銀色のきわめて薄い釉。灰褐色のやや粗い胎土。	2024				
10 一 Ⅲ層 II We 青磁 磁 口縫 外面灰褐色・リーフ色の釉の種。純白色のやわらか質の胎土。	2029				
11 一 Ⅲ層 II We 青磁 磁 口縫 外面灰褐色・リーフ色の釉の種。質乳あり。やや粗い胎土。	2033				
12 一 Ⅲ層 II We 青磁 磁 口縫 外面灰褐色のあら滑めの釉。質乳あり。胎土はきめ細かい。	2017				

30	SK31 SP503	E Wf	石器	台石	敵打丸ばかりにあり。砂岩。	2064
31	SK31	E Wf	土師器	粗	底部 内外面圓軸ナヂ、底部圓軸系切り。外面灰黄色、内面黄褐色。1mm以下の長石・鵞卵少量含む。	2087
32	SK31	E Wf	山毛夷	素	楕圓部 外側格子口ナヂ、内外面灰白色。耐土さめ織かい。やや松質。	2088
33	SK31	E Wf	石器	武石	1面のみ風化残る。花崗岩。	2089
34	SK31 SP432	E Wf	土師器	東	口縁 内外面灰白色、内面西面黒着。外面上が雲母色、内面灰黄色。稍裂土。	2111
35	SK30 SP433	E Wf	土師器	東	底部 内外面圓軸ナヂ、底部圓軸系切り。内外面浅灰褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。	2112
36	SK31 SP433	E Wf	土師器	東	底部 内外面圓軸ナヂ。内外面深褐色。精製土。	2108
37	SK31 SP436	E Wf	土師器	東	口縁 内外面圓軸ナヂ、外表面粉色。内面にぶい青褐色。精製土。	2118
38	SK31 SP432	E Wf	土師器	坏小尚	口縁 内外面圓軸ナヂ。内外面白味の餘、灰白色。精製土。	2109
39	SK31 SP435	E Wf	土師器	羽扇	口縁 内外面ナヂ。外面灰白色地、内面にぶい粉色。1~3mmの長石・石英多く含む。	2117
40	SK31 SP432	E Wf	土師器	坏	口縁 内外面灰ナヂ。内外面灰白色。1mm以下の長石・石英少量含む。	2110
41	SK30 SP502	E Wf	土師器	粗 完形	内外面圓軸ナヂ、底部中央ナヂ。底部圓軸系切り。灰白色。精製土。	2063
42	SK31 SP435	E Wf	土師器	粗	完形 内外面圓軸ナヂ、内底面中央ナヂ、底部圓軸系切り。灰白色。精製土に長石わずかに含む。	2062
43	SK31 SP432	E Wf	石器	玄武岩	風化蒸氣。綠色片岩。	2125
44	SP498	E Wf	土師器	粗 底部	内外面圓軸ナヂ、底部圓軸系切り後板目狂紋。外面灰白色。内面白味。精製土に1mm以下の長石少量含む。瓦器の可能性あり。	2080
45	SP498	E Wf	土師器	粗 底部	内外面圓軸ナヂ、底部圓軸系切り。内外面灰白色。精製土。	2094
46	SP498	E Wf	頃思器	粗擦	口縁 内外面圓軸ナヂ。内外面灰白色。耐土の證は子や大きさ。	2091
47	SP498	E Wf	石器	紙石膏用	僅付着。かまどの変形に板用か。墨黒等など黒色の物質を含まない花崗岩。	2092
48	SP440	E Wf	土師器	東	口縁 内外面灰白色ナヂ。内外面灰白色。精製土。	2122
49	SP440	E Wf	土師器	羽扇	口縁 内外面圓軸ナヂ。内外面灰白色。1mmの長石多く含む。	2121
50	SP440	E Wf	石器	碧石	左方の圓筒面に削用記。花崗岩。	2119
51	SP440	E Wf	石器	白石	右側面が使用記か。妙刃で風化著しい。	2120
52	SP415	E Wf	頃思器	要	剖面側の平行テクス、内面青苔被文有ナヂ。内外面灰白色、内面に自然釉。精製土。	2100
53	SP415	E Wf	土師器	羽扇	ナヂ。にぶい穀色、まろやかに膨らむ。1~3mmの長石少量含む。	2101
54	SP410	E Wf	青磁	鐵	口縁 内外面オリーブ灰色の形の瓶。質もあり。灰白色でやや細い筋土。	2097
55	SP410	E Wf	土師器	羽扇	口縁 内外面圓軸ナヂ。外面上がい褐色、内面にぶい黄色。1~2mmの長石・石英・鵞卵含む。	2096
56	SP497	E Wf	瓦器	陶	口縁 内外面圓軸ナヂ。内外面灰白色。丁目縫合部等に風化著しい。精製土。	2127
57	SP416	E Wf	土師器	坏小尚	口縁 内外面圓軸ナヂ。内外面灰黃褐色。精製土に1mm以下の長石少量含む。	2102
58	SP418	E Wf	土師器	坏	口縁 内外面圓軸ナヂ。内外面深味がかった灰白色。精製土。	2124
59	SK31 SP457	E Wf	土師器	粗 底部	内外面圓軸系切。内外面灰褐色。1~3mmの長石多く含む。	2126
60	SP446	E Wf	土師器	坏	口縁 内外面圓軸ナヂ。外面上がい黄褐色、内面灰褐色。精製土。	2123
61	SP403	E Wf	土師器	粗	口縁 内外面圓軸ナヂ。内外面灰白色。精製土。	2096
62	SP397	E Wf	土師器	粗 底部	内外面圓軸系切。内外面灰褐色。1~3mmの長石少量含む。燒成不良。	2090
63	SP428	E Wf	漿燒器	粗擦	口縁 内外面圓軸ナヂ。口縫部灰褐色、瓶面にぶい桔梗色。精製土。	2103
64	SP412	E Wf	石器	砾石	仕上鏡。底面は2面残す。きめ細かい凝灰岩。	2099
65	SP449	E Wf	石器	打製石器	側邊に扱い難かう調整剤。先端部比較的大きな削面。ヤヌカイト。	2128

図81 SK-388出土遺物

出土位置 遺構	種別	特徴	部位	調整、その他の特徴	実測 番号
1 SK38 E Eg 先生土器 壺	底部	外表面ミガキ、内面横ミガキ、底面ミガキ。	外・底面灰褐色、内面有黒斑、内面黒斑。		2545
出土位置 遺構	種別	特徴	部位	調整、その他の特徴	実測 番号
1 SR1 e 北 Eg 頃思器 坏	口縁	外表面圓軸ナヂ、内面圓軸ナヂ。内外面灰白色。1mm以下の長石少量含む。			2067
2 榎風	E Wf	土師器	東	口縁 内外面圓軸ナヂ。外面上がい穀色、内面深褐色。1~2mmの長石・石英・角閃石多く含む。	2068
3 榎風	E Wf	土師器	羽扇	口縁 内外面圓軸ナヂ。内面上がい穀色、内面深褐色。1~3mmの長石多く含む。	2010
4 榎風	E Wf	頃思器	こね縫	口縁 内外面圓軸ナヂ。内外面灰褐色。1mm以下の長石少量含む。	2008
5 榎風	E Wf	青磁	鐵	口縁、外側壁に凹痕、内面縫による押圧記とへづき記。輪は薄く底部ド平滑部。耐土さめ細く灰白色。観察。	2009
6 榎風	E Wf	石器	砾石	左側面と表面に擦痕。目の細かい砂岩。	2009
7 榎風	E Wf	石駆石	研磨用	上部と左翼間に擦痕。黑色絶妙青。砥石使用。	2011
出土位置 遺構	種別	特徴	部位	調整、その他の特徴	実測 番号
1 SR1 e 北 Eg 頃思器 坏	口縁	外表面圓軸ナヂ。内外面灰白色。1mm以下の長石少量含む。			3075
2 SR1 e 北 Eg 頃思器 壺身	受部	内外面圓軸ナヂ。内外面灰白色。1mm以下の長石少量含む。			3088
3 SR1 e 北 Eg 頃思器 壺身	口縁	内外面圓軸ナヂ。内外面灰白色。1mm以下の長石少量含む。			3148
4 SR1 e 北 Eg 頃思器 坏	口縁	外表面々々、内面圓軸ナヂ。内外面灰白色。1mm以下の長石少量含む。			3153
5 SR1 e 北 Eg 頃思器 壺身	底部	内外面圓軸ナヂ。内外面灰白色。1mmの長石・灰褐色少量含む。			3152
6 SR1 e 北 Eg 頃思器 壺	口縁	内外面圓軸ナヂ。内外面灰白色。1~2mmの長石少量含む。			3073
7 SR1 e 北 Eg 頃思器 瓷	口縁	内外面圓軸ナヂ。内外面灰白色。3mm以下の長石・石英少量含む。			3146
8 SR1 e 北 Eg 頃思器 壺	底部	外表面平行タキシヘラ状工具によるナヂ。内外面灰黃褐色、内面にぶい褐色。赤朱けの痕跡。			3145

図89 Ⅲ区SR-1 e 2層出土遺物

出土位置	種別	器種	部位	測定・その他の特徴	実測番号
遺構 納骨 地区					
1 SR1_e2号 Ⅲa南	須恵器	环盤	口縁	内外面回転ナメ。外縁ヘラケズリ。内外面灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3126
2 SR1_e2号 Ⅲa南	須恵器	环盤	全体	内外面回転ナメ。外縁ヘラケズリ。内外面灰白色。1~3mmの長石少量含む。	3065
3 SR1_e2号 Ⅲa北	須恵器	环身	底部	内外面回転ナメ。内面底定方向ナメ。外縁ヘラケズリ。内外面灰白色。	3125
4 SR1_e2号 Ⅲa北	須恵器	尊	口縁	内外面回転ナメ。内面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	3130
5 SR1_e2号 Ⅲa南	須恵器	置小罐	脚部	内外面回転ナメ。内外面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	3062
6 SR1_e2号 Ⅲa南	須恵器	鉢	口縁	内外面回転ナメ。内面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	3045
7 SR1_e2号 Ⅲa南	須恵器	环小皿	底部	内外面回転ナメ。内外面灰白色。1mm以下の長石少量含む。火漆が入る。	3061
8 SR1_e2号 Ⅲa南	須恵器	長盞形	側部	内外面回転ナメ。内外面灰白色。1mm以下の長石・石英少量含む。	3064
9 SR1_e2号 Ⅲa南	須恵器	盞形	底	外縁平行タキカツナメ。内面青海波文模様ナメ。外縁灰白色、内面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	3063
10 SR1_e2号 Ⅲa北	須恵器	盞形	脚部	外縁平行タキカツナメ。内面青海波文模様ナメ。外縁灰白色、底面赤褐色。長石少量含む。	3084
11 SR1_e2号 Ⅲa北	土師器	环	底部	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	3085
12 SR1_e2号 Ⅲa北	土師器	金形	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。1~2mmの長石少量含む。	3083
13 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	口縁	内外面回転ナメ。外縁灰白色。1mm以下の長石少量含む。瓦質に近い。	3056
14 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	全形	内外面回転ナメ。底部斜面切り。外縁に深い青褐色、内面浅青褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。	3122
15 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。底盤上に1mm以下の長石少量含む。	3124
16 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。内外面灰白色。底盤上に長石・石英少量含む。	3060
17 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。底盤斜面へり切。内外面灰白色。石英・石英少量含む。	3054
18 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁に深い黄褐色、内面灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3048
19 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面灰白色。内面灰褐色。長石少量含む。軟質の須恵器の質感。	3066
20 SR1_e2号 Ⅲa北	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。内面に深い黒色。1mm以下の長石少量含む。	3087
21 SK1_e2号 Ⅲa北	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面に深い黒色。1mm以下の長石少量含む。	3086
22 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面に深い黒色。1~2mmの長石・石英少量含む。	3049
23 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。底盤斜面へり切。内外面灰白色。0.5mm以下の長石少量含む。	3058
24 SR1_e2号 Ⅲb南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面に深い黒色。1mm以下の長石少量含む。	3128
25 SR1_e2号 Ⅲb南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面灰白色。2~3mmの長石・石英多く含む。	3057
26 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。斜面上に1mmの長石・石英少量含む。	3059
27 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。斜面上に1mmの長石少量含む。	3046
28 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。内面に深い黒色。1mm以下の長石少量含む。	3055
29 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面灰黑色。1mm以下の長石少量含む。	3047
30 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、底面墨化跡。1mmの長石・石英少量含む。	3063
31 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面灰白色。1mm以下の長石・石英少量含む。	3131
32 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3129
33 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁に深い黒色。1mmの長石・石英少量含む。	3062
34 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3050
35 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。内面灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3123
36 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	麦小鉢	口縁	内外面回転ナメ。外縁に深い黒色、内面灰褐色。1mmの長石・石英少量含む。	3052
37 SR1_e2号 Ⅲa南	土師器	鉢	口縁	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面灰褐色。0.5mm以下の長石少量含む。	3051
38 SR1_e2号 Ⅲb南	石器	製片	裏面	泥岩質。	3127

図90 Ⅳ区SK-1 c層出土遺物

出土位置	種別	器種	部位	測定・その他の特徴	実測番号
遺構 納骨 地区					
1 SK2_c層 Ⅲb北	須恵器	环身	受部	内外面回転ナメ。外縁灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3172
2 SK2_c層 Ⅲc南	須恵器	金形	底	外縁回転ヘラケズリナメ。内面底面凸起部。精製土。	3180
3 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	全形	内外面回転ナメ。外縁に深い黄褐色、内面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	3184
4 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	口縁	内外面回転ナメ。外縁に深い黒色。2mm以下の長石・石英少量含む。	3185
5 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	碗	口縁	内外面回転ナメ。外縁灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	3191
6 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、底面墨化跡。1mm以下の長石少量含む。	3188
7 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁に深い黄褐色、内面灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3187
8 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰褐色、内面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	3182
9 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3179
10 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面磨耗。外縁灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。軟質。	3189
11 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色、内面灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3177
12 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。底盤斜面切り。外縁灰白色、内面に深い黒色。1mm以下の長石少量含む。	3181
13 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。内面灰白色。1mm以下の長石少量含む。軟質。	3178
14 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3176
15 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。底盤斜面切り。外縁灰白色。内面灰白色、外縁灰白色。1mm以下の長石少量含む。	3190
16 SK2_c層 Ⅲc南	土師器	环	底	内外面回転ナメ。外縁に深い黒色、内面灰白色。2mm以下の長石少量含む。	3183

17	SX2	c層	Ⅲb北	土師器	直	口縁	内外面回転ナデ。外面部灰白色。1mm以下の長石・石英少量含む。	3171
18	SX2	c層	Ⅲc南	土師器	鉢	口縁	外面部ハケメ。内面部ナデ。内面部にぶい黄褐色、外面部灰褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。	3186

図91 Ⅲ区擾乱出土遺物

出土位置 遺構	層位 地区	種別	器種	部位	測量・その他の特徴			実測 番号
					底	内面部	外面部	
1	擾乱	Ⅲ	須恵器	罐	口縁	口縁下部灰白色。内面部回転ナデ。外面部灰褐色。内面部赤褐色。底部灰褐色。	精製土。	3005
2	擾乱	Ⅲ	土師器	环	底部	内外面回転ナデ。底部灰褐色。内面部灰褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。		3001
3	擾乱	Ⅲ	土師器	环	底部	内外面回転ナデ。内面部灰褐色。	1~2mmの長石少量含む。	3009
4	擾乱	Ⅲb	土師器	环	底部	内外面回転ナデ。内面部灰褐色。内面部灰白色。1mm以下の長石少量含む。		3014
5	擾乱	Ⅲ	土師器	直	底部	外面部灰白色。内面部灰白色。1~2mmの長石少量含む。		3001
6	擾乱	Ⅲ	土師器	环	底	内面部回転ナデ。内面部灰褐色。内面部灰白色。1~2mmの長石少量含む。		3013
7	擾乱	Ⅲ	土師器	环	底	内面部回転ナデ。外面部灰黄色。内面部灰褐色。1~2mmの長石少量含む。		3011
8	擾乱	Ⅲ	土師器	直	全形	外面部回転ナデ。外面部灰褐色。内面部灰白色。1~2mmの長石少量含む。		3008
9	擾乱	Ⅲc	瓦器	筒	口縁	外面部回転ナデ。内面部灰白色。器表無表面状。	精製土。	3016
10	擾乱	Ⅲ	土師器	瓶	底部	内面部回転ナデ。内面部灰褐色。1mm以下の長石少量含む。		3003
11	擾乱	Ⅲ	青磁	碗	口縁	外面部墨青色。口縁墨青の内面部に2条の帯状。薄い透明感のある釉。質乳あり。わずかに黒色を含む。	底白色の前上。やや軟質。	3007
12	擾乱	Ⅲ	陶器	盒	側部	外面部平行タキ後。横ナデ。内面部ナデ。	内面部灰褐色。長石・石英少量含む。赤抜けの須質。	3002
13	擾乱	Ⅲc	備前焼	搖搖	口縁	外面部回転ナデ。外面部灰褐色。内面部灰褐色。1mm以下の灰白色。燒成非常に堅調。		3015
14	擾乱	Ⅲ	備前焼	搖搖	底部	内面部回転ナデ。内面部灰褐色。3mm程かい灰白色。燒成非常に堅調。		3010
15	擾乱	Ⅲ	土師器	羽釜	脚部	ナデ。にぶい褐色。	1~2mmの長石・石英少量含む。	3006
16	擾乱	Ⅲ	土師器	不明	側部	外面部灰褐色。内面部灰色。	1mm以下の長石少量含む。軟質。鍛熱。	3012

図93 Ⅳ区SR-1c層出土遺物

出土位置 遺構	層位 地区	種別	器種	部位	測量・その他の特徴			実測 番号
					底	内面部	外面部	
1	SR1 c層	Ⅴa中	弥生土器	直	口縁	外面部磨滅。外面にぶい黄褐色。内面部灰褐色。1~3mmの長石・石英少量含む。		4069
2	SR1 c層	Ⅴa西	土師器	环	底	内面部磨滅。内面部灰褐色。		4186
3	SR1 c層	Ⅴa西	土師器	环	底	内面部回転ナデ。外面部灰白色。内面部灰褐色。2mm以下の長石少量含む。		4077
4	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	环	底	内面部回転ナデ。内面部ナデ。内面部灰褐色。	精製土。	4071
5	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	直	底	内面部回転ナデ。外面部灰白色。長石少量含む。		4197
6	SR1 c層	Ⅴa東	土師器	环	底	内面部回転ナデ。底面部墨黒アラク。内面部灰白色。長石少量含む。		4079
7	SR1 c層	Ⅴa東	土師器	环	底	内面部回転ナデ。内面部灰白色。2mm以下の長石少量含む。		4067
8	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	直	口縁	外面部回転ナデ。内面部灰白色。内面部灰褐色。0.5mm以下の長石少量含む。		4018
9	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	直	全形	外面部回転ナデ。外面部灰白色。内面部灰褐色。2mm以下の長石少量含む。		4195
10	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	直	底	内面部回転ナデ。外面部灰褐色。内面部灰白色。2mm以下の長石少量含む。		4017
11	SR1 c層	Ⅴa中	須恵器	筒	口縁	外面部回転ナデ。内面部灰褐色。精製土。火拂が入る。		4072
12	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	筒	口縁	内面部回転ナデ。内面部灰白色。2mm以下の長石少量含む。		4073
13	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	直	口縁	内面部回転ナデ。外面部灰白色。内面部にぶい黄褐色。1mm以下の長石少量含む。		4081
14	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	筒	底	内面部回転ナデ。内面部灰白色。0.5mm以下の長石少量含む。		4184
15	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	筒	底	内面部磨滅。内面部灰褐色。1mm以下の長石少量含む。		4080
16	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	直	外面部	内面部回転ナデ。底面部墨黒アラク。底面部墨黒糸切りと底面部合貼付。外面部灰褐色。内面部灰褐色。精製土に長石少量含む。		4016
17	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	筒	底	内面部回転ナデ。外面部灰白色。内面部灰褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。黒色土器の可能性あり。		4196
18	SR1 c層	Ⅴc中	土師器	直	底	内面部丁寧な墨黒ナデ。底面部墨黒糸切りと底面部合貼付。精製土に1~2mmの長石少量含む。		4198
19	SR1 c層	Ⅴa中	黒色土器(内面)灰	直	底	内面部回転ナデ。内面部灰褐色。内面部灰褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。		4068
20	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	直	底	内面部回転ナデ。外面部灰白色。内面部にぶい黄褐色。長石少量含む。		4076
21	SR1 c層	Ⅴa中	瓦器	筒	底	内面部回転ナデ。内面部泥な感じがあり。内面部泥は定方的の重いミガキ。外面部ミガキは暗斜向。内面部灰褐色。底面灰褐色。		4074
22	SR1 c層	Ⅴa西	土師器	直	底	内面部回転ナデ。外面部灰褐色。内面部灰白色。1~2mmの長石少量含む。		4066
23	SR1 c層	Ⅴa西	土師器	直	底	器壁薄く高台型。内面部回転ナデ。外面部灰褐色。内面部灰白色。0.5mm以下の長石少量含む。		4083
24	SR1 c層	Ⅴa西	土師器	直	底	内面部磨滅。外面部灰褐色。内面部灰褐色。1mm以下の長石少量含む。		4082
25	SR1 c層	Ⅴa	青磁	碗	体部	見込みに掘削。外面部リブや灰色の厚めの糊。灰白色の緻密な歯土。		4019
26	SR1 c層	Ⅴa中	須恵器	こね鉢	口縁	内面部回転ナデ。内面部灰褐色。きめ細かい歯土に、粗粒砂少量混じる。		4070
27	SR1 c層	Ⅴa中	土師器	こね鉢	口縁	内面部回転ナデ。口縁部内面強いナデ。外面部灰褐色。内面部灰褐色。長石少量含む。		4075
28	SR1 c層	Ⅴa西	土師器	羽釜	口縁	内面部回転ナデ。内面部墨黒ハケメ。内面部灰褐色。1~2mmの長石少量含む。		4185
29	SR1 c層	Ⅴa中	陶器	おひき	底	底面部回転ナデ。おひき目録道に一筋。内面部灰白色。1mm以下の長石少量含む。		4078

図94・95 N区SR-1e1層出土遺物

出土位置	種別	器種	部位	測量・その他の記載	実測 番号
遺構 破壊 地区	鉢	口縁			
1 SRI-e1層 N区	須恵器	環甕	天井部	内外面回転ナメ。外側灰白色、内面灰褐色。1~3mmの長石少量含む。	4107
2 SRI-e1層 N区	須恵器	环甕	口縁	内外面回転ナメ。外側灰褐色、内面暗褐色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4106
3 SRI-e1層 N区	須恵器	平身	底盤	内外面回転ナメ。外側灰褐色。内面灰褐色。底盤に当たる。外側灰白色、内面灰褐色。長石少量含む。	4126
4 SRI-e1層 N区	土師器	环	口縁	内外面回転ナメ。外側に赤い模様。精製土に1mm以下の長石少量含む。	4088
5 SRI-e1層 N区	土師器	环	口縁	内外面回転ナメ。内面淡黄褐色。精製土に1mm以下の長石少量含む。	4205
6 SRI-e1層 N区	土師器	皿	口縁	内外面回転ナメ。内面灰白色。精製土。	4115
7 SRI-e1層 N区	土師器	环	口縁	内外面回転ナメ。内面灰褐色。精製土に1mm以下の長石・石英少量含む。	4207
8 SRI-e1層 N区	土師器	环	底部	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰白色。精製土に長石少量含む。状質の須恵器の質感。	4097
9 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰褐色、内面に赤い模様。1mm以下の長石・石英少量含む。	4099
10 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰白色、内面灰褐色。精製土に長石少量含む。	4093
11 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。外側灰褐色、内面灰白色。1mm以下の長石少量含む。	4023
12 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。内面灰褐色。精製土。	4120
13 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰白色。精製土。秋葉の須恵器の質感。	4104
14 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。外側に赤い模様。1mm以下の長石・石英少量含む。	4110
15 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。内面灰白色。精製土に1mm以下の長石・石英少量含む。	4116
16 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰白色。精製土。状質の須恵器の質感。	4114
17 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側に赤い模様。内面灰褐色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4117
18 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰褐色。長石少量含む。	4119
19 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。1mm以下の長石少量含む。	4098
20 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰白色。1mm以下の長石少量含む。	4089
21 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。内面淡黄褐色。2mm以下の長石・石英少量含む。	4103
22 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。内面灰褐色。1~2mmの長石少量含む。	4105
23 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。内面灰白色。1mm以下の長石少量含む。	4026
24 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側に赤い模様。精製土に1mm以下の長石・石英少量含む。	4100
25 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。内面灰褐色。1mm以下の長石少量含む。	4112
26 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰褐色。精製土に1mm以下の長石・石英少量含む。	4014
27 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰白色。1mm以下の長石少量含む。	4102
28 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。内面灰白色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4090
29 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側に赤い模様。精製土に1mm以下の長石・石英少量含む。	4214
30 SRI-e1層 N区	土師器	环	底盤	内外面回転ナメ。内面灰褐色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4123
31 SRI-e1層 N区	土師器	环	小口縁	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰褐色。内面淡黄褐色。	4109
32 SRI-e1層 N区	土師器	皿	口縁	内外面回転ナメ。内面灰褐色。長石少量含む。	4092
33 SRI-e1層 N区	土師器	皿	全形	内外面回転ナメ。内面灰白色。1mm以下の長石・石英少量含む。瓦質に近い。	4094
34 SRI-e1層 N区	土師器	皿	底盤	内外面回転ナメ。内面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	4023
35 SRI-e1層 N区	土師器	皿	口縁	内外面回転ナメ。内面に赤い模様。1mm以下の長石少量含む。	4027
36 SRI-e1層 N区	土師器	皿	全形	内外面回転ナメ。内面灰白色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4021
37 SRI-e1層 N区	土師器	皿	全形	内外面回転ナメ。内面に赤い模様。1mm以下の長石・石英少量含む。	4208
38 SRI-e1層 N区	土師器	皿	全形	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰褐色。1mm以下の長石・石英少量含む。やや軟質。	4204
39 SRI-e1層 N区	土師器	皿	全形	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰褐色。内面淡黄褐色。2mm以下の長石・石英多く含む。	4091
40 SRI-e1層 N区	土師器	碗	完全形	内外面回転ナメ。底盤に糞糸余。外側灰褐色。1~3mmの長石・石英少量含む。	4015
41 SRI-e1層 N区	土師器	碗	口縁	内外面回転ナメ。外側灰白色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4096
42 SRI-e1層 N区	土師器	碗	口縁	内外面回転ナメ。内面灰褐色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4206
43 SRI-e1層 N区	黒色土器(内)桶	口縁		内外面回転ナメ。内面ミカキ。外側灰白色。内面灰褐色。	4087
44 SRI-e1層 N区	土師器	碗	底盤	内外面回転ナメ。内面灰褐色。内面灰白色。精製土。	4095
45 SRI-e1層 N区	土師器	碗	底盤	内外面回転ナメ。内面灰褐色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4101
46 SRI-e1層 N区	黒色土器(内)桶	底盤		内外面回転ナメ。底盤固定方向ミカキ。外側淡黄褐色。内面灰褐色。	4024
47 SRI-e1層 N区	黒色土器(内)桶	底盤		外側灰褐色。内面ミカキ。外側灰褐色。内面灰褐色。1mm以下の長石・石英含む。	4118
48 SRI-e1層 N区	黒色土器(内)桶	底盤		内外面回転ナメ。内面ミカキ。外側黄褐色。内面灰褐色。1mm以下の長石少量含む。	4025
49 SRI-e1層 N区	黒色土器(内)桶	底盤		内外面回転ナメ。内面固定方向ミカキ。外側に赤い模様。内面灰褐色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4086
50 SRI-e1層 N区	黒色土器(内)桶	底盤		内外面回転ナメ。外側灰褐色。内面灰褐色。1mm以下の長石・石英少量含む。	4113
51 SRI-e1層 N区	土師器	土鍋	刷毛	内面粗い織り目。内面灰褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。	4203
52 SRI-e1層 N区	土師器	土鍋	口縁	内面粗い織り目。内面灰褐色。内面灰褐色。さめ組かい土台に石英・長石少量含む。	4020
53 SRI-e1層 N区	須恵器	壺	頭部	内外面回転ナメ。内面青黄水。精製土。	4108
54 SRI-e1層 N区	須恵器	壺	底盤	内外面回転ナメ。内面白色。精製土。	4085
55 SRI-e1層 N区	須恵器	頭分壺	脚部	内面ハケメ接ナメ。内面ナメ。内面淡黄褐色。内面に赤い模様。長石・石英少量含む。	4004

8	-	■崩	■We	鉄器	鏡	釘部	身部断面方柱状、釘部はやや扁平。	2131
9	SRI	a-b界	I b	鉄器	不明	不明	U字状に溝曲。片側断面断面は五角形状、もう片側断面は扁平板状。	1154
10	SP440	II WI	鉄器	不明	不明	不明	鏡状。	2590
11	SRI	○壺上	I n	鉄漆	-	-	重量31.4g。	1151
12	-	■崩	II Ee	鉄漆	-	-	重量21.0g。	2586
13	-	■崩	II We	鉄漆	-	-	重約5.3g。	2132
14	SP627	II Ef	鉄漆	-	-	-	重量5.0g。	2587